

**丸亀市**  
**介護予防・日常生活圏域ニーズ調査**  
**結果報告書**

**令和2年8月**

# 丸亀市

## 目次

<b>I</b>	<b>調査概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査目的 .....	1
2	調査設計 .....	1
3	報告書の見方.....	1
4	評価項目の判定について.....	1
<b>II</b>	<b>回答者の属性</b> .....	<b>2</b>
1	性別 .....	2
2	年齢構成 .....	2
3	認定状況 .....	3
4	日常生活圏域.....	4
<b>III</b>	<b>調査の結果</b> .....	<b>5</b>
1	あなたのご家族や生活状況について.....	5
	(1) 家族構成について .....	5
	(2) 介護・介助の状況について.....	7
	(3) 現在の経済状況 .....	9
2	からだを動かすことについて.....	11
	(1) 運動器の機能について.....	11
	(2) 転倒について .....	12
	(3) 閉じこもり傾向について.....	13
3	食べることについて.....	19
	(1) BMI 算出 .....	19
	(2) 口腔機能について .....	19
	(3) 孤食の状況について .....	20
4	毎日の生活について.....	22
	(1) 認知機能について .....	22
	(2) I ADL<手段的日常生活動作>について (老研式活動能力指標) .....	22
	(3) 他の人に手助けしてほしいことについて.....	25
5	地域での活動について.....	27
	(1) 社会参加の状況 .....	27
	(2) 地域づくりへの参加意向 (参加者) .....	33
	(3) 地域づくりへの参加意向 (企画・運営) .....	35
6	たすけあいについて.....	37
	(1) 心配事などの相談相手について.....	37

(2) 病気の際の世話人について.....	41
7 健康について.....	45
(1) 主観的健康感 .....	45
(2) 主観的幸福感 .....	47
(3) うつ傾向について .....	49
(4) 喫煙の習慣 .....	50
(5) 現在治療中、後遺症のある病気について.....	51
8 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	53
(1) 認知症の把握について.....	53
(2) 認知症に関する相談について.....	55
9 介護について.....	57
(1) 介護が必要になった場合に希望する暮らし方について.....	57
(2) 最期を迎える場所の希望.....	59
10 評価項目別の判定結果.....	63
(1) 運動器の機能低下 .....	64
(2) 転倒リスク .....	66
(3) 閉じこもり傾向 .....	68
(4) 認知機能の低下 .....	70
(5) うつ傾向 .....	72
(6) IADL－手段的日常動作.....	74

# I 調査概要

## 1 調査目的

本調査は「第8期丸亀市介護保険事業計画（令和3年度から令和5年度）」の策定に向けて、高齢者の生活状況や心身の状況、支援のニーズなどについて把握し、基礎資料とすることを目的に実施するものです。

## 2 調査設計

- (1) 調査対象 65歳以上の丸亀市在住の高齢者より無作為抽出（要介護1～5以外の方）
- (2) 実施期間 令和元年12月5日～令和2年1月10日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

配布数	有効回収数	有効回答率
3,000	2,095	69.8%

## 3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数（母数）の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。

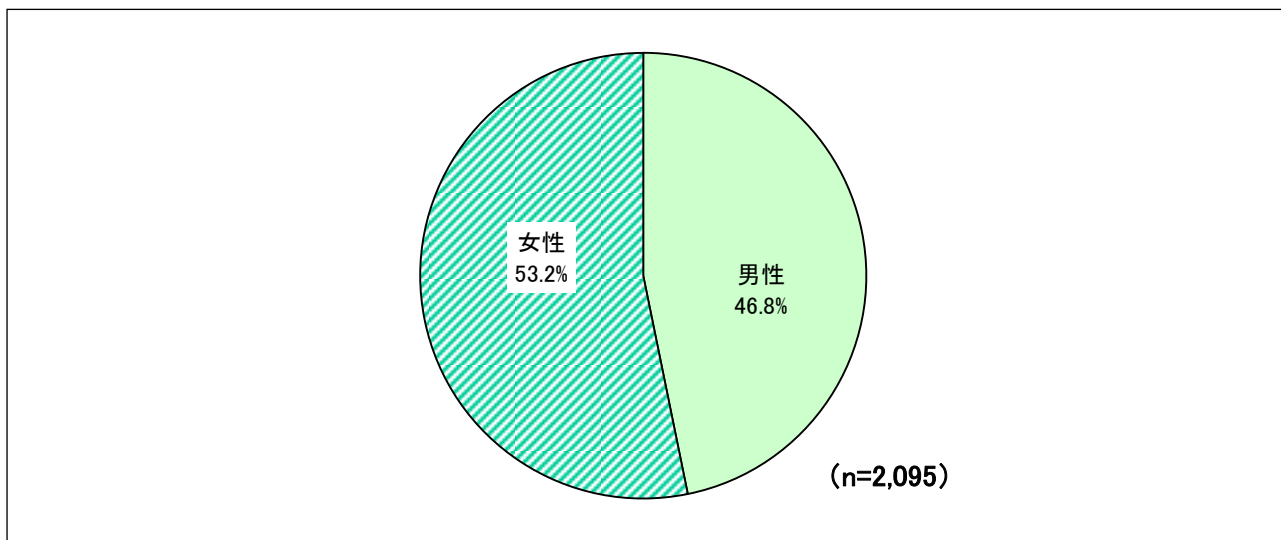
## 4 評価項目の判定について

評価項目別の判定結果については、国が配布した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き、及び老研式活動能力指標に基づき集計したものです。

## Ⅱ 回答者の属性

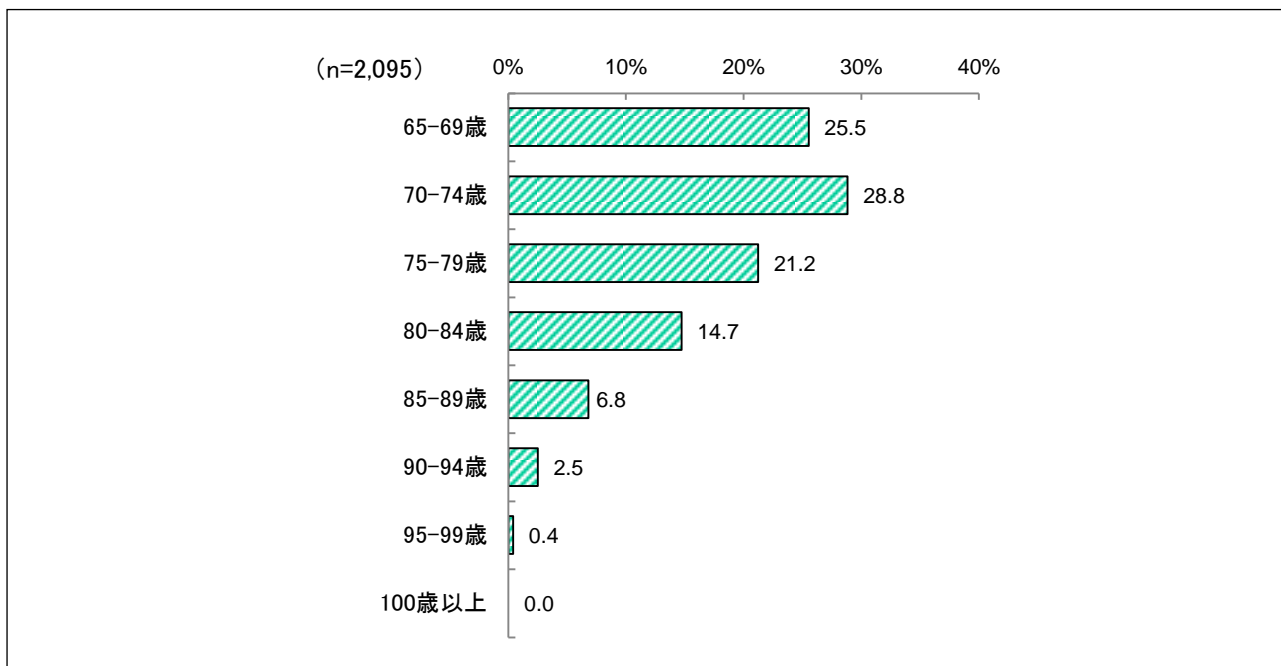
### 1 性別

回答者の性別は、「男性」が46.8%、「女性」が53.2%となっており、女性が6.4ポイント上回っています。

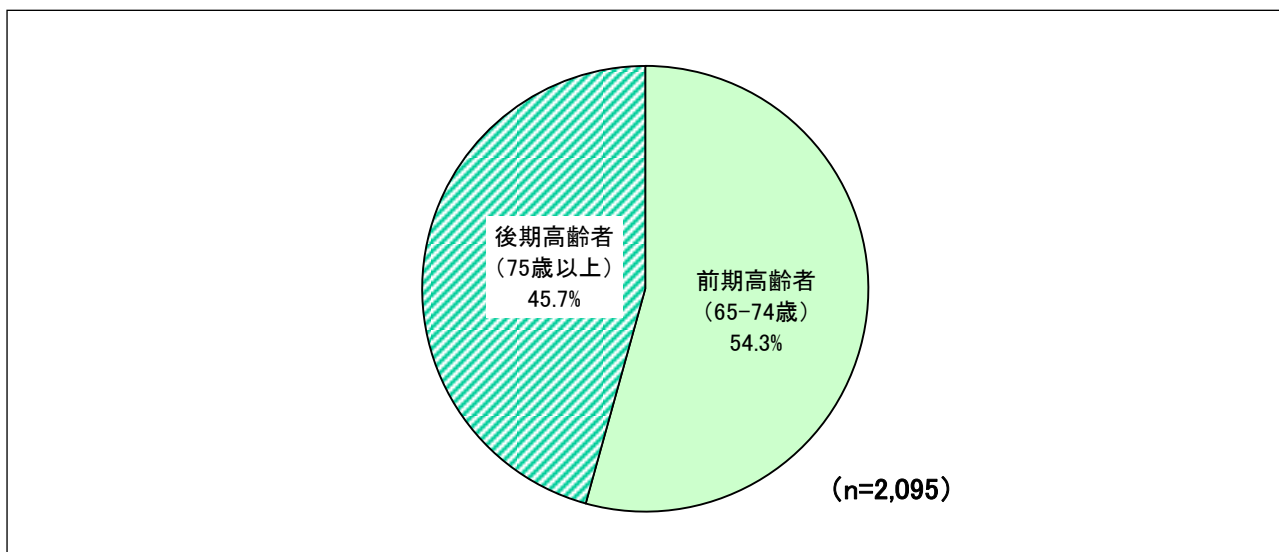


### 2 年齢構成

回答者の年齢は、「70-74歳」が28.8%で最も高く、次いで「65-69歳」(25.5%)、「75-79歳」(21.2%)となっています。

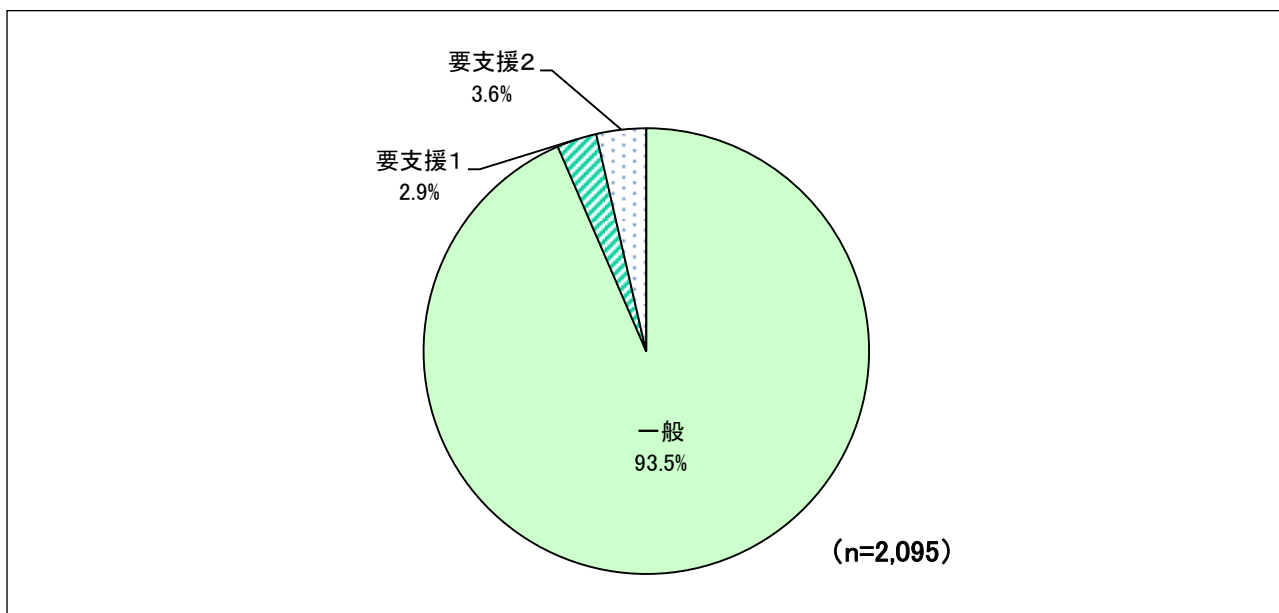


年齢を 65～74 歳の前期高齢者と 75 歳以上の後期高齢者とに分類すると、前期高齢者が 54.3%と過半数を占め、後期高齢者は 45.7%となっています。



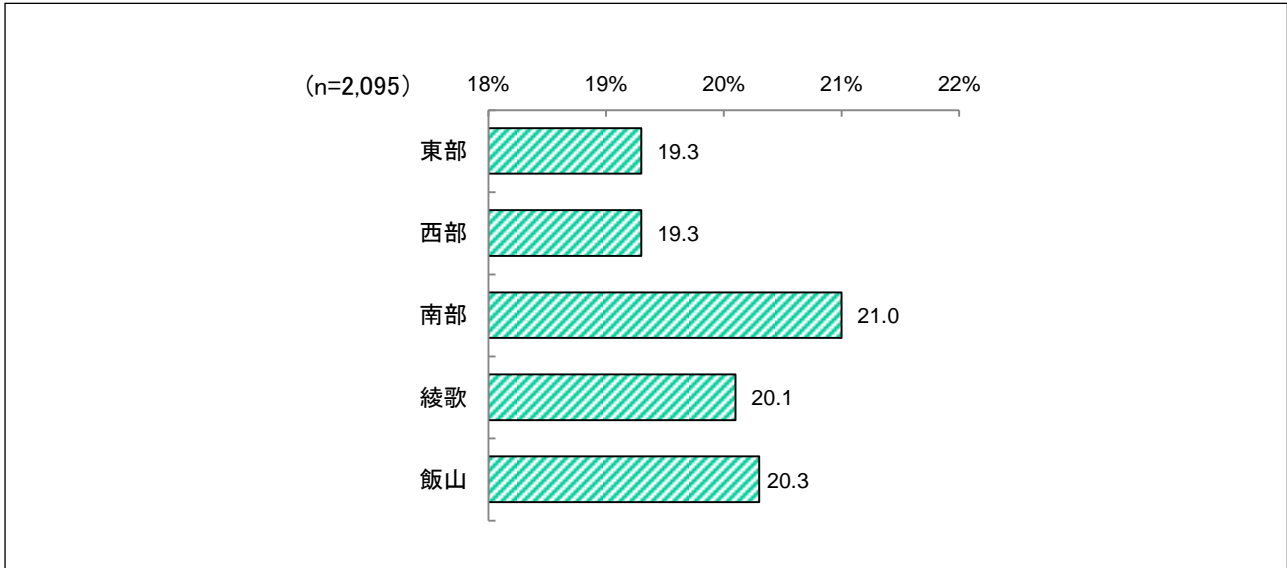
### 3 認定状況

回答者の認定状況を見てみると、「一般」が 93.5%と大半を占めており、「要支援 1」が 2.9%、「要支援 2」が 3.6%となっています。



#### 4 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域をみると、「南部」が21.0%と最も高く、次いで「飯山」(20.3%)、「綾歌」(20.1%)、「東部」「西部」(19.3%)となっています。



### Ⅲ 調査の結果

#### 1 あなたのご家族や生活状況について

##### 問 1 (1) 家族構成をお教えてください

##### 【全体の傾向】

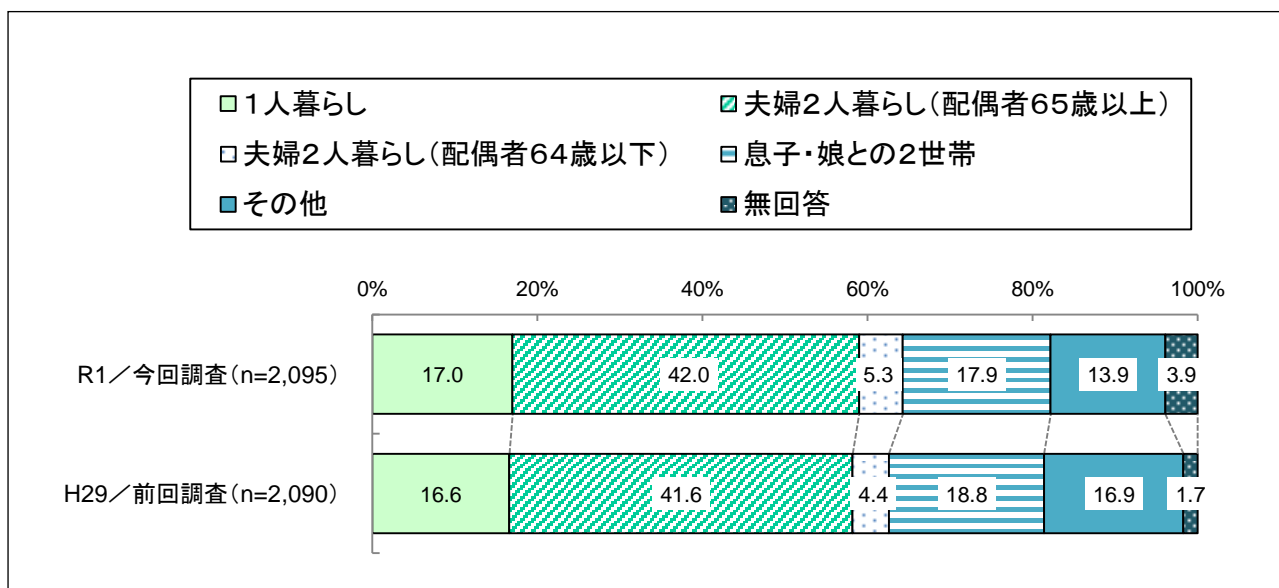
家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が42.0%と最も高くなっており、次いで「息子・娘との2世帯」（17.9%）となっています。

前回調査と比較すると、「息子・娘との2世帯」が減少しています。

##### 【属性別の傾向】

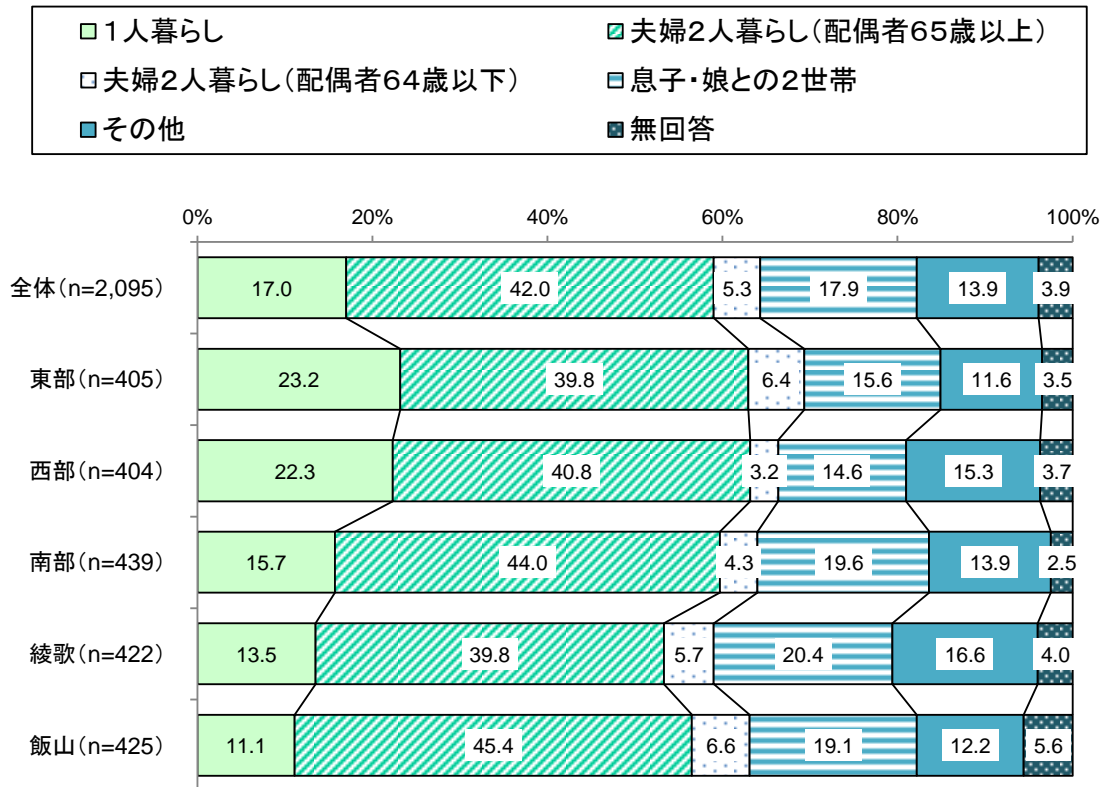
圏域別にみると、東部、西部では「1人暮らし」が2割を超えています。

図表 1 家族構成について（全体、前回比較）





図表 2 家族構成について（全体、圏域別）



問 1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

【全体の傾向】

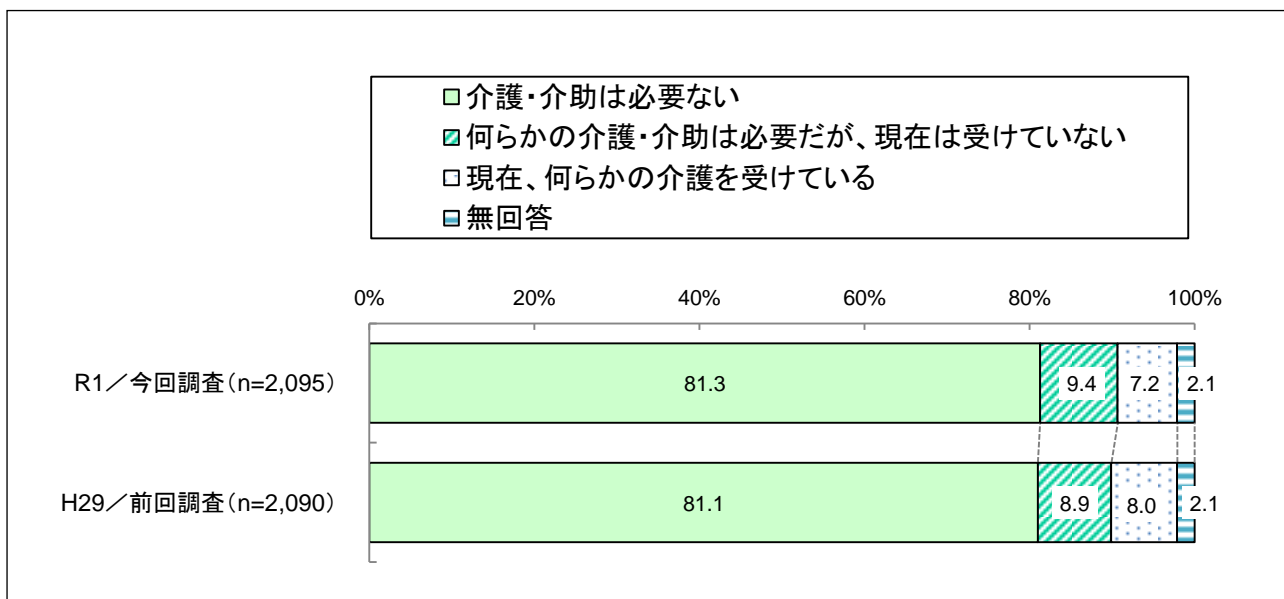
普段の生活における介護の必要性についてみると、81.3%が「介護・介助は必要ない」と回答しています。

前回調査と比較すると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が0.5ポイント増加しています。

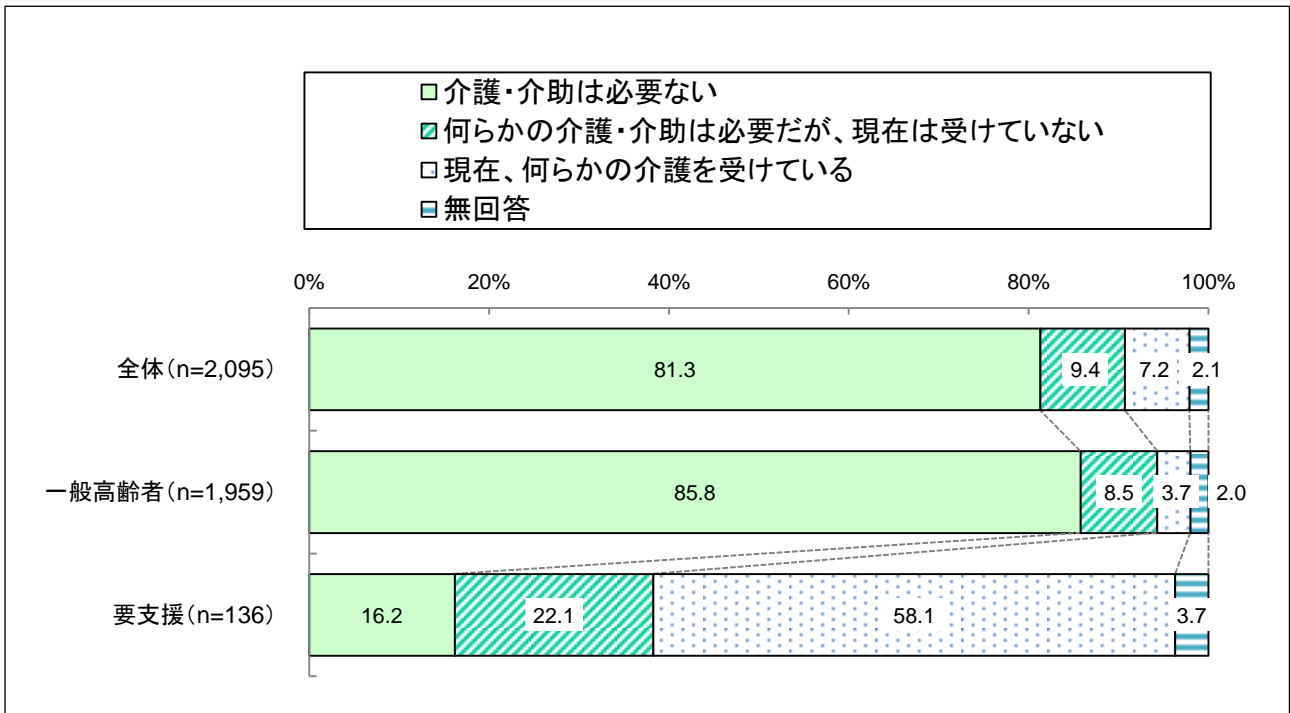
【属性別の傾向】

認定状況別にみると、一般高齢者の85.8%が「介護・介助は必要ない」と回答しています。また、要支援者の22.1%は、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」状態にあります。

図表 3 介護の必要性（全体、前回比較）



図表 4 介護・介助の必要性（全体、認定状況別）



問 1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

【全体の傾向】

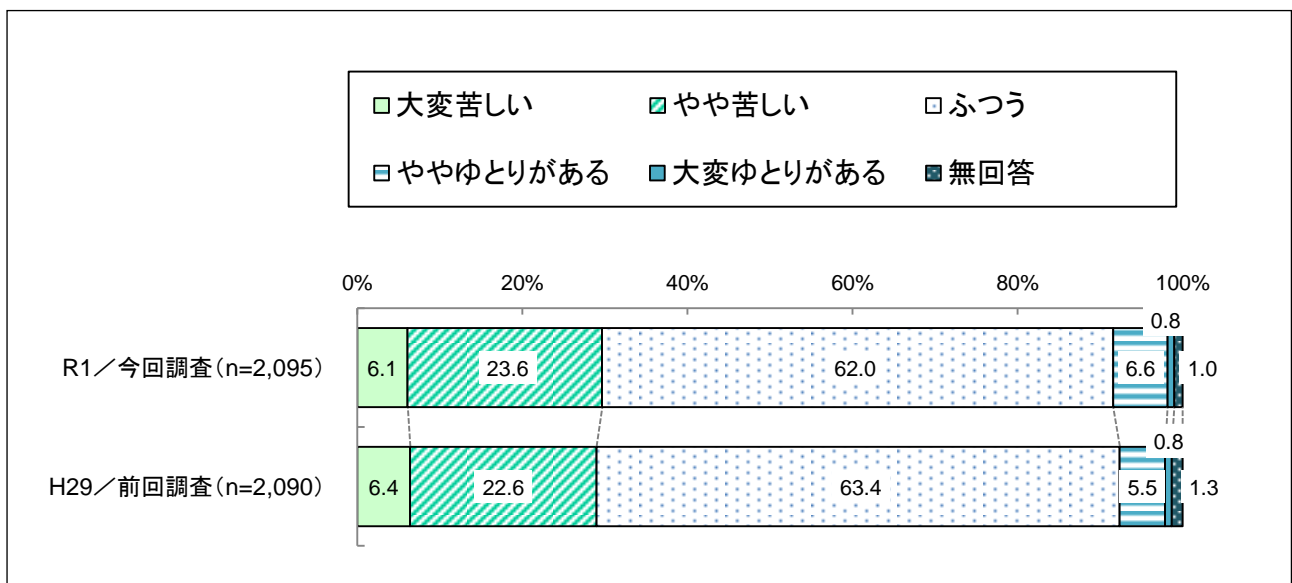
現在の暮らしの経済状況を見ると、「ふつう」が 62.0%を占めています。一方、「大変苦しい」(6.1%)と「やや苦しい」(23.6%)を合計した『苦しい』は 29.7%であるのに対し、「ややゆとりがある」(6.6%)と「大変ゆとりがある」(0.8%)を合わせた『ゆとりがある』は 7.4%にとどまっています。

前回調査と比較すると、「やや苦しい」が 1.0 ポイント増加していますが、「ややゆとりがある」も 1.1 ポイント増加しています。

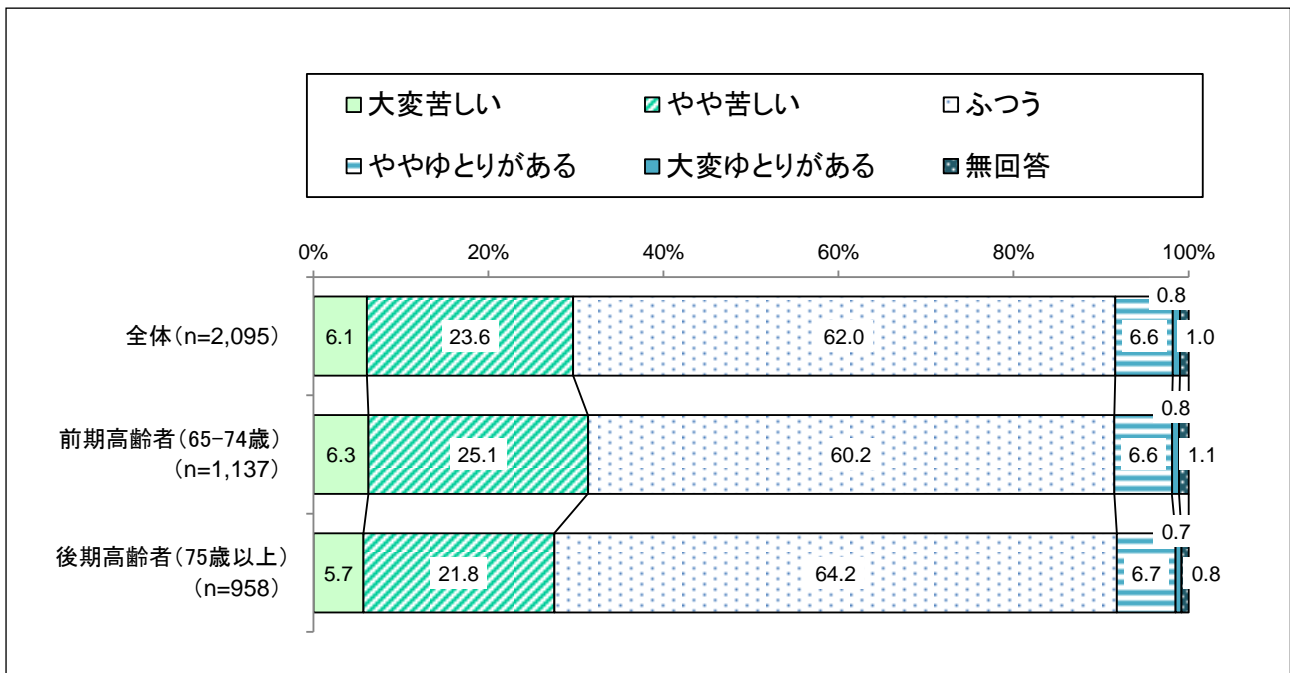
【属性別の傾向】

年齢構成別にみると、全体と同様の傾向となっていますが、『苦しい』は前期高齢者(31.4%)が後期高齢者(27.5%)を 3.9 ポイント上回っています。

図表 5 現在の経済状況について(全体、前回比較)



図表 6 現在の経済状況について（全体、年齢構成別）



## 2 からだを動かすことについて

### (1) 運動器の機能について

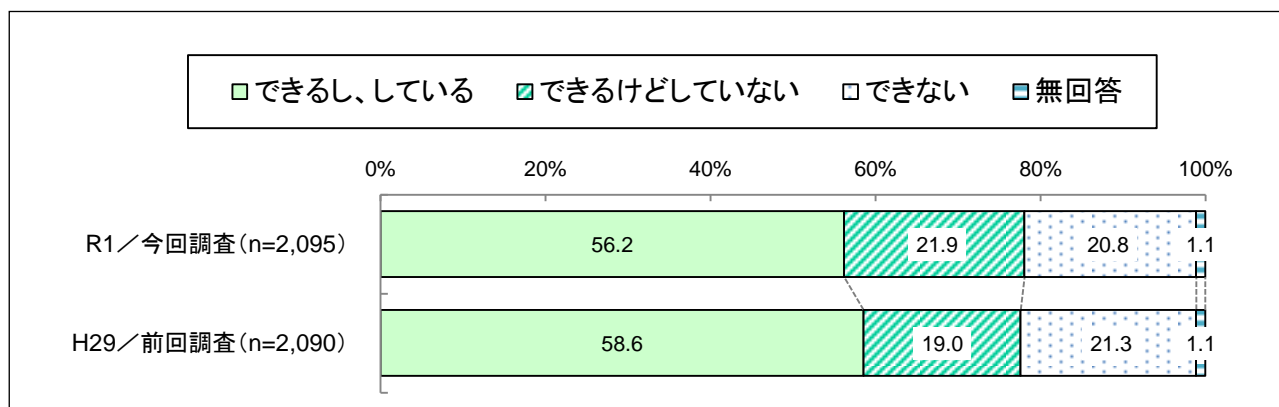
問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

#### 【全体の傾向】

階段を手すり等を使用せずに昇れるかどうかについてみると、「できるし、している」が56.2%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.4ポイント減少しています。

図表 7 階段を手すり等を使用せずに昇れるか（全体、前回比較）



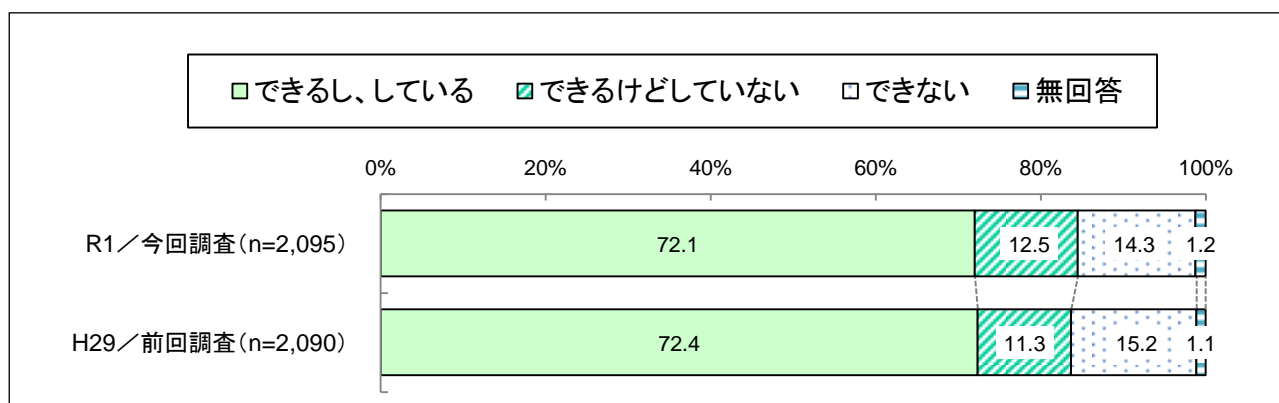
問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

#### 【全体の傾向】

椅子から何もつかまらずに立ち上がれるかどうかについてみると、「できるし、している」が72.1%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「できるけどしていない」が1.2ポイント増加しています。

図表 8 椅子に座った状態から立ち上がれるか（全体、前回比較）



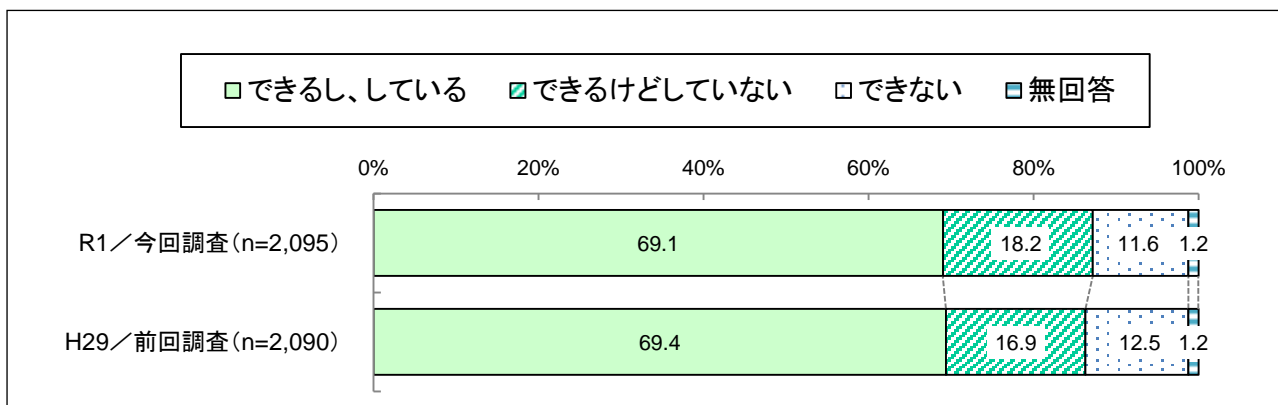
問2 (3) 15分くらい続けて歩いていますか

【全体の傾向】

15分くらい続けて歩いているかどうかについてみると、「できるし、している」が69.1%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「できるけどしていない」が1.3ポイント増加しています。

図表9 15分くらい続けて歩いているか（全体、前回比較）



(2) 転倒について

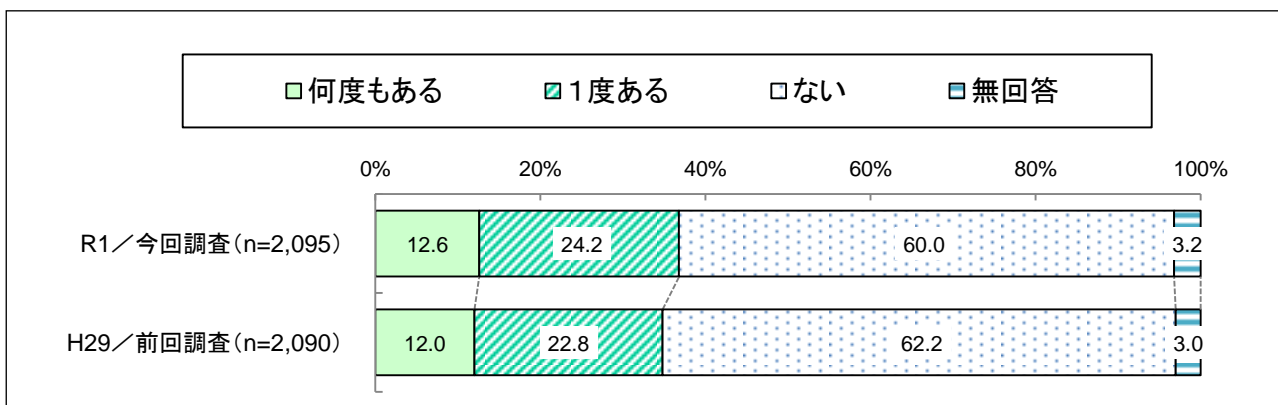
問2 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

【全体の傾向】

過去1年間における転倒経験の有無についてみると、60.0%が「ない」と回答しています。一方、「何度もある」(12.6%)と「1度ある」(24.2%)を合計すると、36.8%が『転倒経験が1度以上ある』と回答しています。

前回調査と比較すると、『転倒経験が1度以上ある』が2.0ポイント増加しています。

図表10 転倒の経験（全体、前回比較）



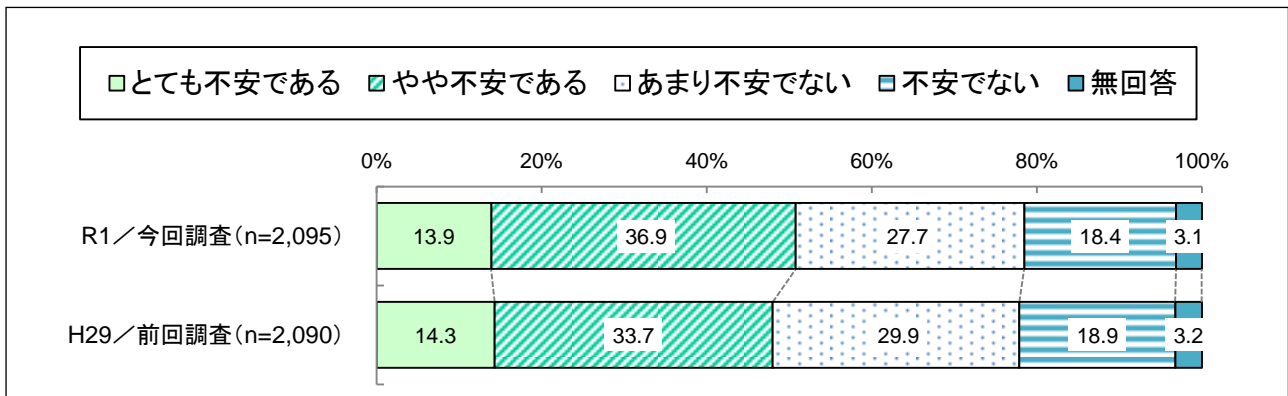
問 2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか

【全体の傾向】

転倒に対する不安についてみると、36.9%が「やや不安である」と回答しており、「とても不安である」(13.9%)を合計すると、50.8%が転倒への不安を抱えています。

前回調査と比較すると、転倒への不安を抱えている人が2.8ポイント増加しています。

図表 11 転倒に対する不安（全体、前回比較）



(3) 閉じこもり傾向について

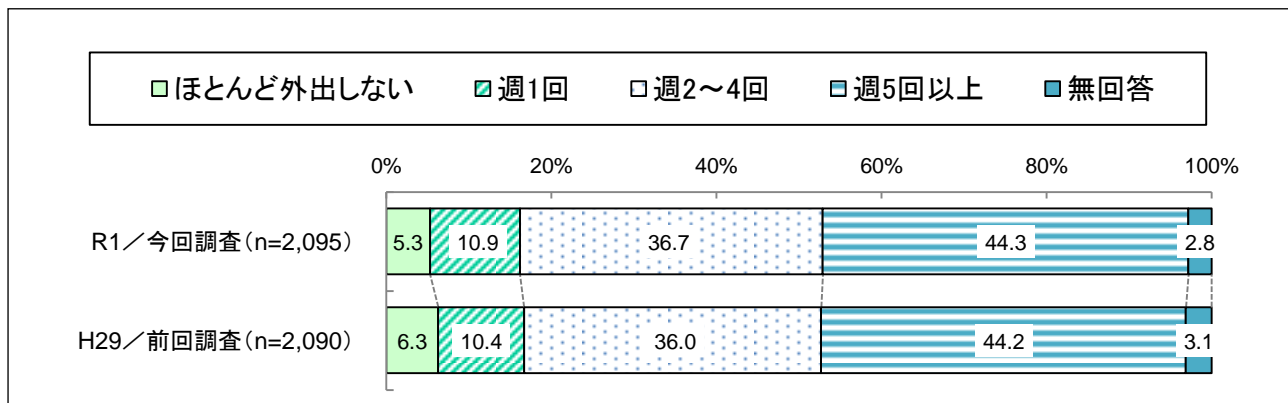
問 2 (6) 週に1回以上は外出していますか

【全体の傾向】

1週間当たりの外出回数についてみると、「週5回以上」(44.3%)が最も高く、次いで「週2～4回」(36.7%)、「週1回」(10.9%)となっています。一方、「ほとんど外出しない」は5.3%となっています。

前回調査と比較すると、「ほとんど外出しない」が1.0ポイント減少しています。

図表 12 1週間当たりの外出回数について（全体、前回比較）





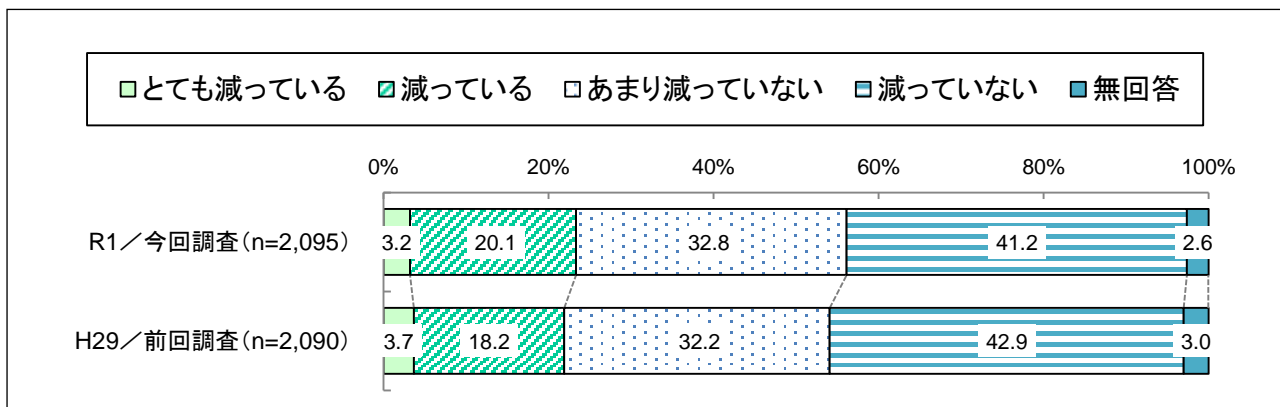
問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか

【全体の傾向】

昨年と比べて外出回数が減っているかどうかをみると、「減っていない」（41.2%）が最も高く、「あまり減っていない」（32.8%）を合計すると74.0%が『減っていない』と回答しています。

前回調査と比較すると、『減っていない』と回答した方は1.1ポイント減少しています。

図表 13 昨年と比較した外出回数について（全体、前回比較）



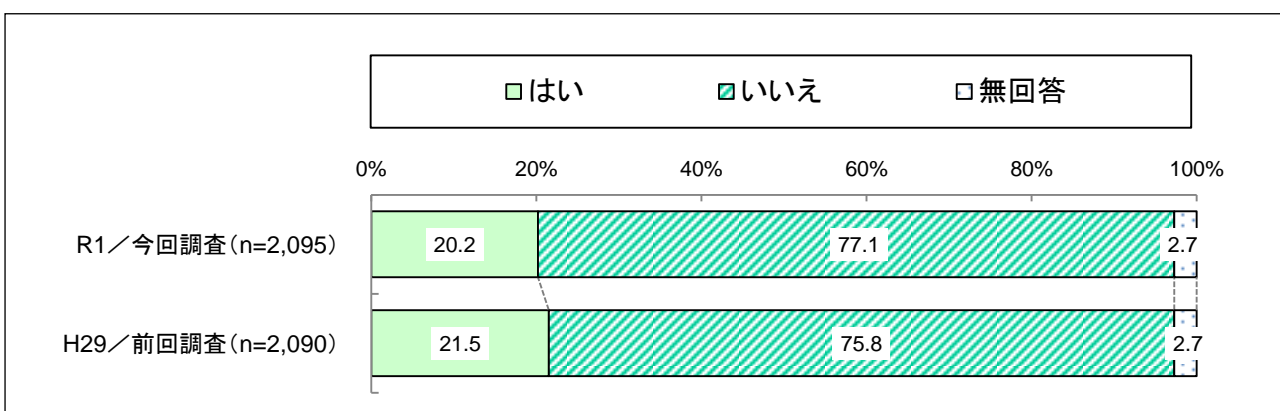
問2（8）外出を控えていますか

【全体の傾向】

外出を控えているかについてみると、「はい」が20.2%、「いいえ」が77.1%となっています。

前回調査と比較すると、「いいえ」が1.3ポイント増加しています。

図表 14 外出を控えているかについて（全体、前回比較）



【問2（8）で「はい」（外出を控えている）と回答した方のみ】

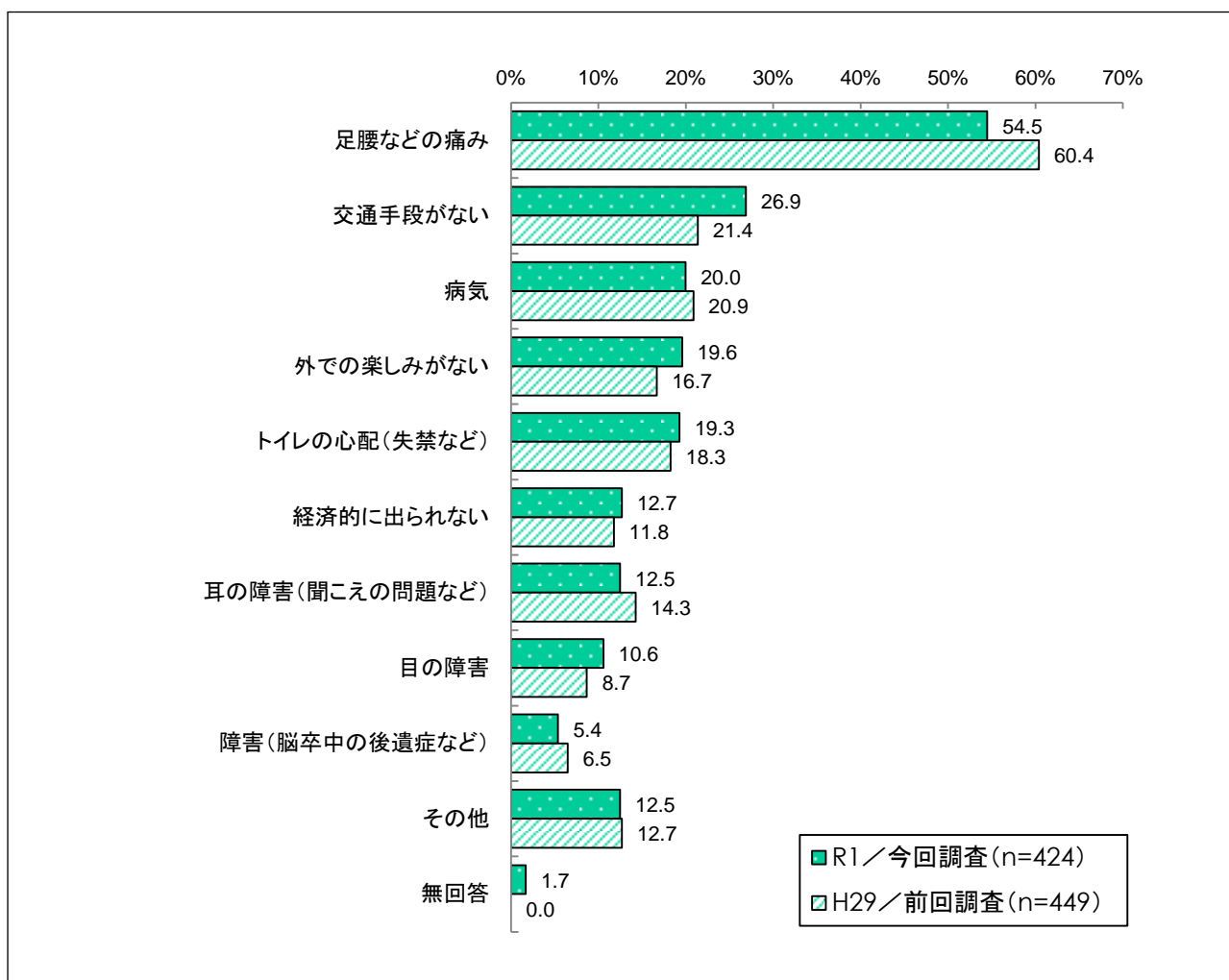
問2（8）①外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

【全体の傾向】

外出を控えていると回答した人の、控えている理由についてみると、「足腰などの痛み」（54.5%）が最も多く、その割合は突出しています。次いで「交通手段がない」（26.9%）、「病気」（20.0%）、「外での楽しみがない」（19.6%）、「トイレの心配（失禁など）」（19.3%）などとなっています。

前回調査と比較すると、「足腰などの痛み」が5.9ポイント減少しています。一方で、「交通手段がない」、「外での楽しみがない」、「トイレの心配（失禁など）」、「経済的に出られない」、「目の障害」は、前回よりも増加しており、特に「交通手段がない」は5.5ポイントの増加となっています。

図表 15 外出を控えている理由（全体、前回比較／複数回答）



**【属性別の傾向】**

性別にみると、男性では、「病気」、「トイレの心配（失禁など）」、女性では「交通手段がない」がそれぞれ上位に挙がっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では、「病気」、「外での楽しみがない」、後期高齢者では「交通手段がない」、「トイレの心配（失禁など）」がそれぞれ上位に挙がっています。

圏域別にみると、南部では「病気」が第2位となっています。

**図表 16 外出を控えている理由（全体、性別、年齢構成別、圏域別／複数回答）**

＜上位3位/単位％＞

		第1位	第2位	第3位
全体(n=424)		足腰などの痛み 54.5	交通手段がない 26.9	病気 20.0
性別	男性(n=164)	足腰などの痛み 47.6	病気 25.0	トイレの心配(失禁など)/外での楽しみがない 20.1
	女性(n=260)	足腰などの痛み 58.8	交通手段がない 32.7	外での楽しみがない 19.2
年齢構成別	前期高齢者(65-74歳)(n=134)	足腰などの痛み 41.0	病気 25.4	外での楽しみがない 23.1
	後期高齢者(75歳以上)(n=290)	足腰などの痛み 60.7	交通手段がない 32.4	トイレの心配(失禁など) 20.3
圏域別	東部(n=97)	足腰などの痛み 52.6	交通手段がない 26.8	その他 20.6
	西部(n=82)	足腰などの痛み 58.5	交通手段がない 25.6	外での楽しみがない 23.2
	南部(n=88)	足腰などの痛み 51.1	病気 29.5	トイレの心配(失禁など) 26.1
	綾歌(n=84)	足腰などの痛み 52.4	交通手段がない 28.6	外での楽しみがない 20.2
	飯山(n=73)	足腰などの痛み 58.9	交通手段がない 34.2	トイレの心配(失禁など) 20.5

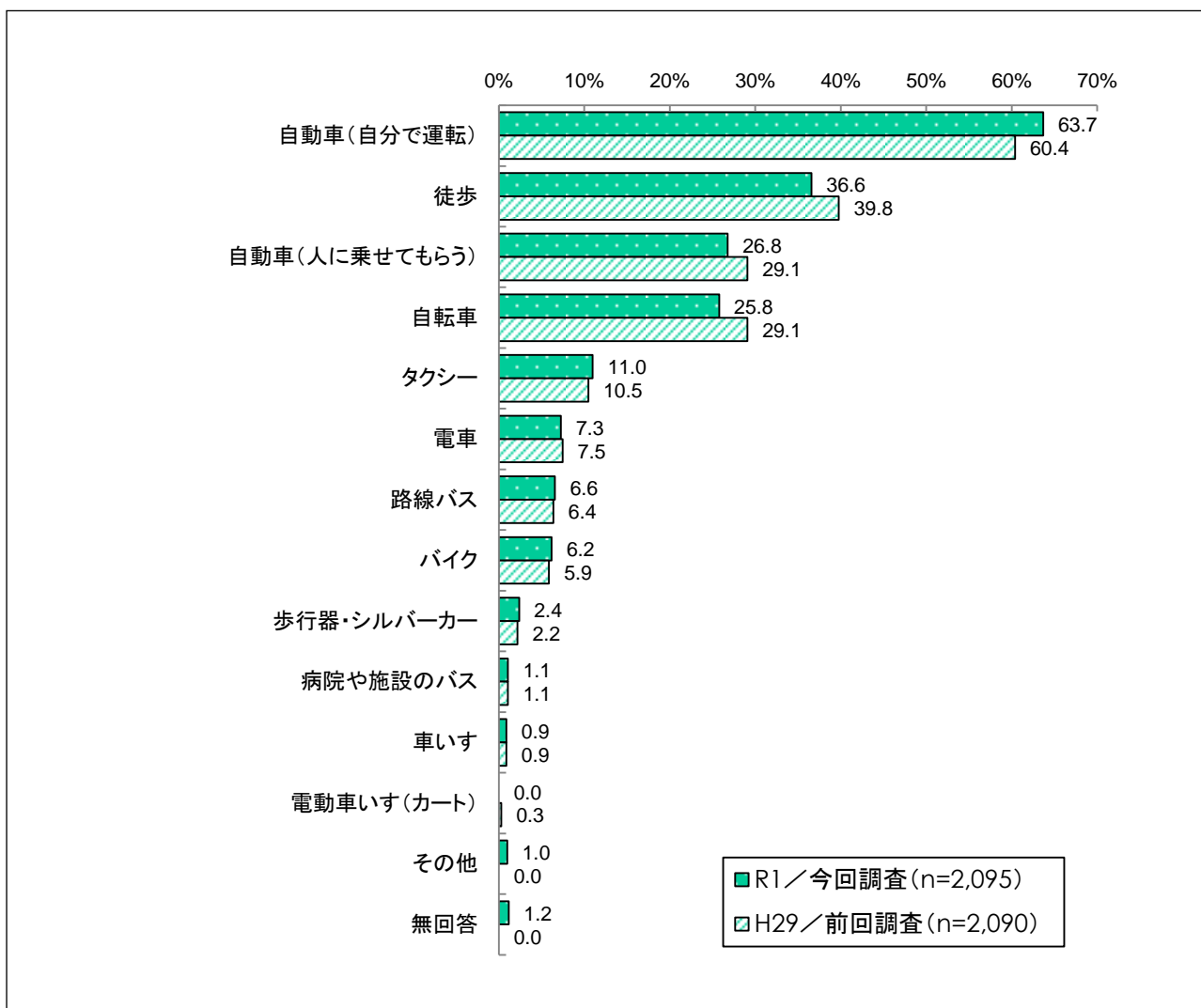
問2 (9) 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)

【全体の傾向】

外出する際の移動手段についてみると、「自動車 (自分で運転)」が 63.7% と最も多く、次いで、「徒歩」(36.6%)、「自動車 (人に乗せてもらう)」(26.8%)、「自転車」(25.8%)、「タクシー」(11.0%) などとなっています。

前回調査と比較すると、「自動車 (自分で運転)」が 3.3 ポイント増加しています。

図表 17 外出する際の移動手段 (全体/複数回答)



**【属性別の傾向】**

性別にみると、男性では「自転車」、女性では「自動車（人に乗せてもらう）」がそれぞれ上位に挙がっています。

認定状況別にみると、一般高齢者では、第1位が「自動車（自分で運転）」、第2位が「徒歩」、第3位が「自転車」となっています。一方、要支援では、第1位が「自動車（人に乗せてもらう）」、第2位が「タクシー」、第3位が「徒歩」となっており、両者の間に違いがみられます。

**図表 18 外出する際の移動手段（全体、性別、認定状況別／複数回答）**

＜上位3位/単位％＞

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=2,095)		自動車(自分で運転) 63.7	徒歩 36.6	自転車 25.8
性別	男性 (n=980)	自動車(自分で運転) 80.5	徒歩 37.7	自転車 26.3
	女性 (n=1,115)	自動車(自分で運転) 48.9	自動車(人に乗せてもらう) 40.2	徒歩 35.7
認定状況別	一般高齢者 (n=1,959)	自動車(自分で運転) 67.4	徒歩 37.5	自転車 27.1
	要支援 (n=136)	自動車(人に乗せてもらう) 62.5	タクシー 30.9	徒歩 23.5

### 3 食べることについて

#### (1) BMI 算出

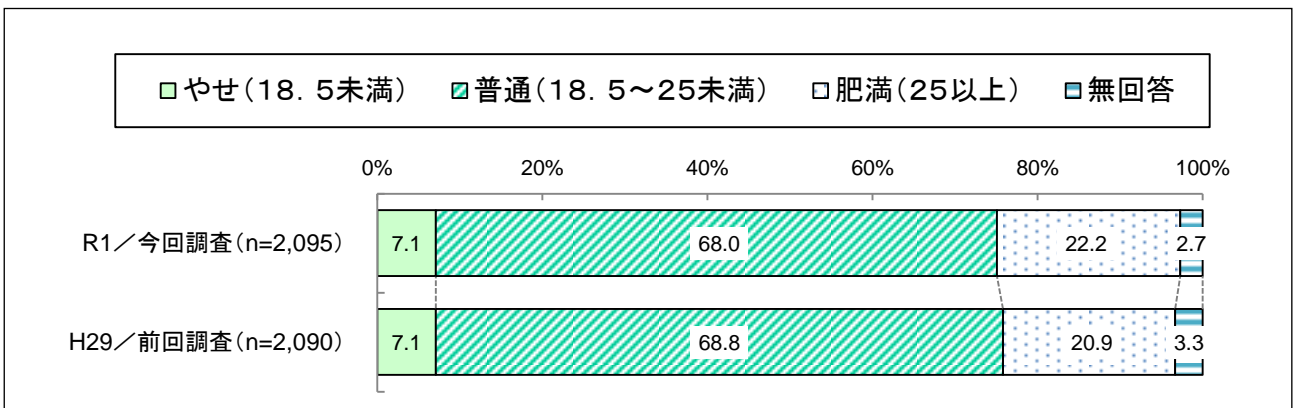
##### 問3 (1) 身長・体重

#### 【全体の傾向】

身長及び体重の記載から算出したBMI値については、「普通(18.5~25未満)」が68.0%となっています。一方、「やせ(18.5未満)」は7.1%、「肥満(25以上)」は22.2%となっています。

前回調査と比較すると、「肥満(25以上)」が1.3ポイント増加し、「普通(18.5~25未満)」が0.8ポイント減少しています。

図表 19 BMI 値 (全体、前回比較)



#### (2) 口腔機能について

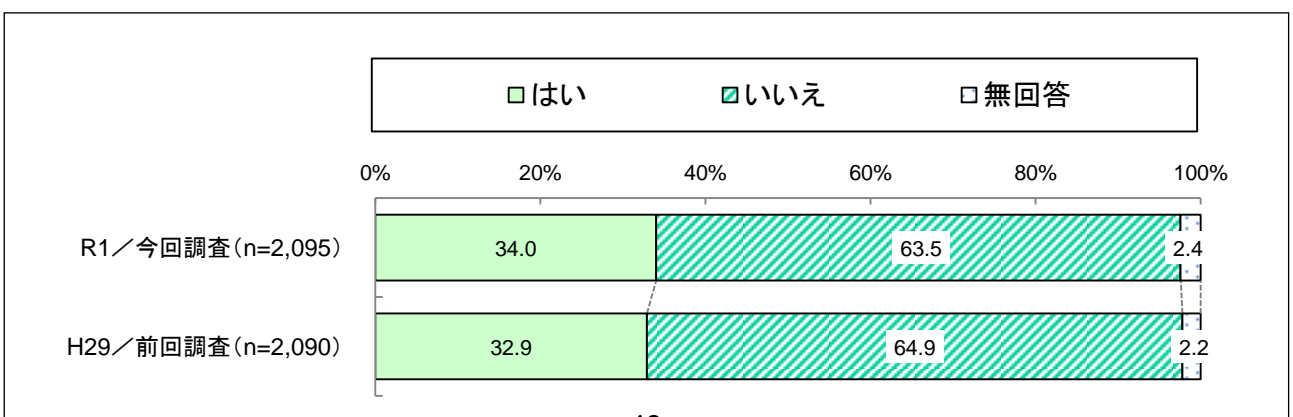
##### 問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

#### 【全体の傾向】

半年前に比べて固いものが食べにくいかどうかをみると、「はい」が34.0%、「いいえ」が63.5%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.1ポイント増加し、「いいえ」が1.4ポイント減少しています。

図表 20 固いものが食べにくくなったか (全体、前回比較)



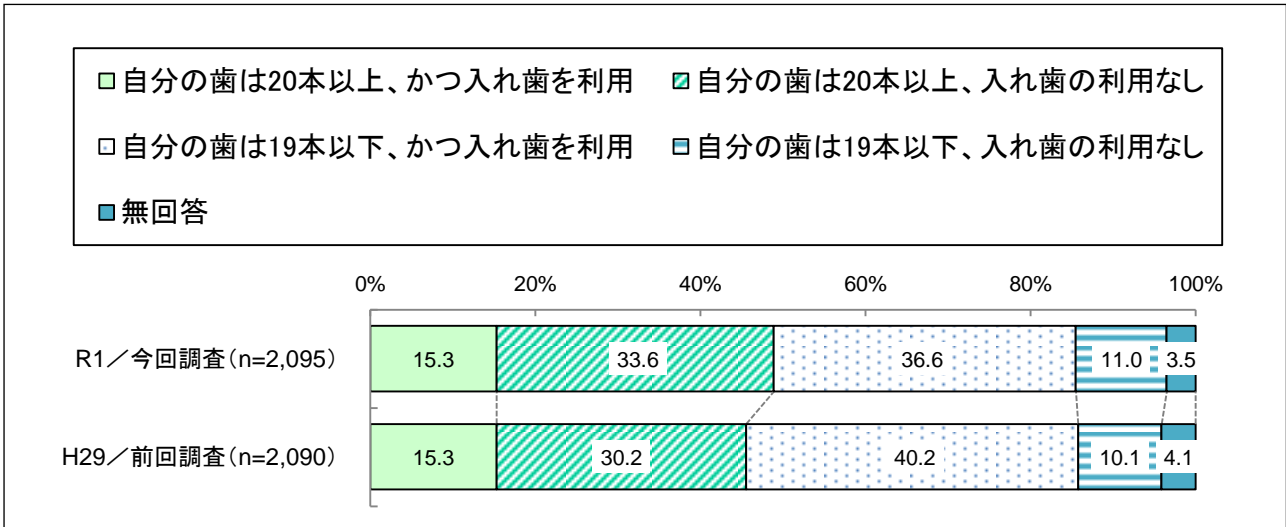
問3 (3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

【全体の傾向】

歯の本数と、入れ歯の利用状況をみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が36.6%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が3.4ポイント増加しています。

図表 21 歯の本数と入れ歯の利用状況 (全体、前回比較)



(3) 孤食の状況について

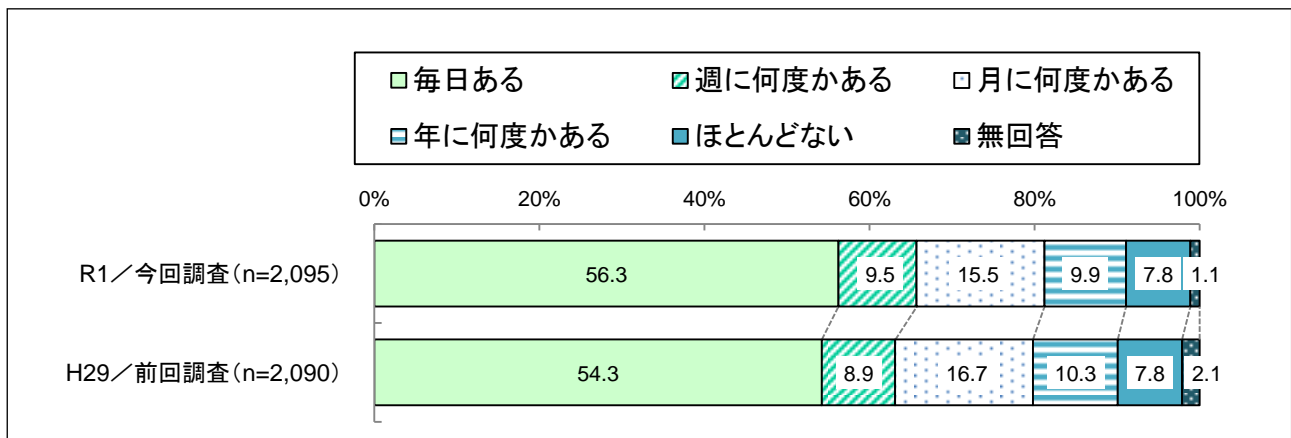
問3 (4) どなたかと食事をとる機会がありますか

【全体の傾向】

誰かと食事をとる機会の有無についてみると、「毎日ある」が56.3%を占めており、次いで「月に何度かある」(15.5%)、「年に何度かある」(9.9%)、「週に何度かある」(9.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「毎日ある」が2.0ポイント増加しています。

図表 22 誰かと食事をとる機会の有無について (全体、前回比較)







## 4 毎日の生活について

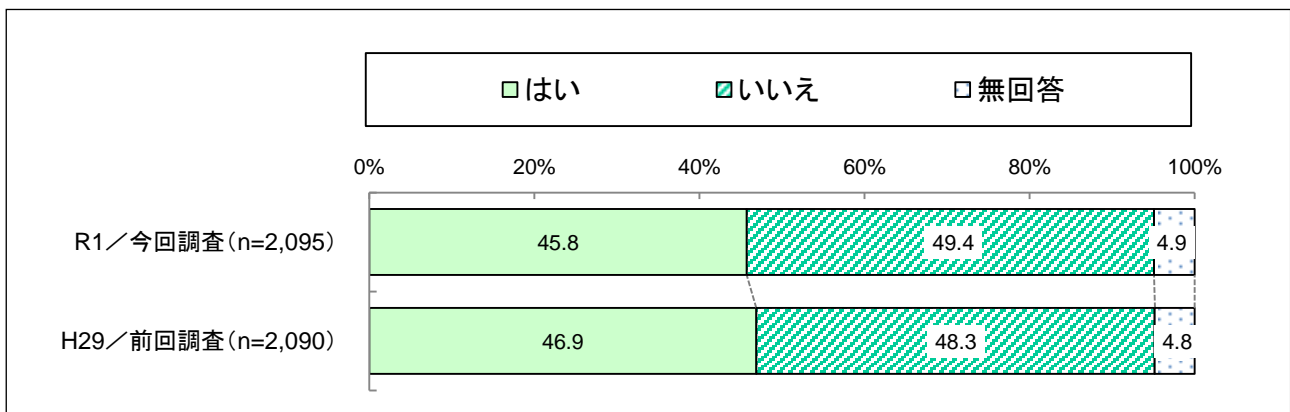
### (1) 認知機能について

問4 (1) 物忘れが多いと感じますか

#### 【全体の傾向】

物忘れが多いと感じるかどうかについてみると、「はい」が45.8%、「いいえ」が49.4%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が1.1ポイント減少し、「いいえ」が1.1ポイント増加しています。

図表 23 物忘れが多いと感じるか（全体、前回比較）



### (2) IADL<手段的日常生活動作>について（老研式活動能力指標）

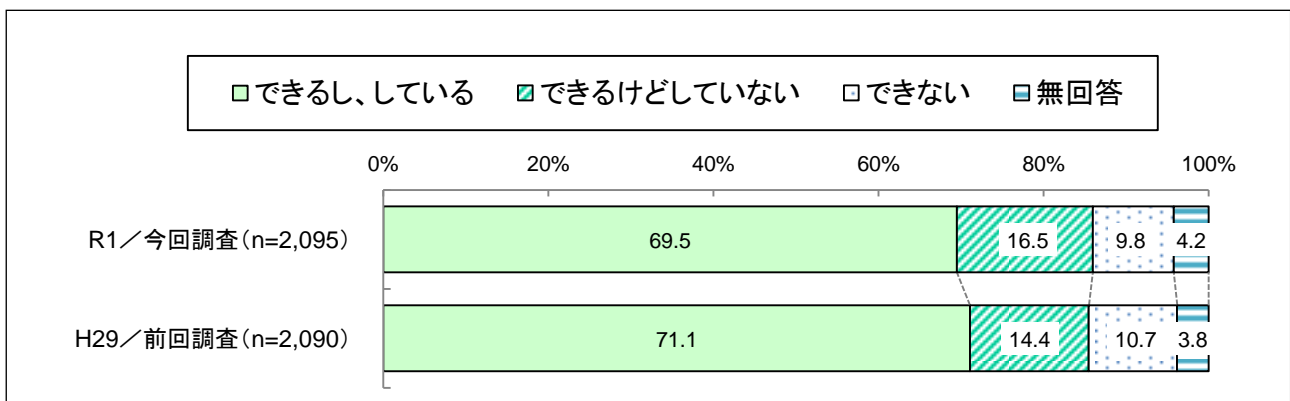
問4 (2) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）

#### 【全体の傾向】

バスや電車を使って1人で外出しているかどうかをみると、「できるし、している」が69.5%を占めています。一方、「できない」は9.8%と1割未満にとどまっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が1.6ポイント減少し、「できるけどしていない」が2.1ポイント増加しています。

図表 24 1人で外出をしているか（全体、前回比較）



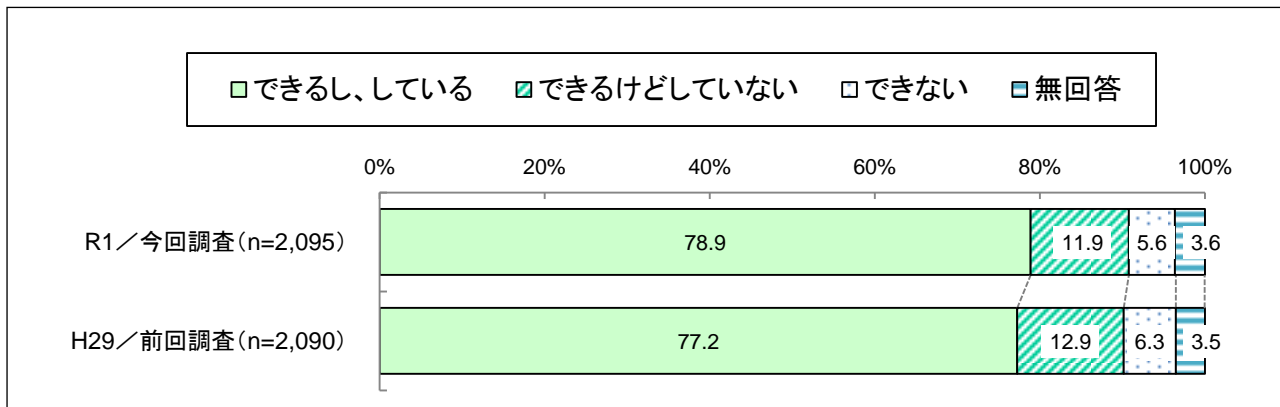
#### 問4（3）自分で食品・日用品の買物をしていますか

##### 【全体の傾向】

自分で食品や日用品の買物をしているかどうかをみると、「できるし、している」が78.9%を占めています。一方、「できない」は5.6%と1割未満にとどまっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が1.7ポイント増加しています。

図表 25 自分で食品・日用品の買物をしているか（全体、前回比較）



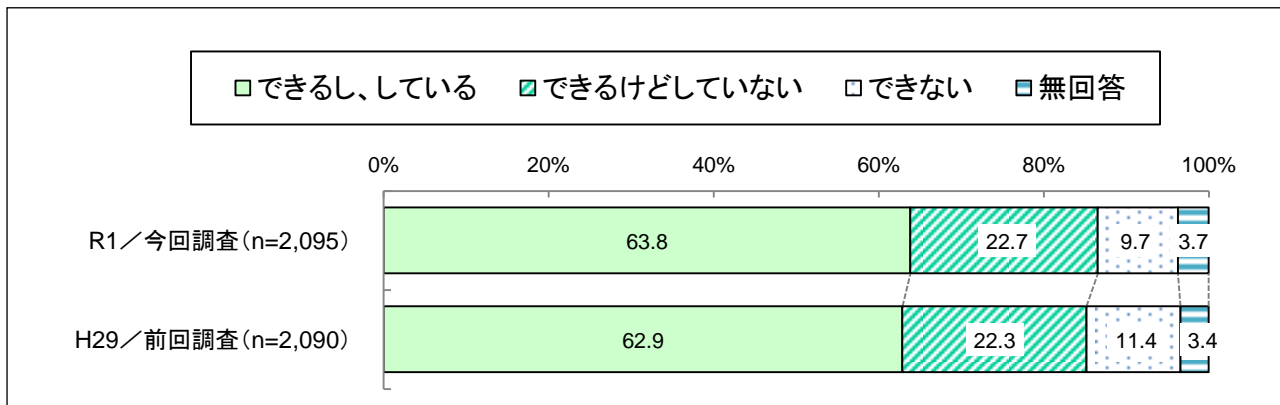
#### 問4（4）自分で食事の用意をしていますか

##### 【全体の傾向】

自分で食事の用意をしているかどうかをみると、「できるし、している」が63.8%を占めています。一方、「できない」は9.7%と1割未満にとどまっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が0.9ポイント増加し、「できない」は1.7ポイント減少しています。

図表 26 自分で食事の用意をしているか（全体、前回比較）



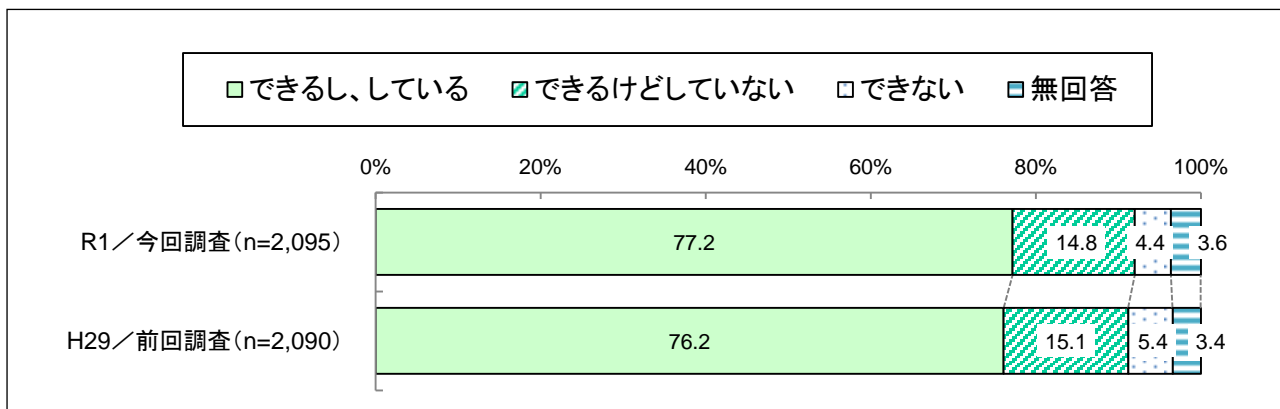
問 4 (5) 自分で請求書の支払いをしていますか

【全体の傾向】

自分で請求書の支払いをしているかどうかをみると、「できるし、している」が 77.2%を占めています。一方、「できない」は 4.4%と 1 割未満にとどまっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が 1.0 ポイント増加しています。

図表 27 自分で請求書の支払いをしているか（全体、前回比較）



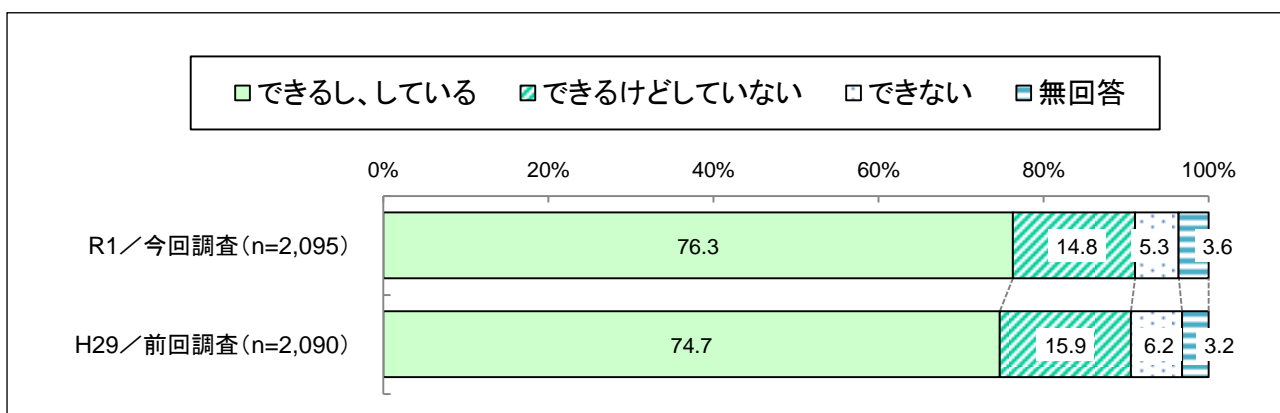
問 4 (6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

【全体の傾向】

自分で預貯金の出し入れをしているかどうかをみると、「できるし、している」が 76.3%を占めています。一方、「できない」は 5.3%と 1 割未満にとどまっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が 1.6 ポイント増加しています。

図表 28 自分で預貯金の出し入れをしているか（全体、前回比較）



### (3) 他の人に手助けしてほしいことについて

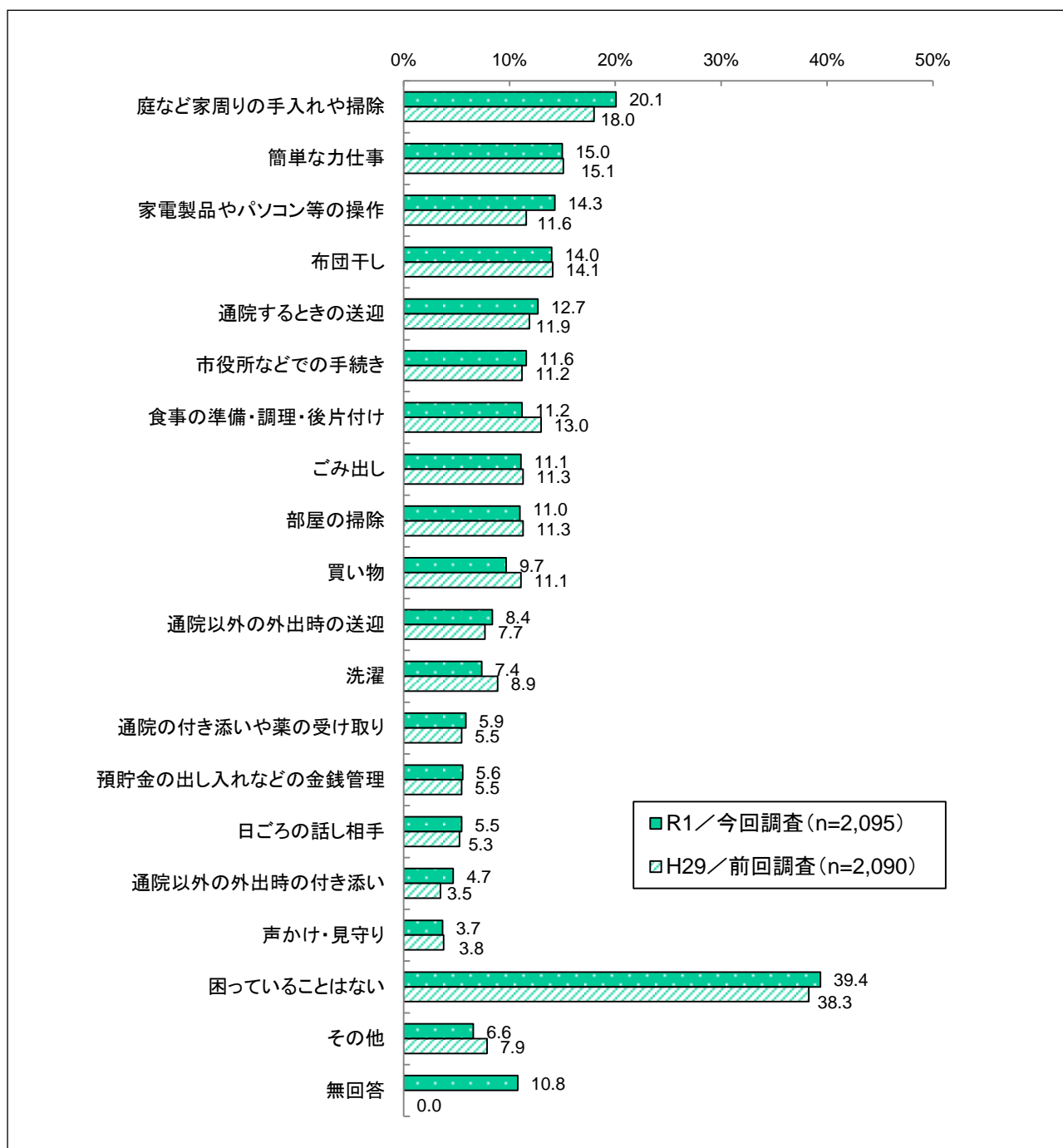
問4 (7) 毎日の生活の中で他の人に頼みたいこと、手助けしてほしいことはありますか(いくつでも)

#### 【全体の傾向】

他の人に手助けしてほしいことについてみると、「庭など家周りの手入れや掃除」が20.1%で最も多く、次いで、「簡単な力仕事」(15.0%)、「家電製品やパソコン等の操作」(14.3%)、「布団干し」(14.0%)、「通院するときの送迎」(12.7%) などとなっています。

前回調査と比較すると、「家電製品やパソコン等の操作」が2.7ポイントと最も増加しています。

図表 29 他の人に手助けして欲しいこと(全体、前回比較/複数回答)



**【属性別の傾向】**

性別にみると、男性では「食事の準備・調理・後片付け」、女性では「簡単な力仕事」がそれぞれ第3位となっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「家電製品やパソコン等の操作」、後期高齢者では「通院するときの送迎」がそれぞれ第3位となっています。

認定状況別にみると、一般高齢者では「家電製品やパソコン等の操作」が上位に挙げられています。一方、要支援では「通院するときの送迎」、「布団干し」、「市役所などでの手続き」が上位に挙げられており、またその割合は、いずれも5割を超えています。

**図表 30 他の人に手助けして欲しいこと（全体、性別、年齢構成別、認定状況別／複数回答）**

＜上位3位/単位％＞

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=2,095)		困っていることはない 39.4	庭など家周りの手入れや掃除 20.1	簡単な力仕事 15.0
性別	男性 (n=980)	困っていることはない 45.7	庭など家周りの手入れや掃除 15.3	食事の準備・調理・後片付け 14.0
	女性 (n=1,115)	困っていることはない 33.8	庭など家周りの手入れや掃除 24.3	簡単な力仕事 21.9
年齢構成別	前期高齢者 (65-74歳) (n=1,137)	困っていることはない 49.5	庭など家周りの手入れや掃除 16.3	家電製品やパソコン等の操作 12.2
	後期高齢者 (75歳以上) (n=958)	困っていることはない 27.3	庭など家周りの手入れや掃除 24.6	通院するときの送迎 21.2
認定状況別	一般高齢者 (n=1,959)	困っていることはない 41.8	庭など家周りの手入れや掃除 17.8	家電製品やパソコン等の操作 13.3
	要支援 (n=136)	庭など家周りの手入れや掃除／通院するときの送迎 53.7		布団干し／市役所などでの手続き 51.5

## 5 地域での活動について

### (1) 社会参加の状況

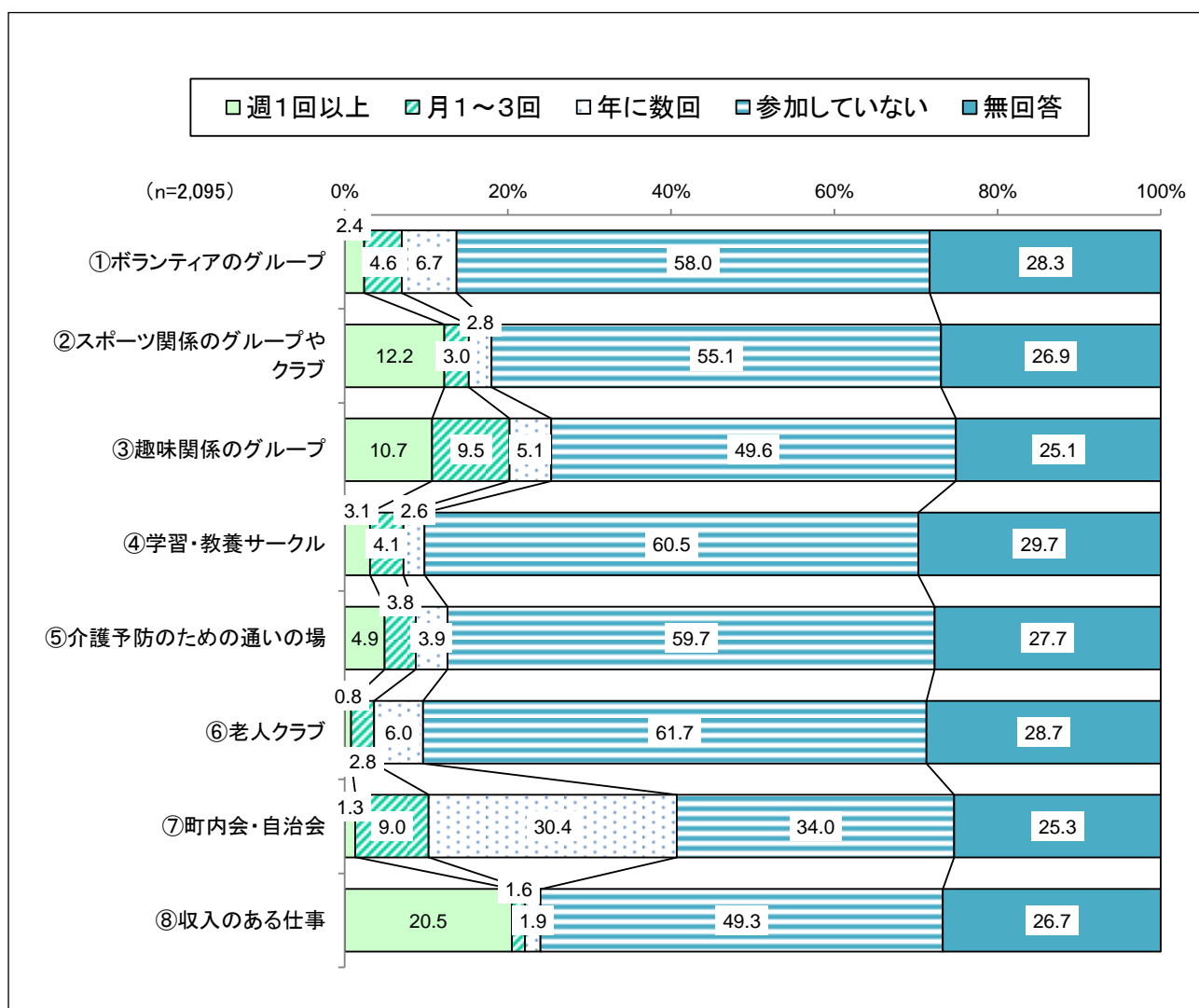
問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

※①-⑧それぞれに回答してください

**【全体の傾向】(選択肢「週4回以上」「週2～3回」「週1回」を統合し「週1回以上」とし集計しています)**

社会参加の頻度について、「週1回以上」から「年に数回」までを合計した『参加率』をみると、『参加率』が最も高いグループは、⑦町内会・自治会(40.7%)で、そのほとんどが「年に数回」(30.4%)と回答しています。次いで、③趣味関係のグループ(25.3%)、⑧収入のある仕事(24.0%)となっています。

図表 31 社会参加の状況(全体)

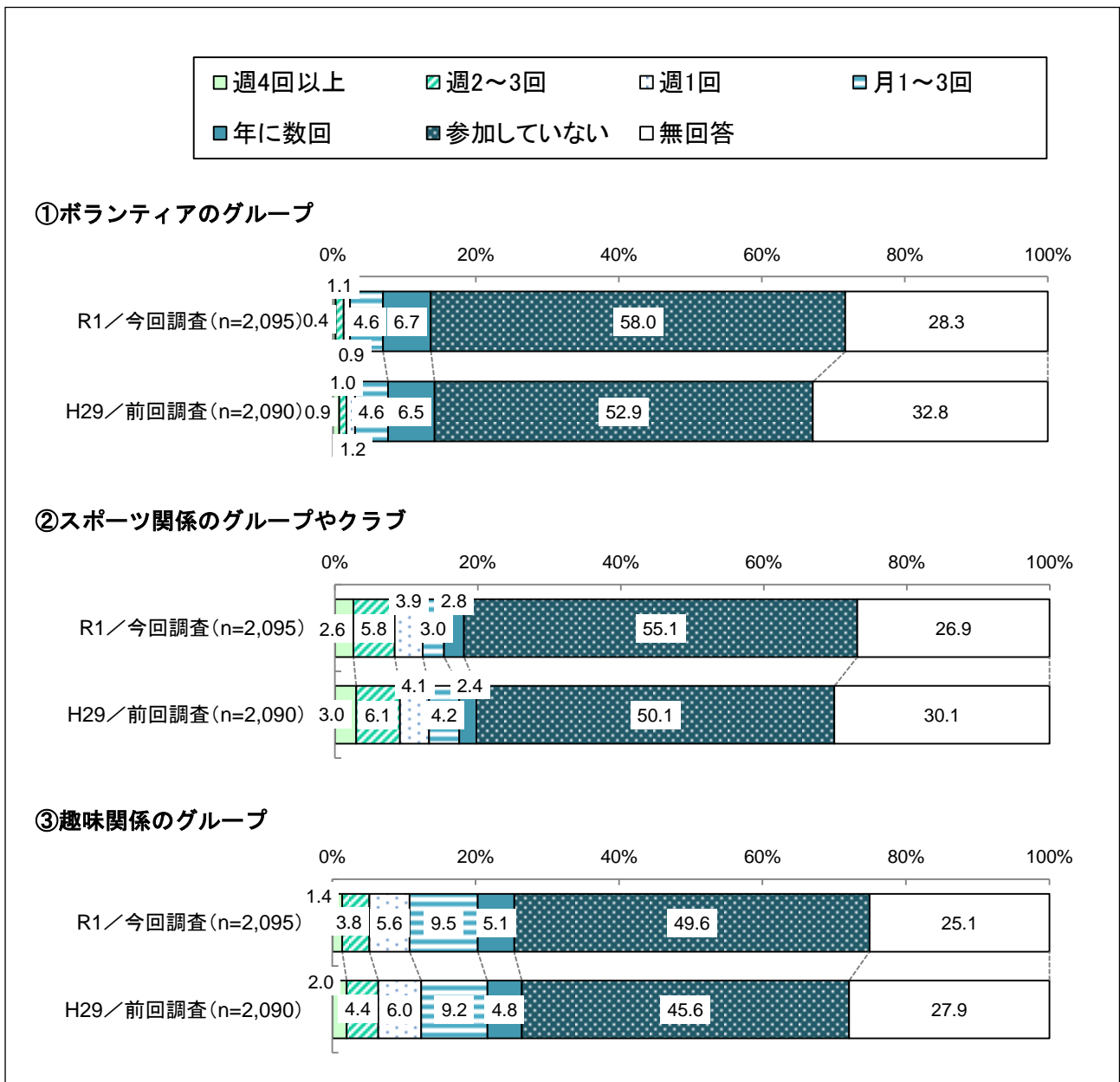


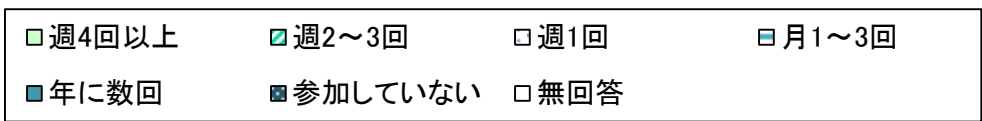
**【前回調査との比較】※⑤、⑧は前回該当項目がないためコメントからは除外しています**

社会参加の頻度について、それぞれのグループを前回調査時の結果と比較しました。

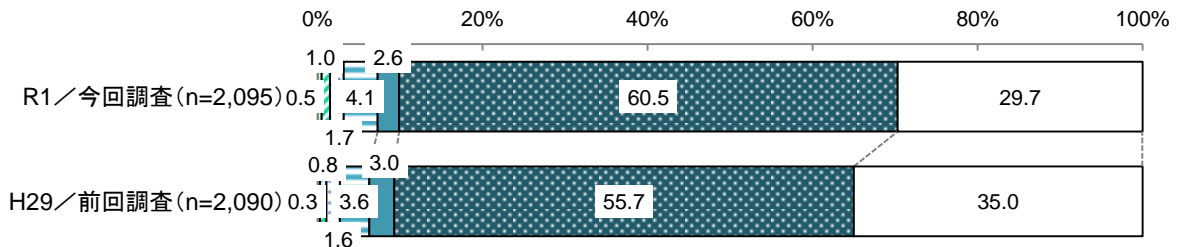
①ボランティアのグループでは、『参加率』が0.5ポイント減少し、「参加していない」は5.1ポイント増加しています。②スポーツ関係のグループやクラブでは、『参加率』が1.7ポイント減少し、「参加していない」は5.0ポイント増加しています。③趣味関係のグループでは、『参加率』が1.0ポイント減少し、「参加していない」は4.0ポイント増加しています。④学習・教養サークルでは、『参加率』が0.6ポイント、「参加していない」が4.8ポイントそれぞれ増加しています。⑥老人クラブでは、『参加率』が2.5ポイント減少し、「参加していない」が5.8ポイント増加しています。⑦町内会・自治会では、『参加率』が1.0ポイント減少し、「参加していない」が1.8ポイント増加しています。

**図表 32 社会参加の状況（全体、前回比較）**

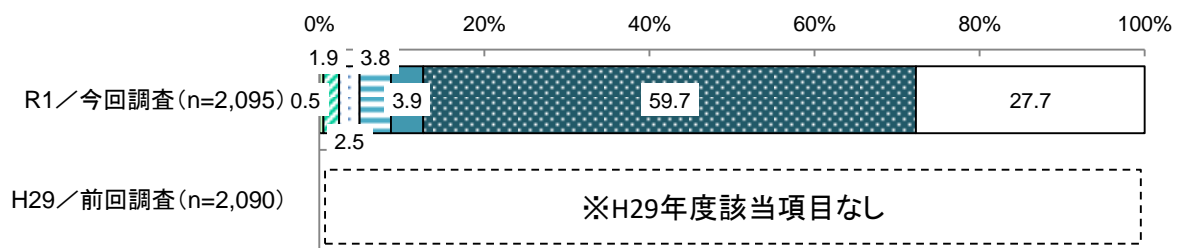




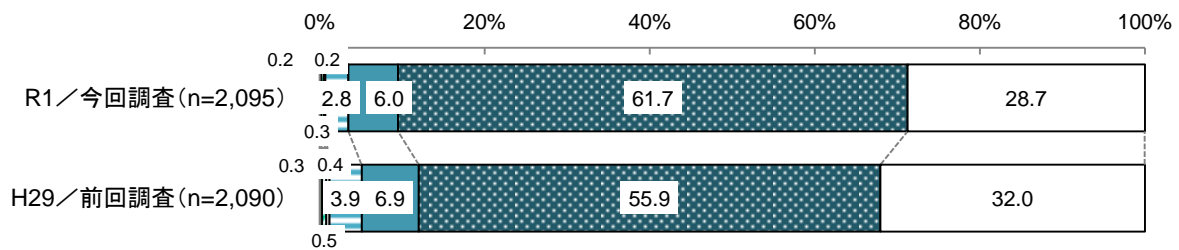
④学習・教養サークル



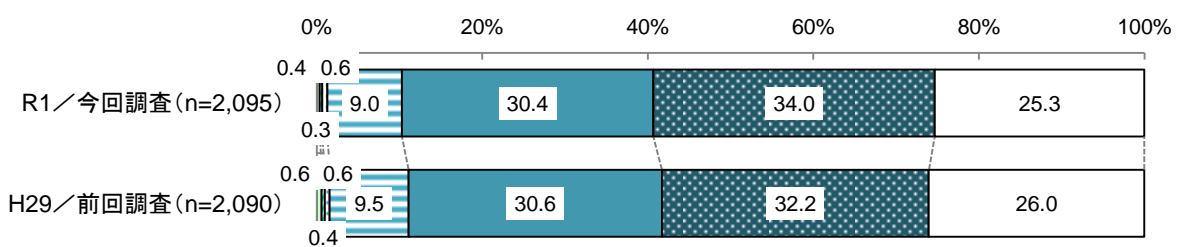
⑤介護予防のための通いの場



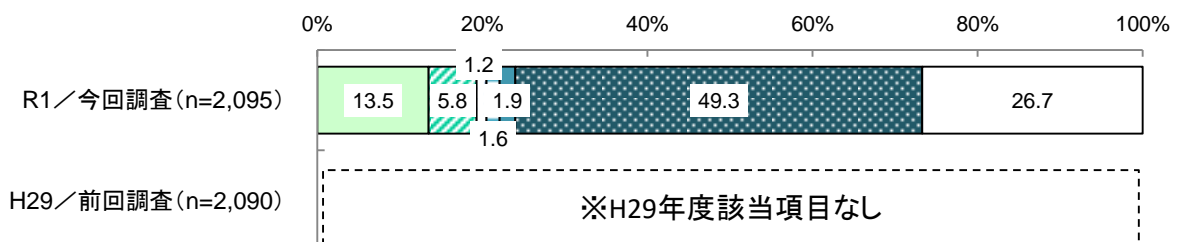
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事





## 【属性別の傾向】

（選択肢「週4回以上」「週2～3回」「週1回」を統合し「週1回以上」とし集計しています）

社会参加の頻度について、それぞれのグループを圏域別にみました。

①ボランティアのグループで最も『参加率』が高いのは、綾歌（18.2%）で、最も低いのは、東部（11.9%）となっています。

②スポーツ関係のグループやクラブで最も『参加率』が高いのは、南部（20.5%）で、最も低いのは、綾歌（15.4%）となっています。

③趣味関係のグループで最も『参加率』が高いのは、綾歌（27.3%）で、最も低いのは、西部（22.8%）となっています。

④学習・教養サークルで最も『参加率』が高いのは、綾歌（11.6%）で、最も低いのは、東部（8.9%）となっています。

⑤介護予防のための通いの場で最も『参加率』が高いのは、綾歌（21.8%）で、最も低いのは、南部（7.9%）となっています。

⑥老人クラブで最も『参加率』が高いのは、綾歌（13.2%）で、最も低いのは、南部（7.1%）となっています。

⑦町内会・自治会で最も『参加率』が高いのは、綾歌（49.1%）で、最も低いのは、西部（33.9%）となっています。

⑧収入のある仕事で最も『参加率』が高いのは、飯山（28.5%）で、最も低いのは、西部（20.5%）となっています。

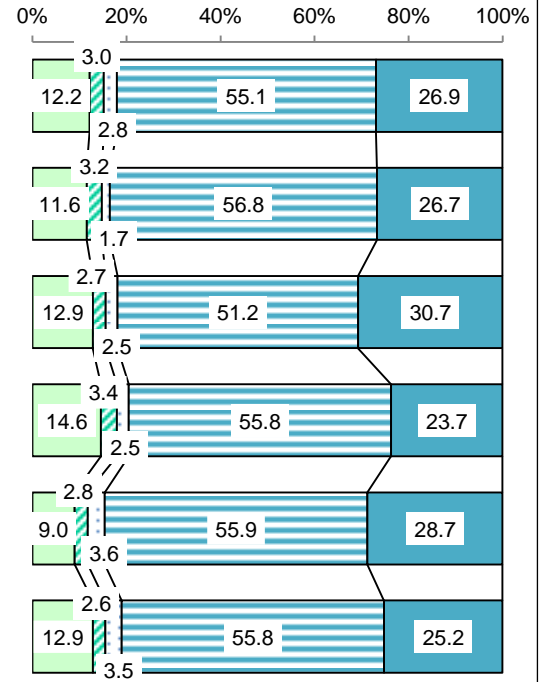
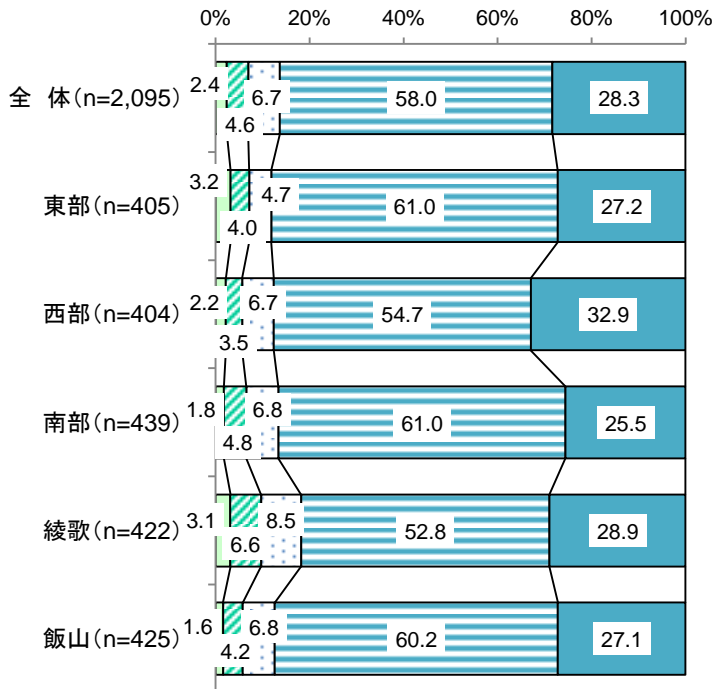
綾歌は8項目中6項目で最も高い『参加率』となっています。

図表 33 社会参加の状況（全体、圏域別）

□ 週1回以上    ▨ 月1～3回    □ 年に数回    □ 参加していない    ■ 無回答

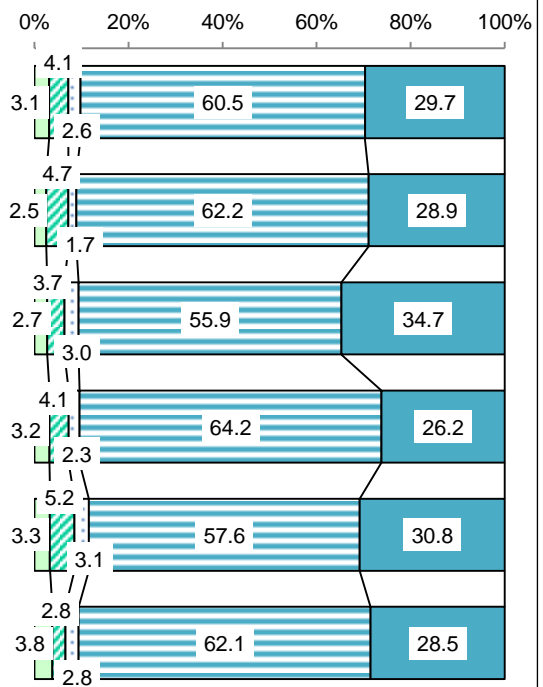
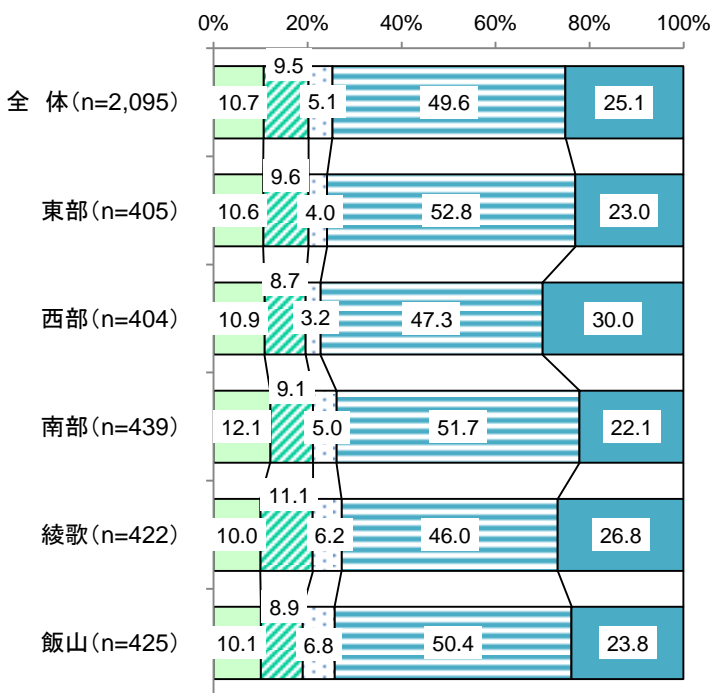
① ボランティアのグループ

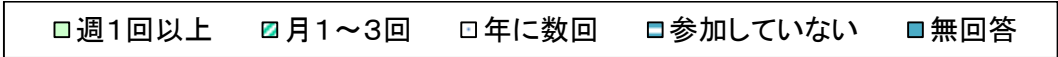
② スポーツ関係のグループやクラブ



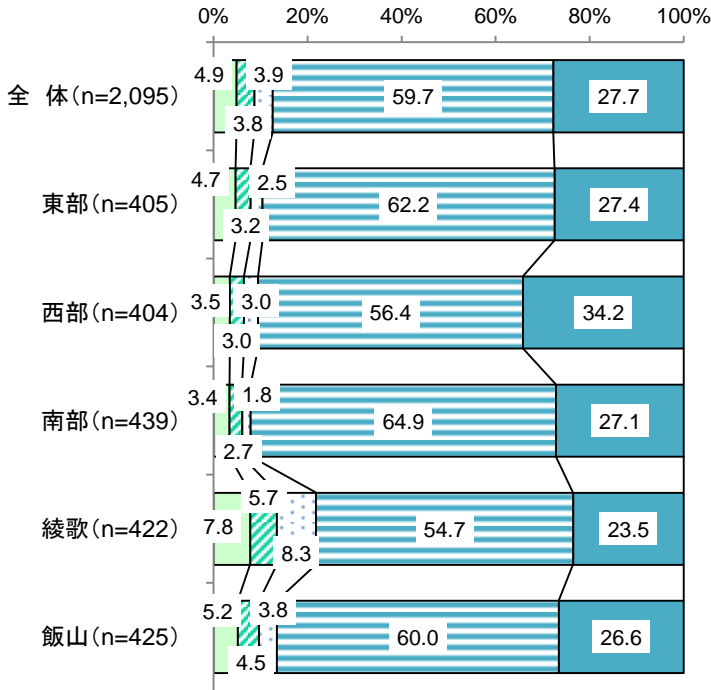
③ 趣味関係のグループ

④ 学習・教養サークル

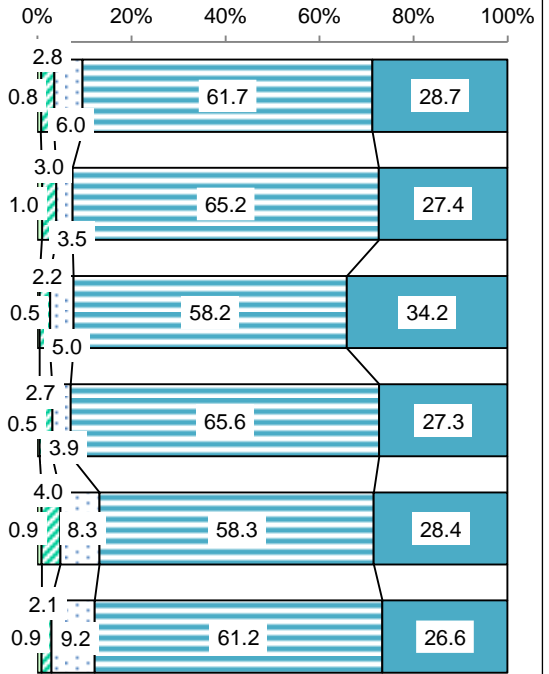




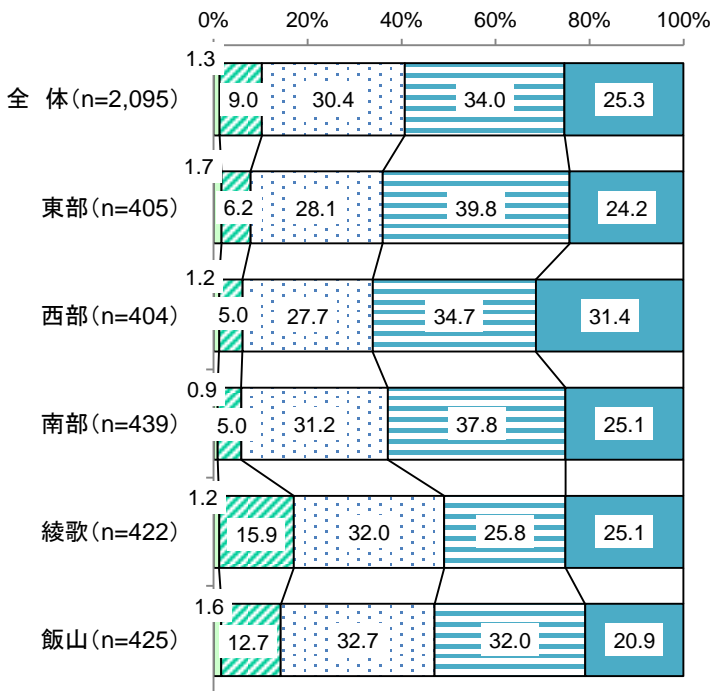
⑤介護予防のための通いの場



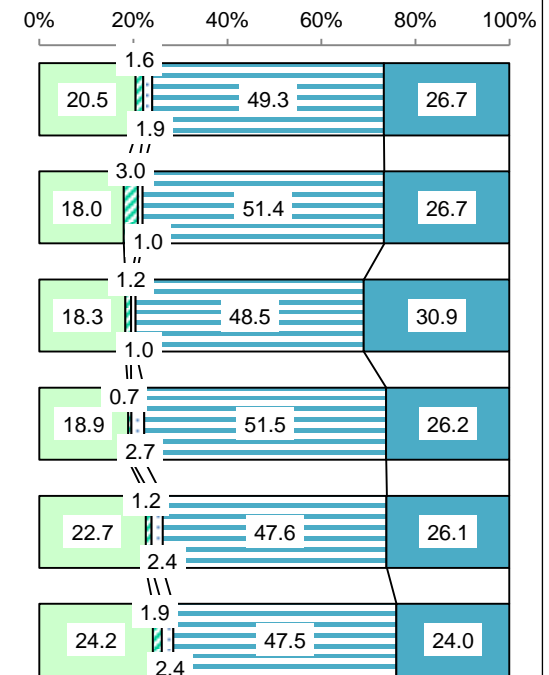
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事



## (2) 地域づくりへの参加意向（参加者）

問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

### 【全体の傾向】

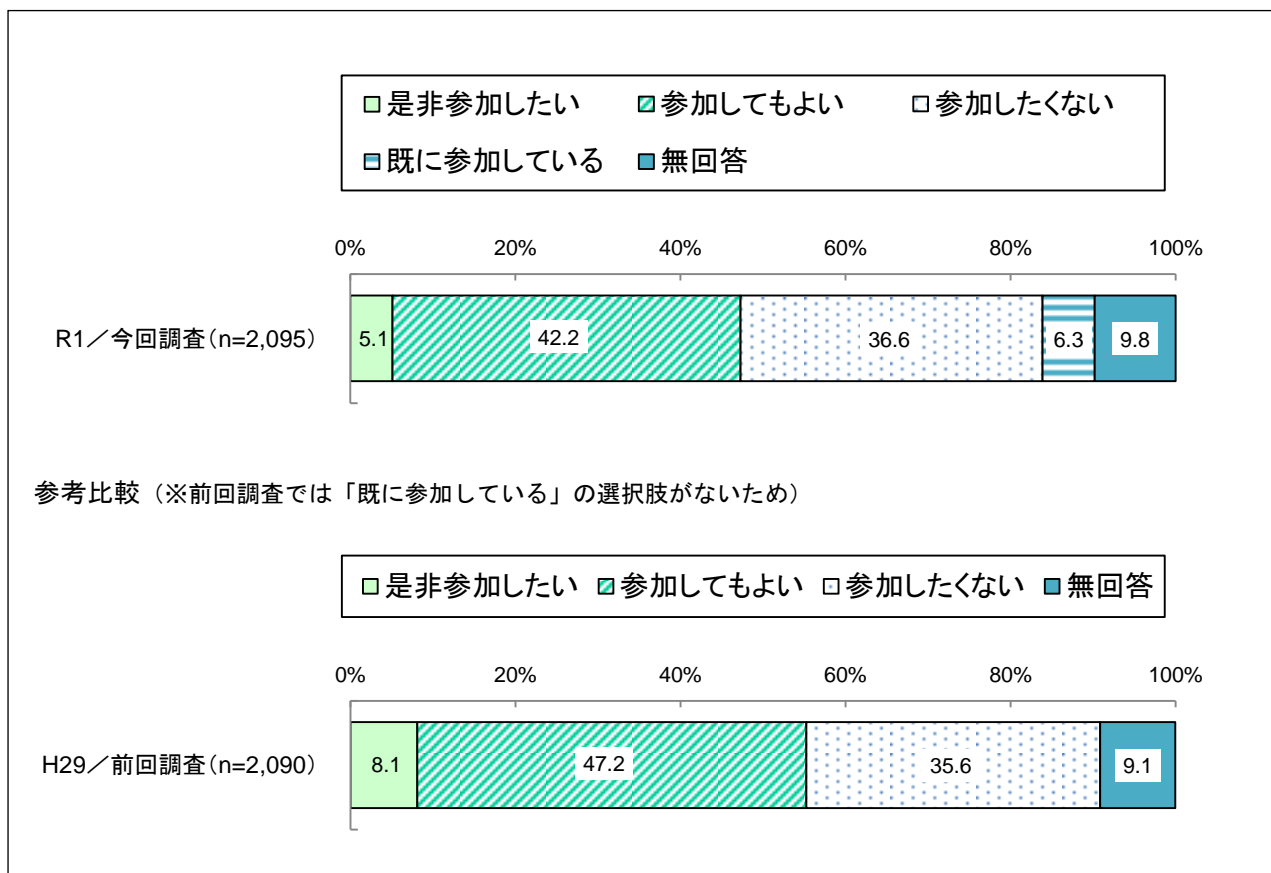
地域づくり活動に参加者として参加してみたいかどうかをみると、「参加してもよい」が42.2%と最も高く、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加者として参加してもよい』は47.3%となっています。また、「既に参加している」人は6.3%となっています。

前回調査と比較すると、『参加者として参加してもよい』が8.0ポイント減少しています。

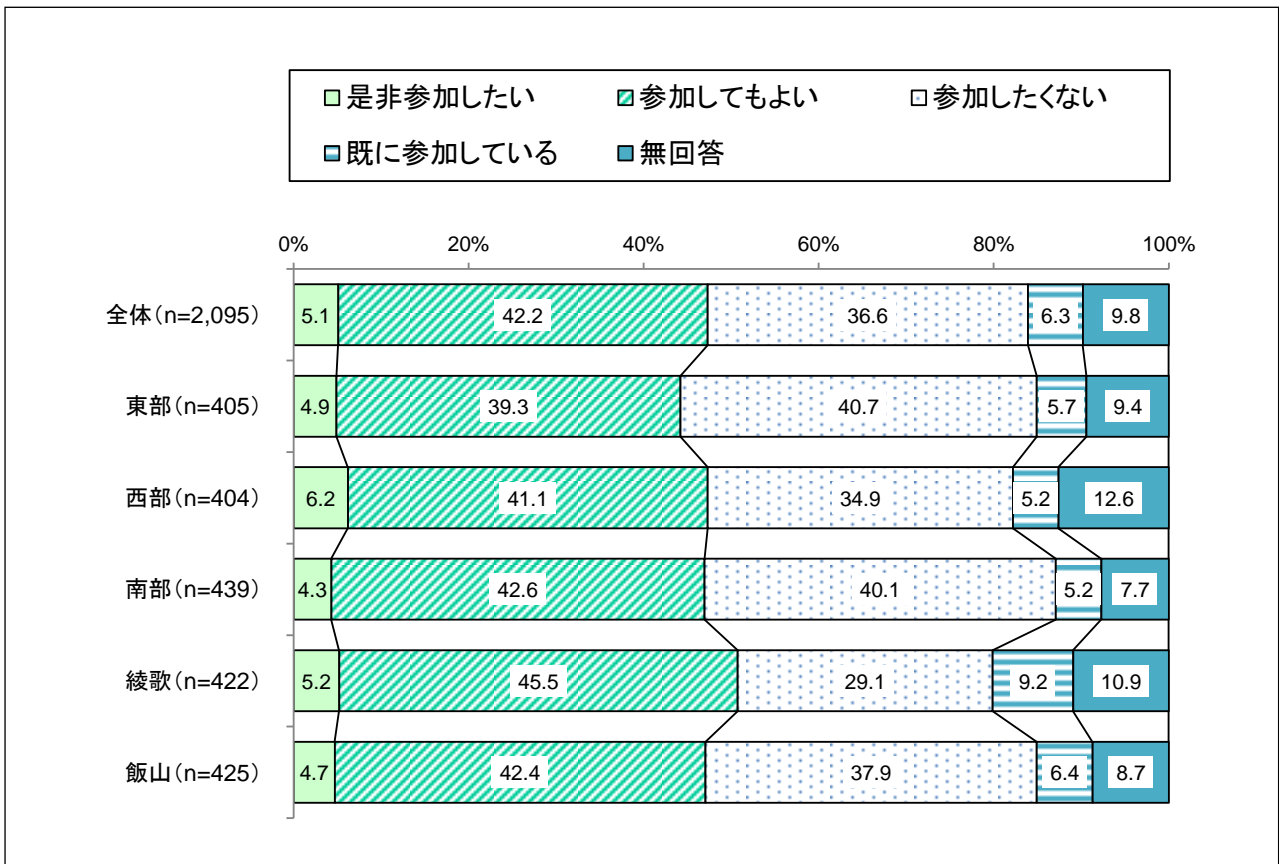
### 【属性別の傾向】

圏域別にみると、『参加者として参加してもよい』、「既に参加している」とともに、綾歌が最も高くなっています。

図表 34 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、前回比較）



図表 35 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、圏域別）



### (3) 地域づくりへの参加意向（企画・運営）

問5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

#### 【全体の傾向】

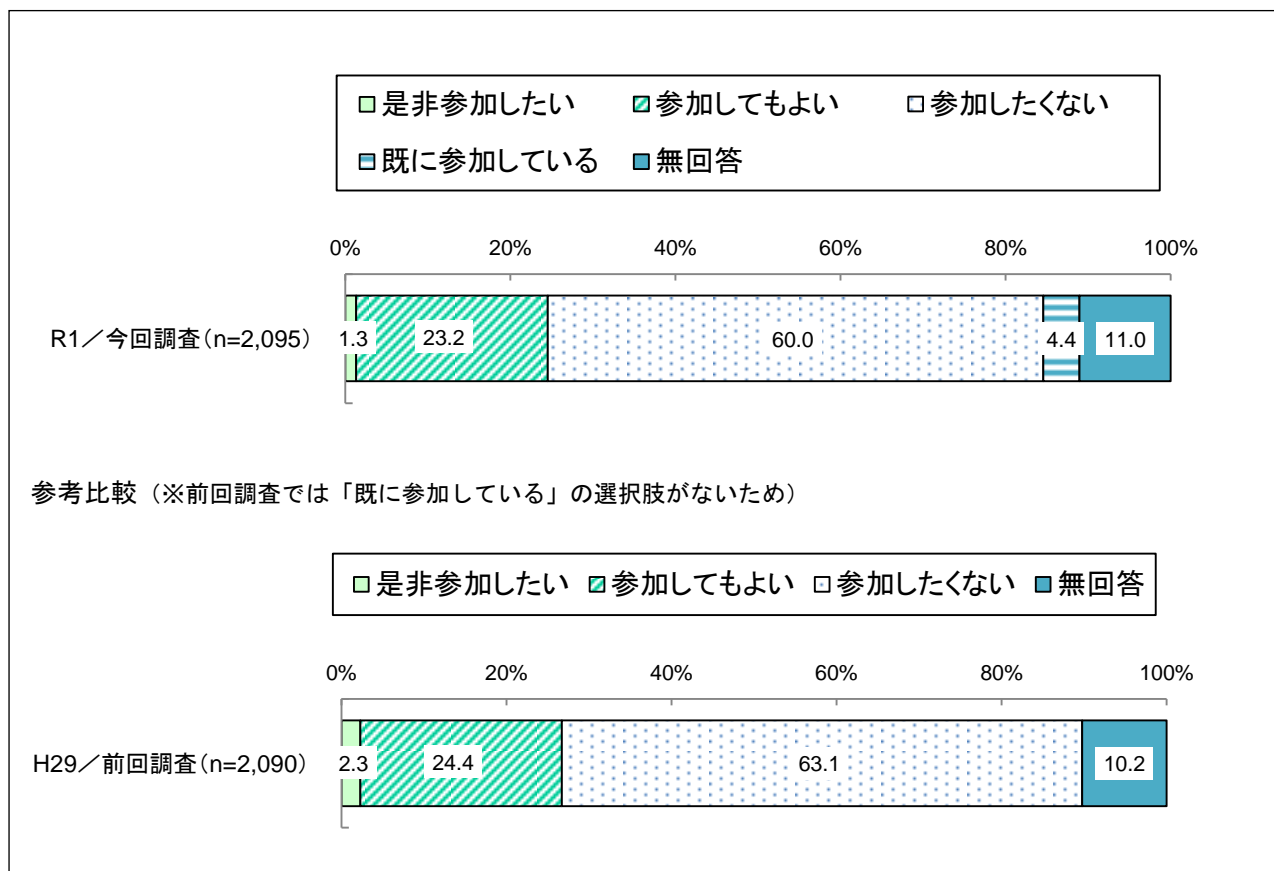
地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかどうかをみると、「参加したくない」が60.0%を占めています。一方、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』は24.5%にとどまり、前問の『参加者として参加してもよい』（47.3%）に比べて22.8ポイント下回っています。

前回調査と比較すると、『企画・運営として参加してもよい』が2.2ポイント減少しています。

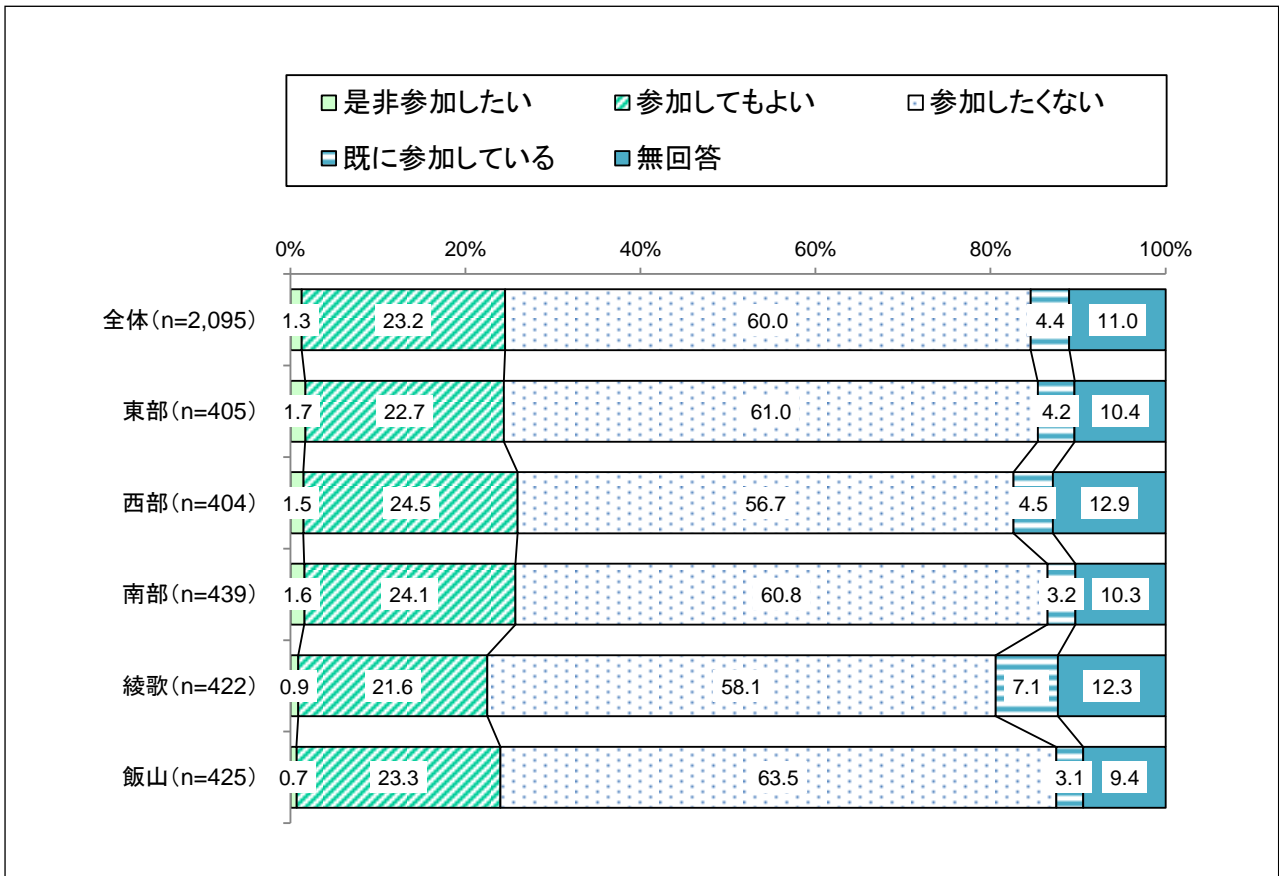
#### 【属性別の傾向】

圏域別にみると、『企画・運営として参加してもよい』は、西部（26.0%）が最も高くなっています。一方、「既に参加している」は綾歌（7.1%）が最も高くなっています。

図表 36 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、前回比較）



図表 37 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、圏域別）



## 6 たすけあいについて

### (1) 心配事などの相談相手について

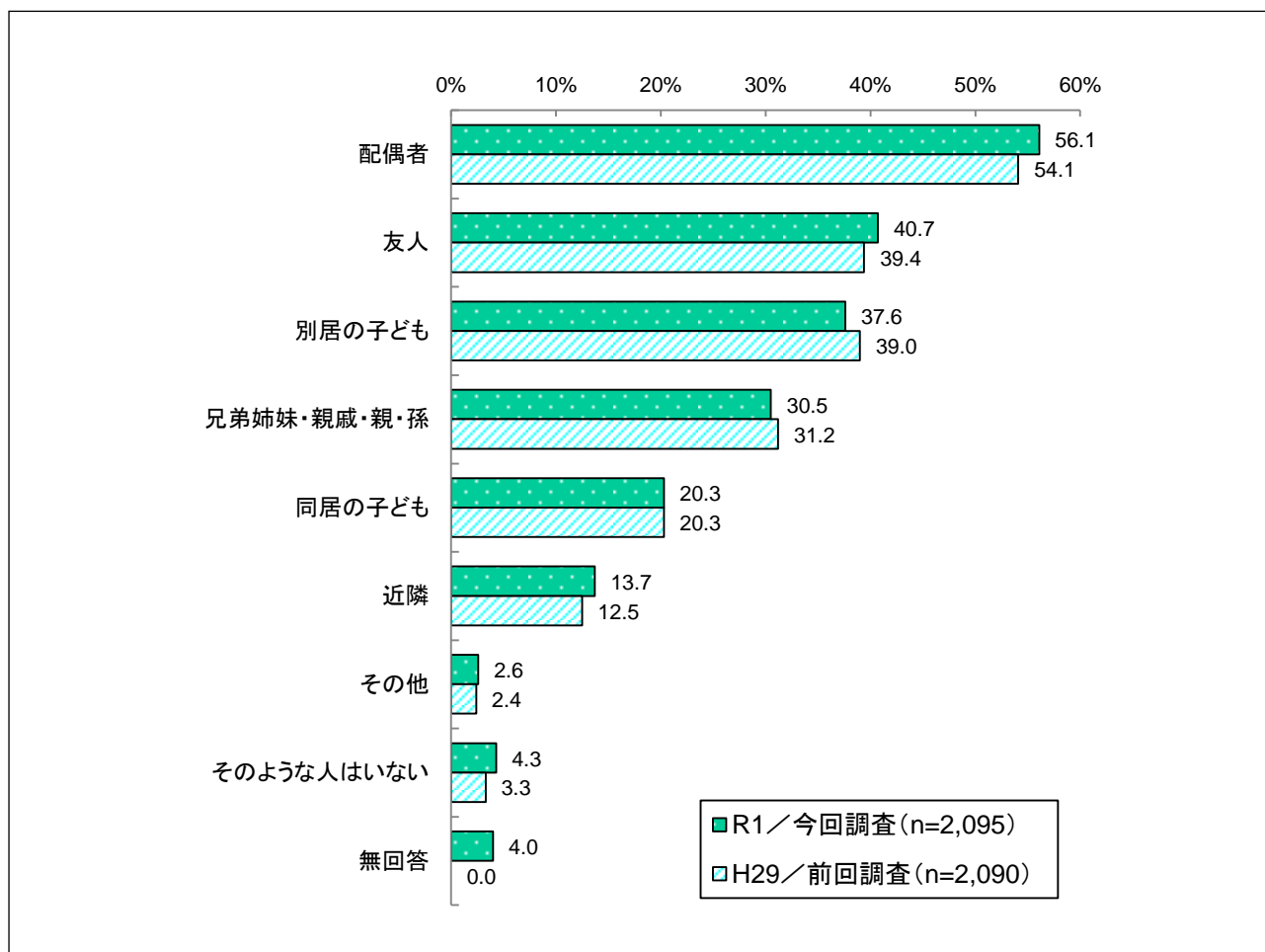
問6 (1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

#### 【全体の傾向】

心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてみると、「配偶者」(56.1%)が最も多く、次いで「友人」(40.7%)、「別居の子ども」(37.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(30.5%)、「同居の子ども」(20.3%)と続いています。

前回調査と比較すると、「配偶者」、「友人」、「近隣」が増加し、「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」は減少しています。

図表 38 心配事や愚痴を聞いてくれる人(全体、前回比較/複数回答)





**【属性別の傾向】**

家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」が最も多くなっています。

夫婦2人暮らしでは、配偶者の年齢に関係なく、「配偶者」が最も多くなっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が最も多くなっています。

**図表 39 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）**

＜上位3位/単位％＞

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者 56.1	友人 40.7	別居の子ども 37.6
家族 構成 別	1人暮らし(n=357)	友人 45.7	別居の子ども 45.4	兄弟姉妹・親戚・親・孫 32.5
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=880)	配偶者 80.7	別居の子ども 44.9	友人 39.2
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=110)	配偶者 84.5	友人 38.2	別居の子ども 27.3
	息子・娘との2世帯(n=375)	同居の子ども 56.3	配偶者 50.1	友人 39.2
	その他(n=292)	配偶者 53.8	友人 41.8	同居の子ども 39.0

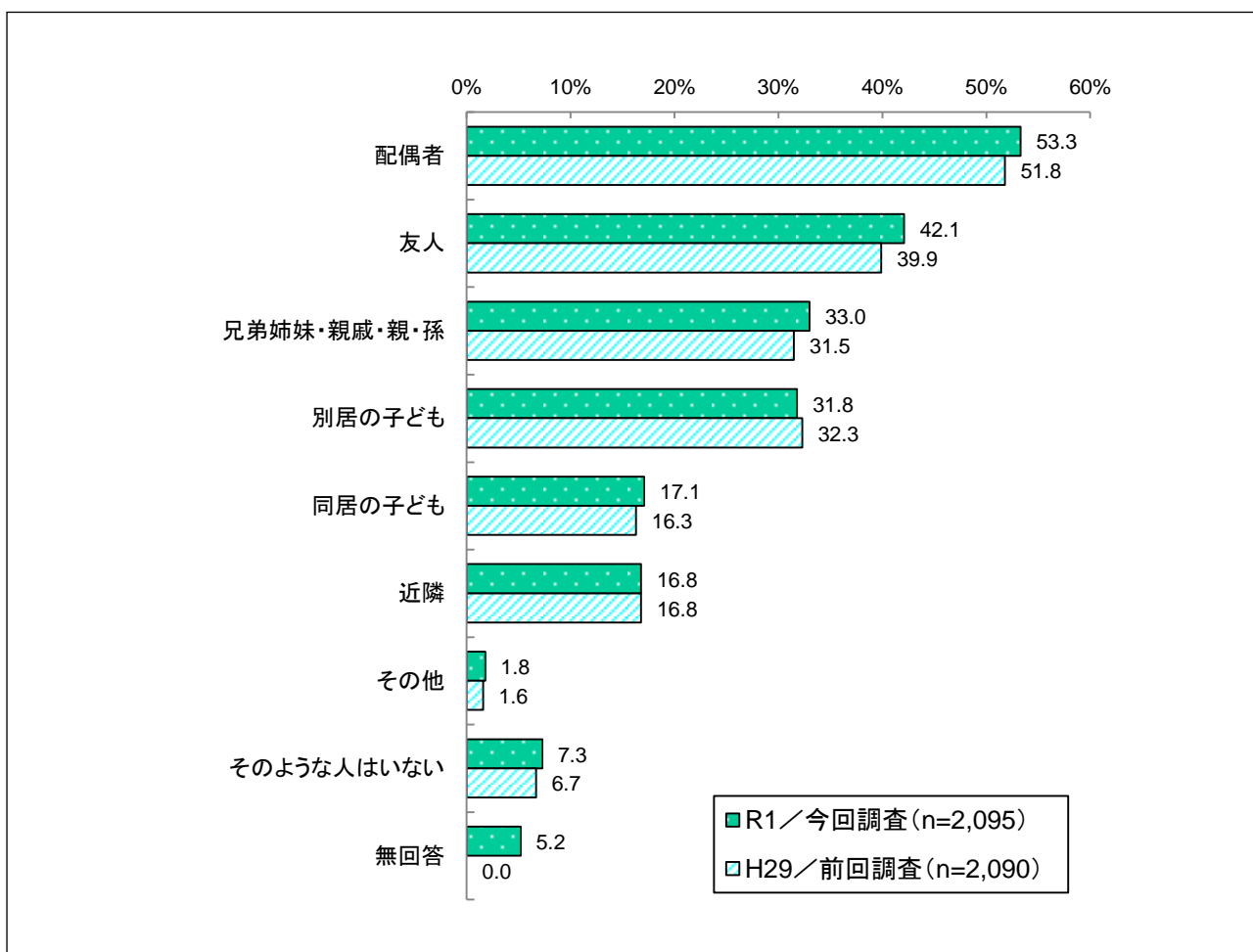
問6（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

【全体の傾向】

心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、「配偶者」(53.3%)が最も多く、次いで「友人」(42.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(33.0%)、「別居の子ども」(31.8%)、「同居の子ども」(17.1%)と続いています。

前回調査と比較すると、全体的に増加傾向にある中で、「別居の子ども」のみが0.5ポイントと僅かに減少しています。

図表 40 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体、前回比較／複数回答）



**【属性別の傾向】**

家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」が最も多くなっています。

夫婦2人暮らしでは、配偶者の年齢に関係なく「配偶者」が最も多く、それ以下の順位も同様となっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が上位に挙げられています。

**図表 41 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体、家族構成別／複数回答）**

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者 53.3	友人 42.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 33.0
家族構成別	1人暮らし(n=357)	友人 47.9	別居の子ども 31.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 30.0
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=880)	配偶者 76.6	友人 40.9	別居の子ども 39.3
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=110)	配偶者 81.8	友人 42.7	別居の子ども 27.3
	息子・娘との2世帯(n=375)	配偶者 45.6	同居の子ども 45.1	友人 40.5
	その他(n=292)	配偶者 52.7	友人 38.0	兄弟姉妹・親戚・親・孫 36.3

## (2) 病気の際の世話人について

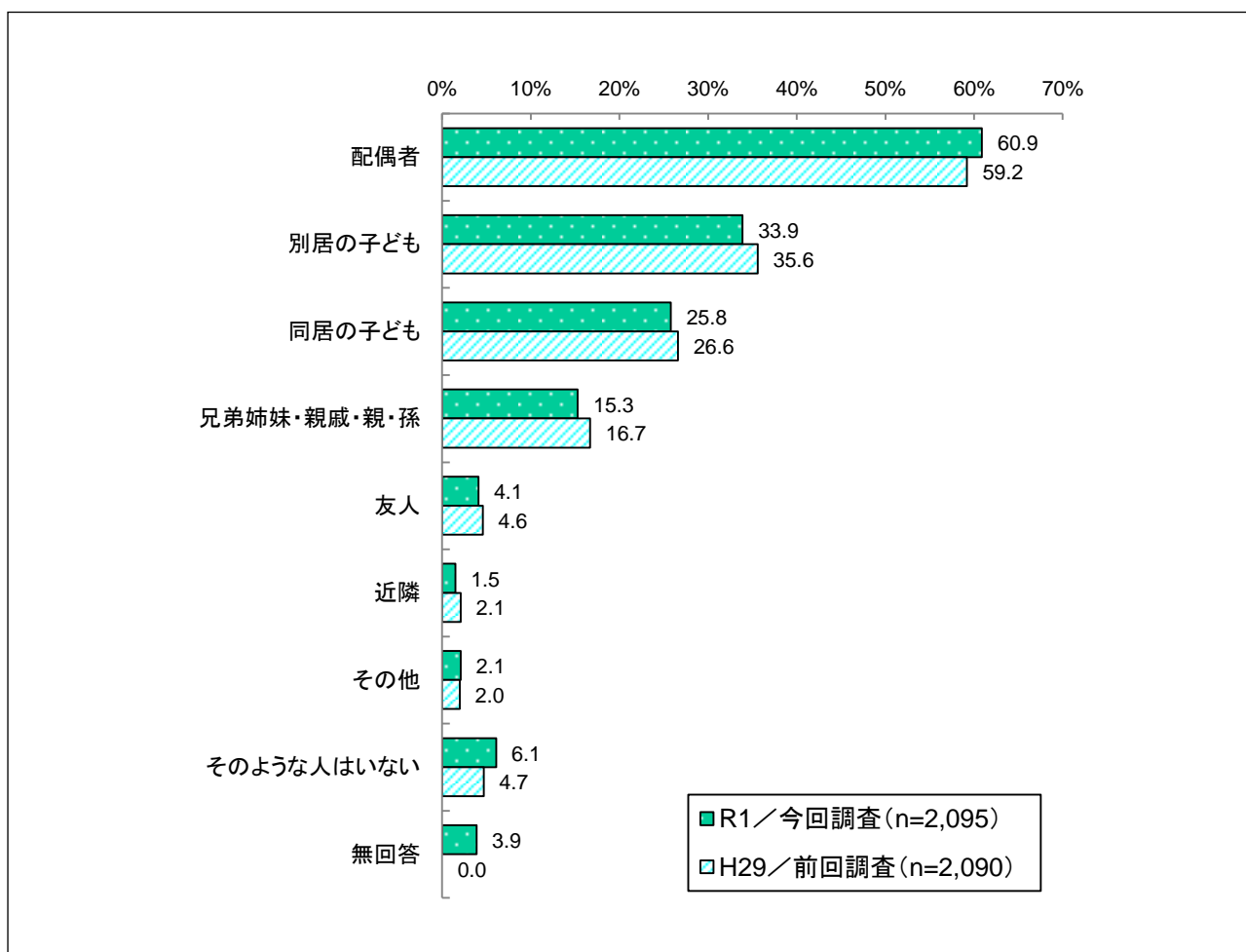
問6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

### 【全体の傾向】

病気で寝込んだ際に看病してくれる人についてみると、「配偶者」(60.9%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(33.9%)、「同居の子ども」(25.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(15.3%)、と上位4位まではすべて親族となっています。さらに「友人」(4.1%)、「近隣」(1.5%)と続いています。割合に大差がみられます。

前回調査と比較すると、それぞれの割合に増減はあるものの、傾向に大きな違いはみられません。

図表 42 看病や世話をしてくれる人(全体、前回比較/複数回答)



**【属性別の傾向】**

家族構成別にみると、1人暮らしでは「別居の子ども」が第1位となっています。

夫婦2人暮らしでは、配偶者の年齢に関係なく、「配偶者」が最も多く、その割合は突出しています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

**図表 43 看病や世話をしてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）**

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者 60.9	別居の子ども 33.9	同居の子ども 25.8
家族構成別	1人暮らし(n=357)	別居の子ども 47.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 23.0	そのような人はいない 22.7
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=880)	配偶者 87.7	別居の子ども 39.2	兄弟姉妹・親戚・親・孫 11.9
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=110)	配偶者 90.0	別居の子ども 18.2	同居の子ども 12.7
	息子・娘との2世帯(n=375)	同居の子ども 73.1	配偶者 53.1	別居の子ども 23.5
	その他(n=292)	配偶者 58.2	同居の子ども 50.0	別居の子ども 21.6

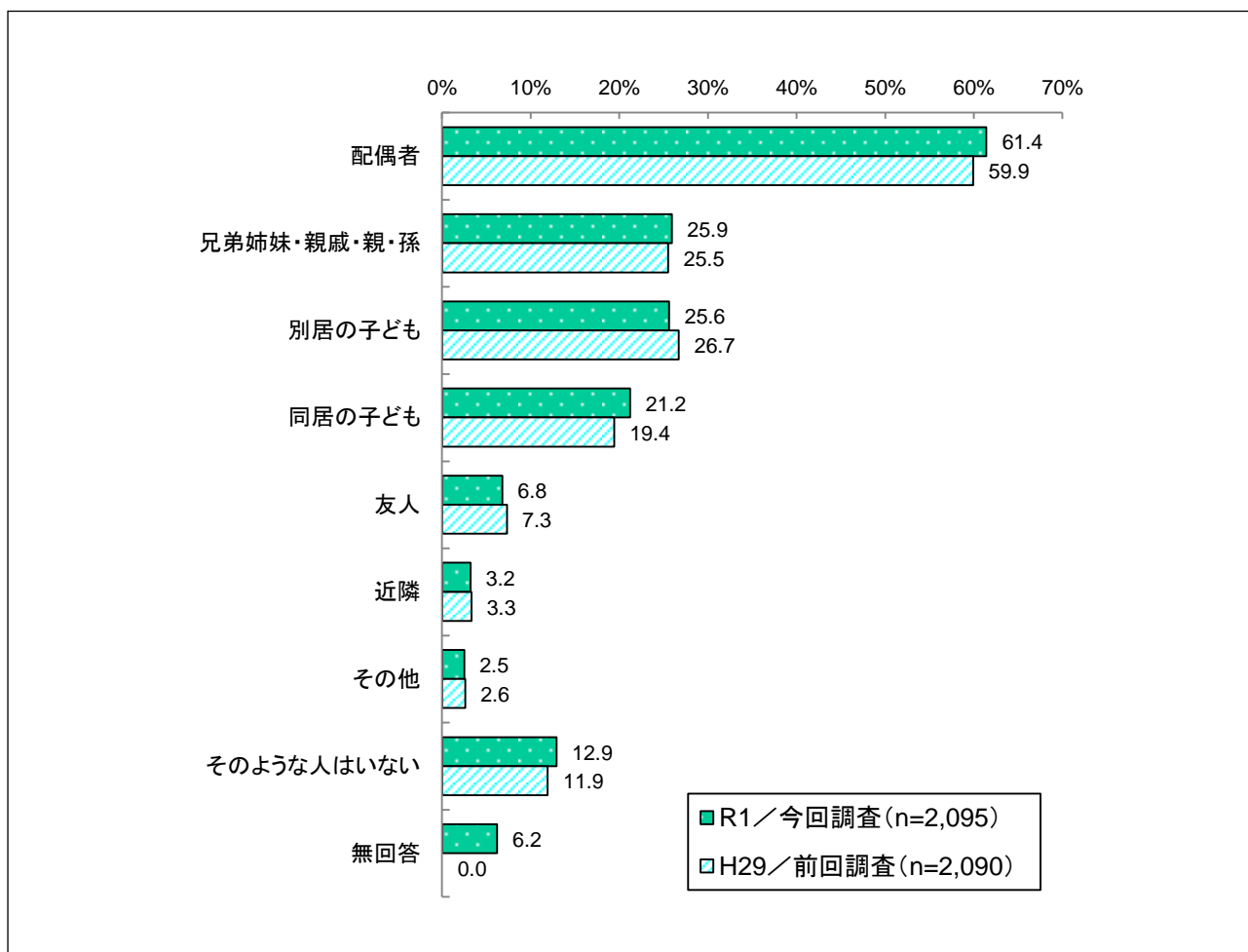
問6 (4) 反対に、看病や世話をしあける人(いくつでも)

【全体の傾向】

病気の際に看病や世話をしあける人についてみると、「配偶者」(61.4%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(25.9%)、「別居の子ども」(25.6%)、「同居の子ども」(21.2%)と続いており、上位4位までは、看病や世話をしてくれる人と同様にすべて親族となっています。

前回調査と比較すると、それぞれの割合に増減はあるものの、傾向に大きな違いはみられません。

図表 44 看病や世話をしあける人(全体、前回比較/複数回答)



**【属性別の傾向】**

家族構成別にみると、1人暮らしでは「そのような人はいない」が第1位となっており、第2位が「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、第3位が「別居の子ども」となっています。

夫婦2人暮らしでは、配偶者の年齢に関わらず「配偶者」が第1位となっており、その割合はいずれも突出しています。

息子・娘との2世帯では、「配偶者」が第1位となっていますが、第2位の「同居の子ども」も、ほぼ同様の割合で5割を超えています。

**図表 45 看病や世話をしあける人（全体、家族構成別／複数回答）**

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=2,095)		配偶者 61.4	兄弟姉妹・親戚・親・孫 25.9	別居の子ども 25.6
家族構成別	1人暮らし(n=357)	そのような人はいない 39.2	兄弟姉妹・親戚・親・孫 26.1	別居の子ども 25.2
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=880)	配偶者 86.5	別居の子ども 30.5	兄弟姉妹・親戚・親・孫 24.3
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=110)	配偶者 90.0	別居の子ども 20.9	兄弟姉妹・親戚・親・孫 14.5
	息子・娘との2世帯(n=375)	配偶者 55.5	同居の子ども 53.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 26.1
	その他(n=292)	配偶者 61.3	同居の子ども 46.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 34.2

## 7 健康について

### (1) 主観的健康感

問7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

#### 【全体の傾向】

現在の健康状態についてみると、64.3%が「まあよい」と回答しており、「とてもよい」(8.1%)と合計すると、健康状態が『よい』が72.4%となっています。

前回調査と比較すると、「とてもよい」が1.4ポイント増加しています。

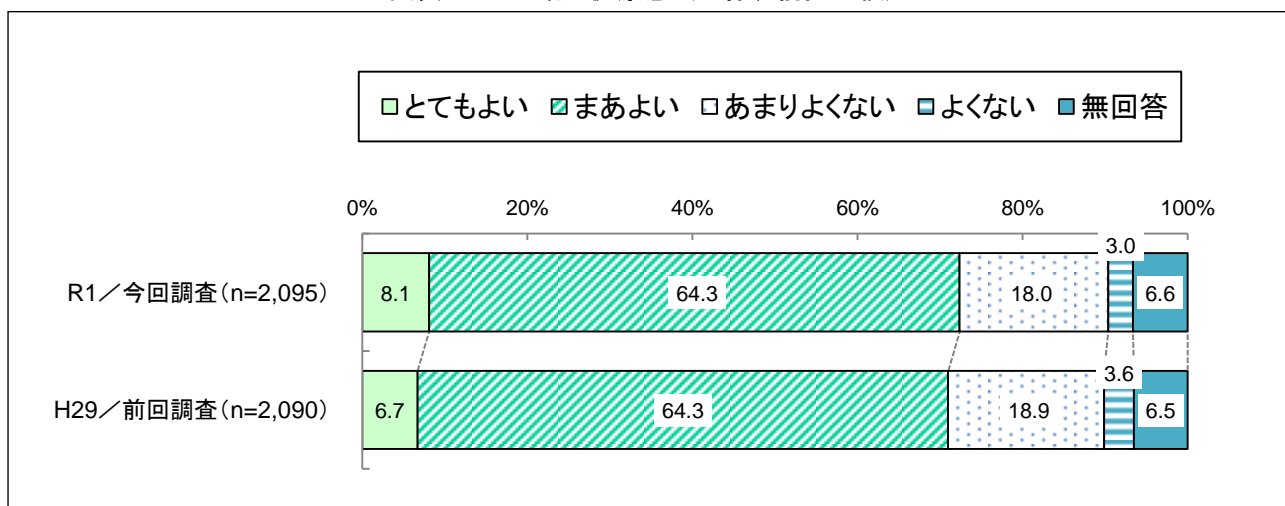
#### 【属性別の傾向】

性別にみると、『よい』の割合は、女性(73.3%)が男性(71.4%)を1.9ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、『よい』の割合は、前期高齢者(78.4%)が後期高齢者(65.3%)を13.1ポイント上回っています。

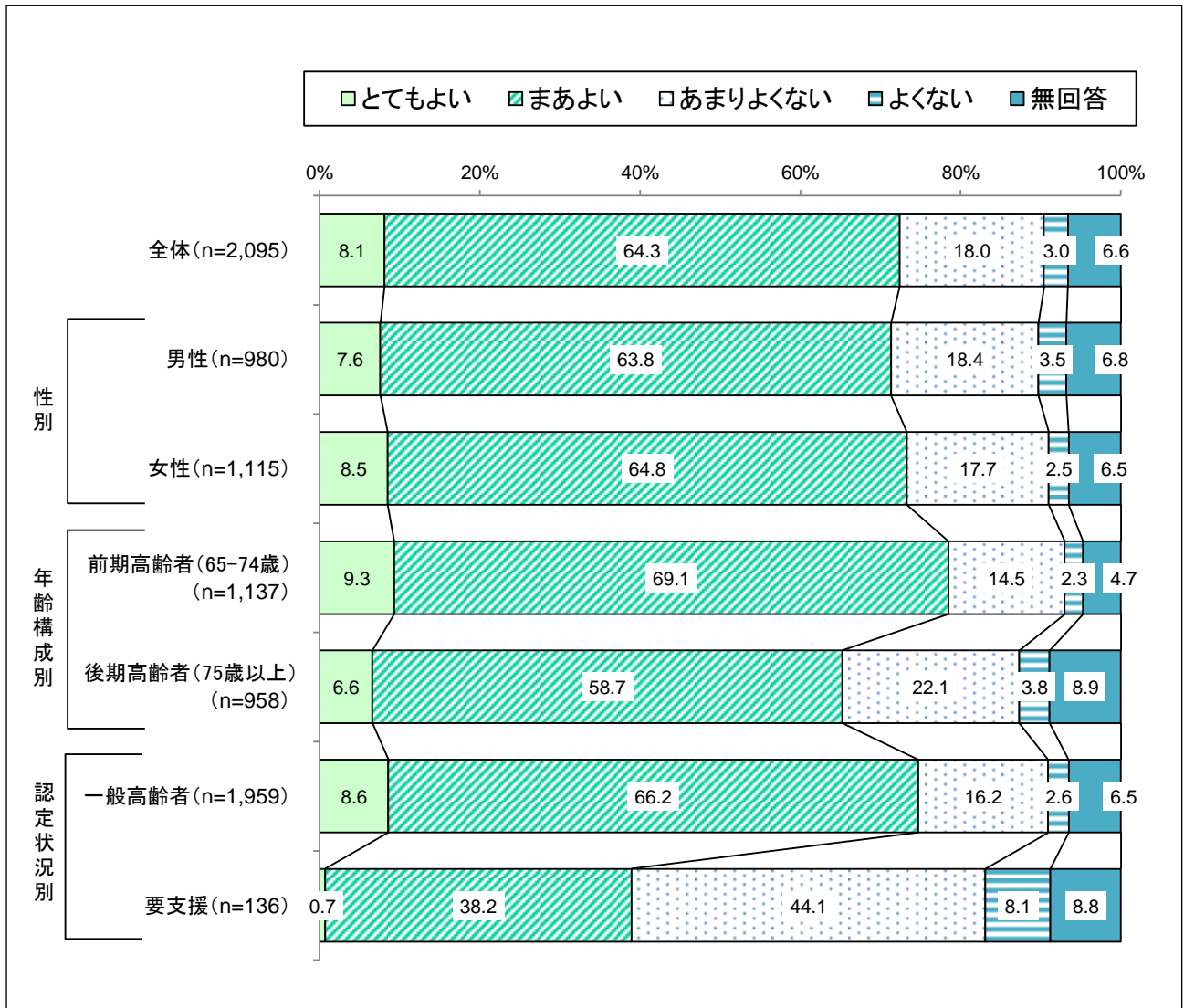
認定状況別にみると、『よい』の割合は、一般では74.8%を占めています。一方、要支援では「あまりよくない」が44.1%、「よくない」が8.1%となっており、合計すると5割を超える人が健康状態は『よくない』と回答しています。

図表 46 主観的健康感（全体、前回比較）





図表 47 主観的健康感（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



## (2) 主観的幸福感

問7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

### 【全体の傾向】

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、「8点」が21.6%と最も高く、次いで「5点」(20.1%)、「7点」(15.0%)、「10点(とても幸せ)」(12.8%)などとなっています。5点を中間とすると、『幸せ』と回答した人の方が多くなっています。

前回調査と比較すると、「1点」、「2点」、「5点」、「7点」、「9点」が増加しています。

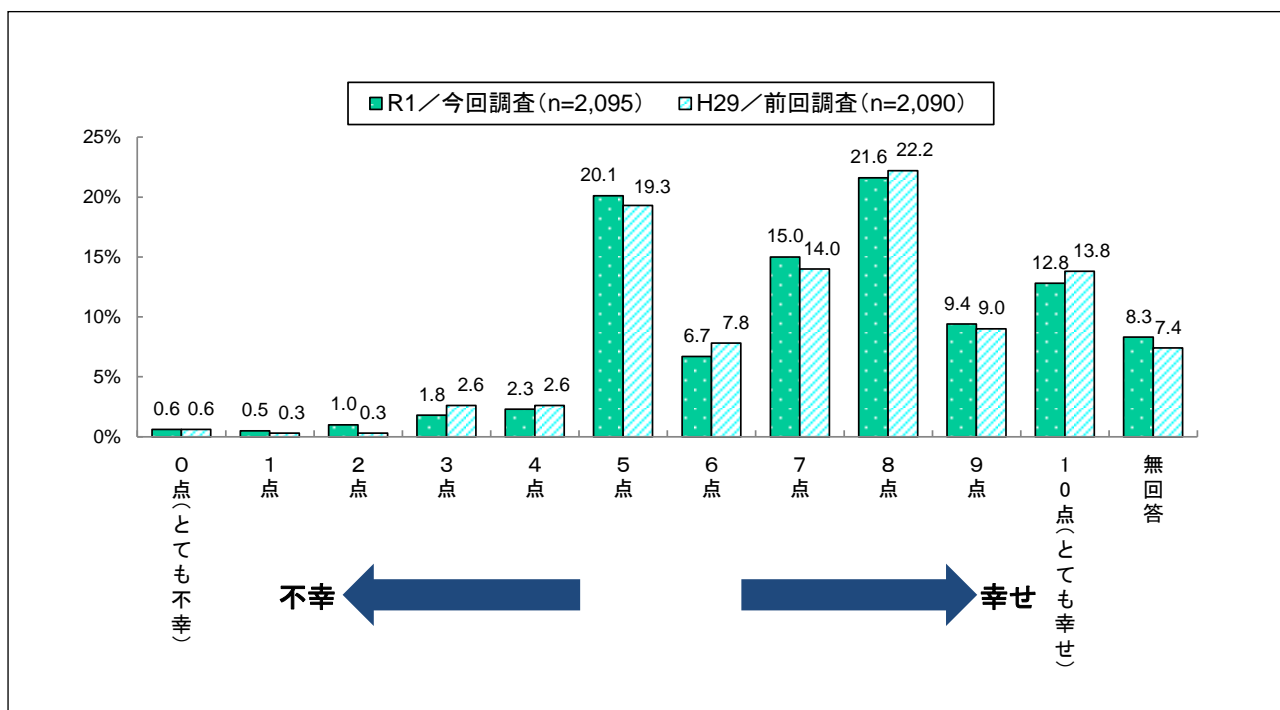
### 【属性別の傾向】

性別の平均点をみると、女性(7.29点)が男性(6.80点)を0.49点上回っています。

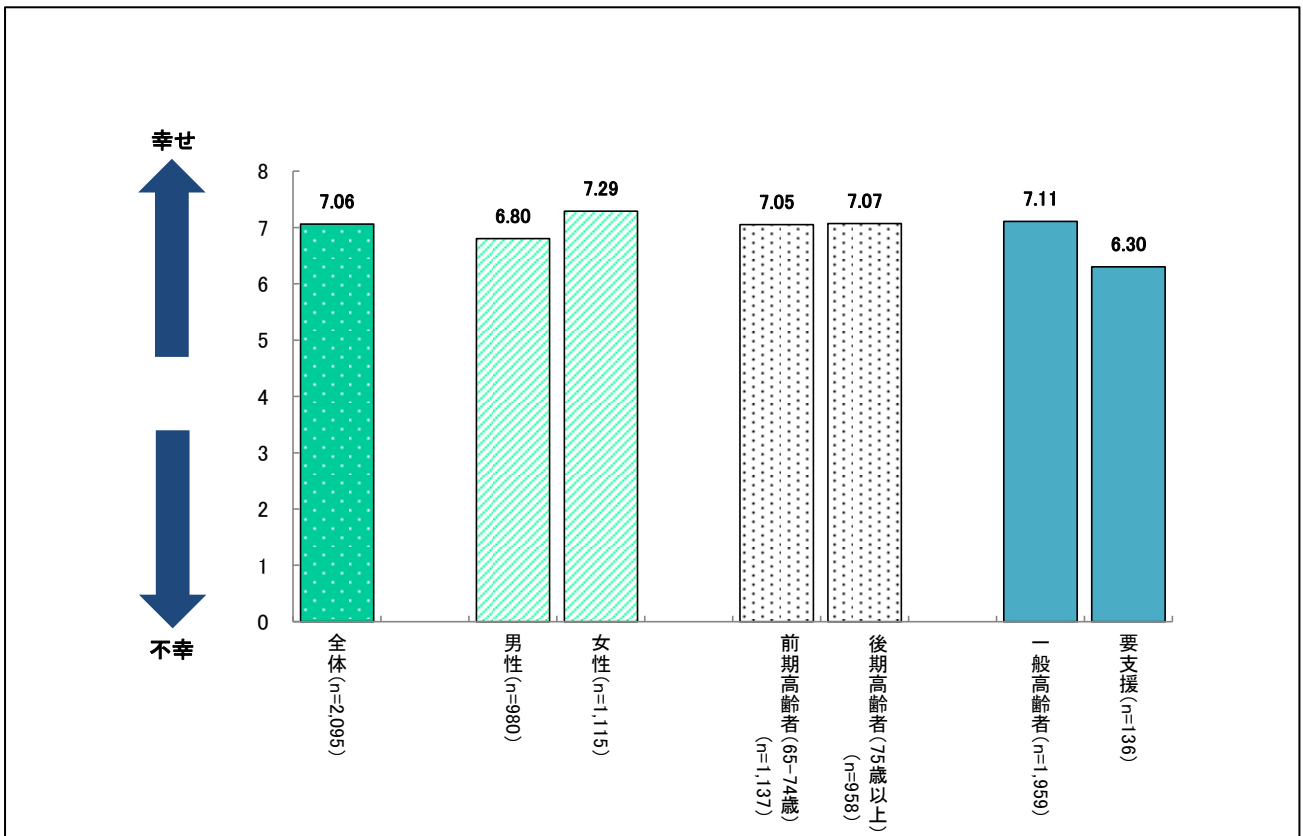
年齢構成別の平均点をみると、後期高齢者(7.07点)が前期高齢者(7.05点)を0.02点上回っています。

認定状況別の平均点をみると、一般高齢者(7.11点)が要支援(6.30点)を0.81ポイント上回っています。

図表 48 主観的幸福感(全体、前回比較)



図表 49 主観的幸福感（平均点）（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



### (3) うつ傾向について

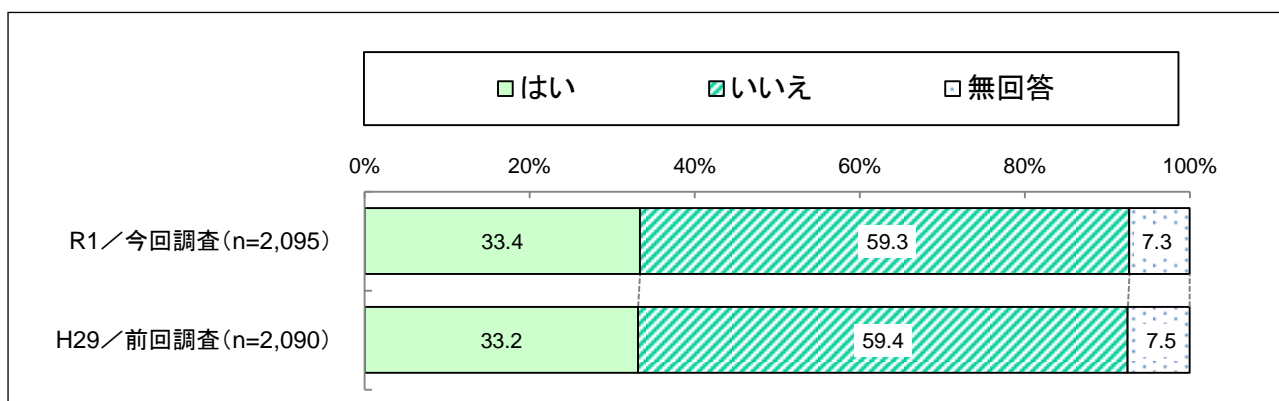
問7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

#### 【全体の傾向】

この1か月間で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったかについてみると、「はい」が33.4%、「いいえ」が59.3%となっています。

前回調査と比較すると、あまり大きな違いはみられません。

図表 50 ゆうつな気持ちになったことがあるか（全体、前回比較）



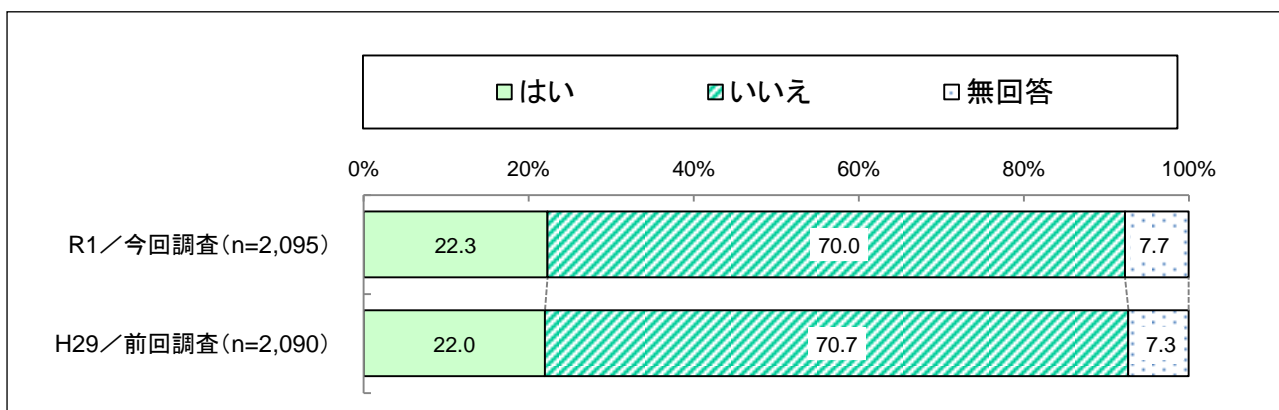
問7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

#### 【全体の傾向】

この1か月間で物事に対して興味がわかない、楽しめないと感じたかについてみると、「はい」が22.3%、「いいえ」が70.0%となっています。

前回調査と比較すると、あまり大きな違いはみられません。

図表 51 物事に興味がわかない、楽しめないことについて（全体、前回比較）



#### (4) 喫煙の習慣

##### 問7 (5) タバコは吸っていますか

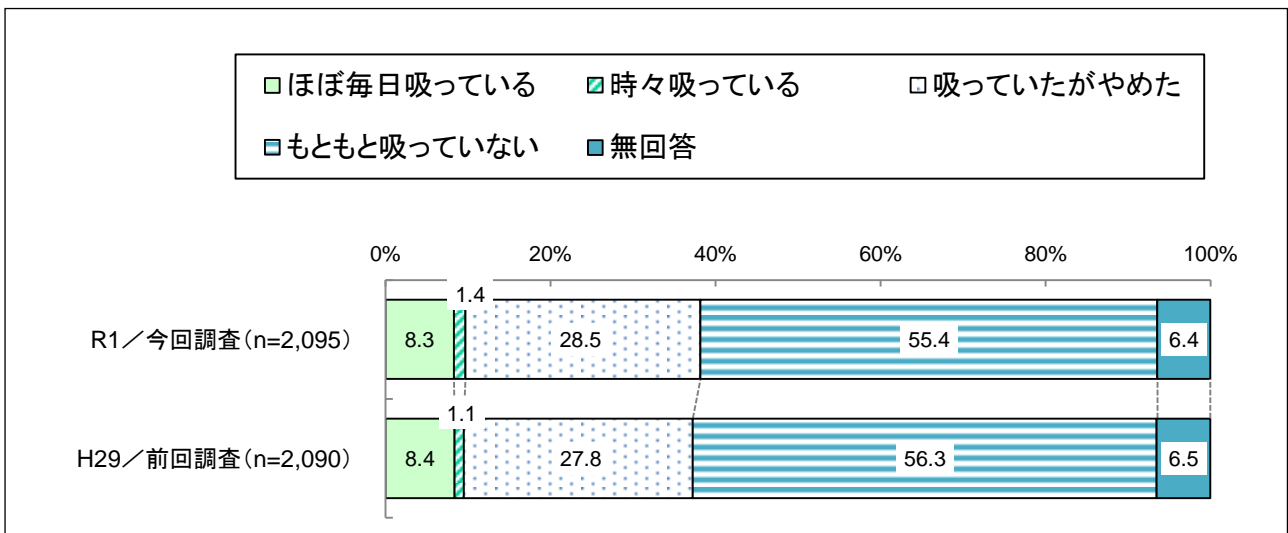
##### 【全体の傾向】

喫煙の習慣についてみると、55.4%が「もともと吸っていない」と回答しており、「吸っていたがやめた」(28.5%)を合計すると、83.9%が『現在は吸っていない』と回答していることになります。前回調査と比較すると、『現在は吸っていない』人が0.2ポイント減少しています。

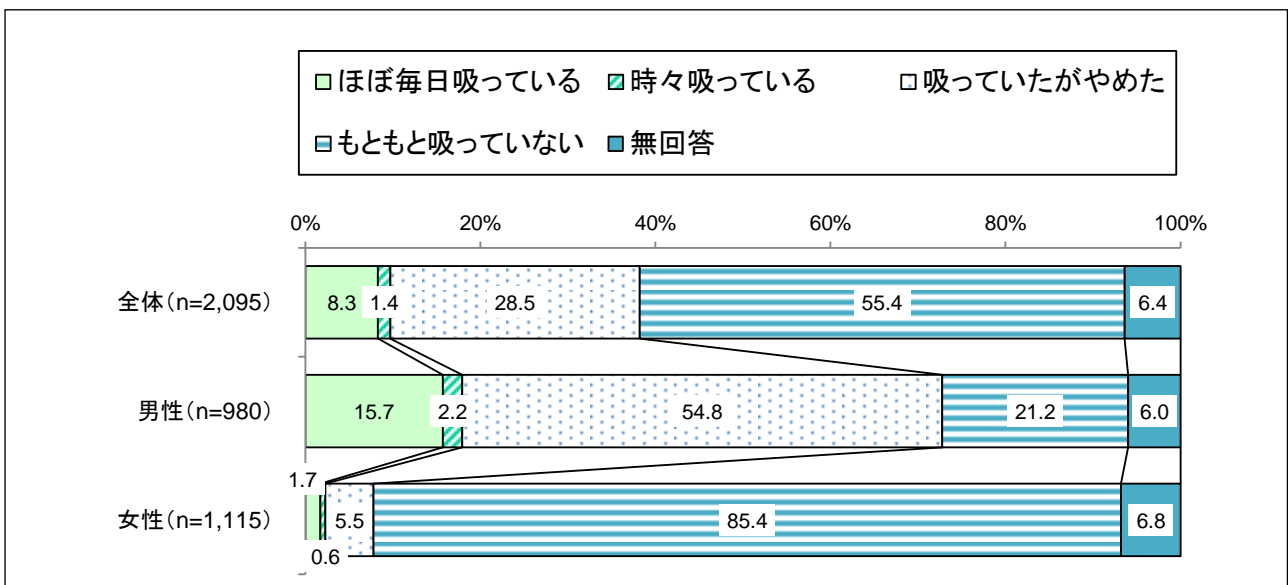
##### 【属性別の傾向】

性別にみると、男性で『現在は吸っていない』人は76.0%となっており、そのうちの54.8%が、「吸っていたがやめた」人となっています。一方、女性では『現在は吸っていない』が90.9%を占めており、そのうちの85.4%が「もともと吸っていない」人となっています。

図表 52 喫煙の習慣（全体、前回比較）



図表 53 喫煙の習慣（全体、性別）



## (5) 現在治療中、後遺症のある病気について

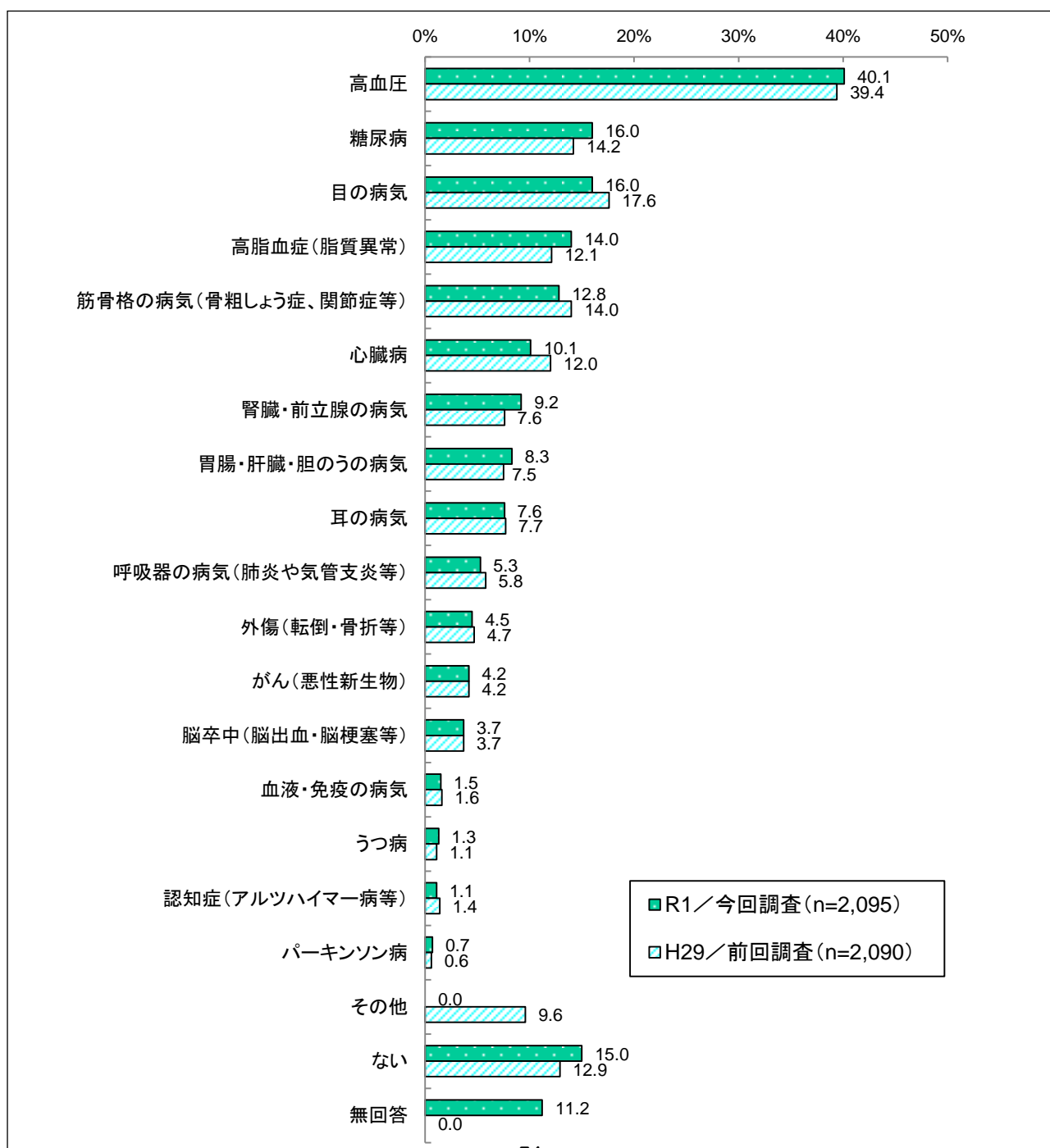
問7 (6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

### 【全体の傾向】

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」(40.1%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで「糖尿病」及び「目の病気」(16.0%)、「高脂血症(脂質異常)」(14.0%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「糖尿病」、「高脂血症(脂質異常)」、「腎臓・前立腺の病気」が1.0ポイント以上増加しています。

図表 54 現在治療中、後遺症のある病気 (全体、前回比較/複数回答)



**【属性別の傾向】**

性別にみると、男性では第2位に「糖尿病」、第3位に「腎臓・前立腺の病気」が挙げられています。一方、女性をみると、第2位に「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、第5位に「高脂血症（脂質異常）」が挙げられており、男女間で罹患している、あるいはしていた病気に違いがみられます。

**図表 55 現在治療中、後遺症のある病気（全体、性別／複数回答）**

〈上位5位/単位%〉

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=2,095)		高血圧 40.1	糖尿病／目の病気 16.0	腎臓・前立腺の病気 15.0	目の病気 15.0	高脂血症(脂質異常) 14.0
性別	男性(n=980)	高血圧 41.9	糖尿病 20.0	腎臓・前立腺の病気 15.8	目の病気 13.5	ない 13.3
	女性(n=1,115)	高血圧 38.6	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等) 19.6	目の病気 18.3	ない 16.6	高脂血症(脂質異常) 16.5

## 8 認知症にかかる相談窓口の把握について

### (1) 認知症の把握について

問8 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

#### 【全体の傾向】

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかどうかをみると、「はい」が9.7%、「いいえ」が83.7%となっています。

#### 【属性別の傾向】

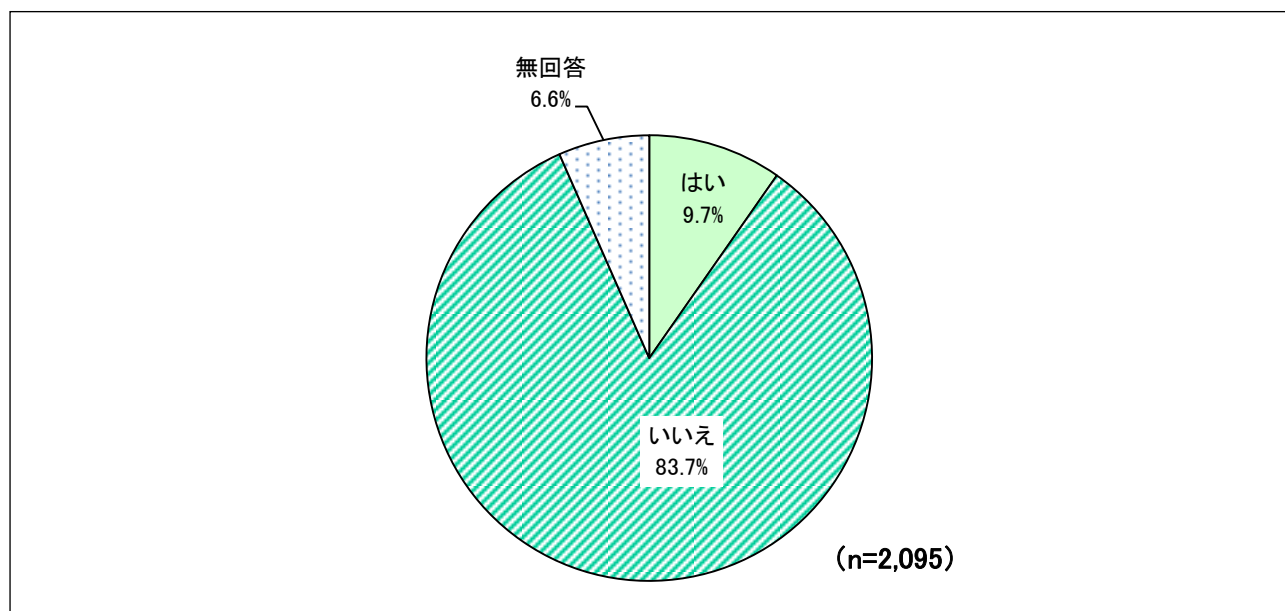
性別にみると、「はい」は、女性(10.1%)が男性(9.3%)を0.8ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、「はい」は、前期高齢者(10.1%)が後期高齢者(9.3%)を0.8ポイント上回っています。

圏域別にみると、「はい」が最も高いのは、飯山(11.5%)となっています。

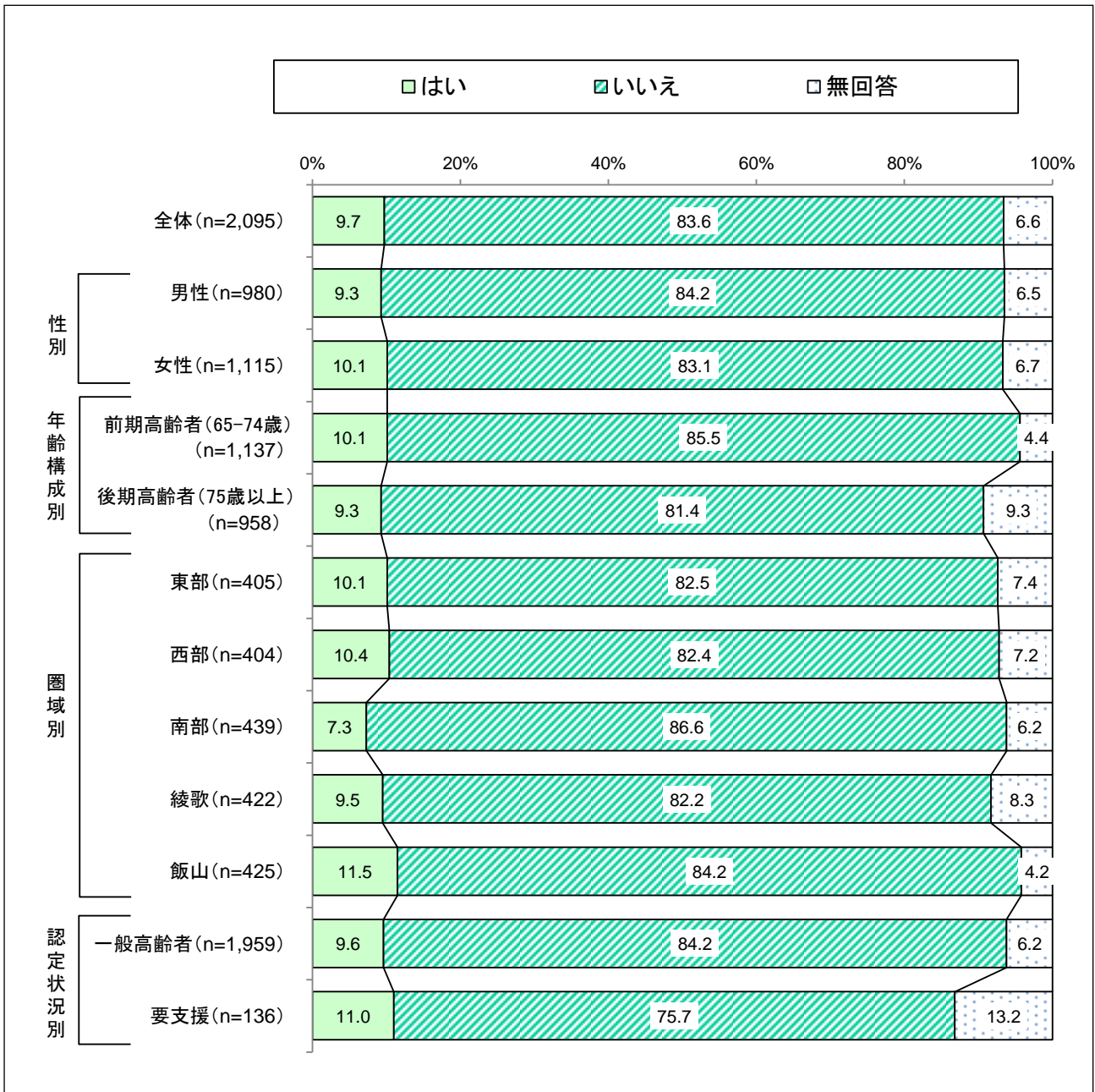
認定状況別にみると、「はい」は、要支援(11.0%)が一般高齢者(9.6%)を1.4ポイント上回っています。

図表 56 認知症の症状の有無について (全体)





図表 57 認知症の症状の有無について（全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別）



## (2) 認知症に関する相談について

### 問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

#### 【全体の傾向】

認知症に関する相談窓口の認知度についてみると、68.3%が「いいえ」と回答しており、「はい」は25.6%にとどまっています。

#### 【属性別の傾向】

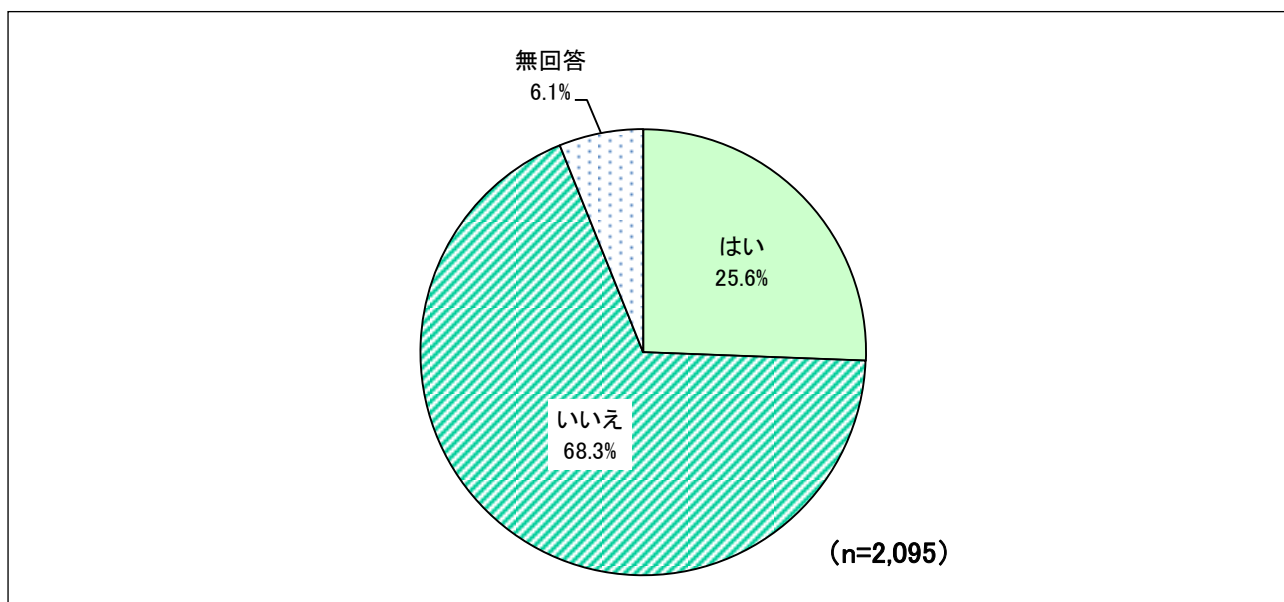
性別にみると、「はい」は、女性(28.2%)が男性(22.7%)を5.5ポイント上回っており、女性の方が窓口の認知度は高くなっています。

年齢構成別にみると、「はい」は、前期高齢者(27.4%)が後期高齢者(23.4%)を4.0ポイント上回っており、認知度は前期高齢者の方が高くなっています。

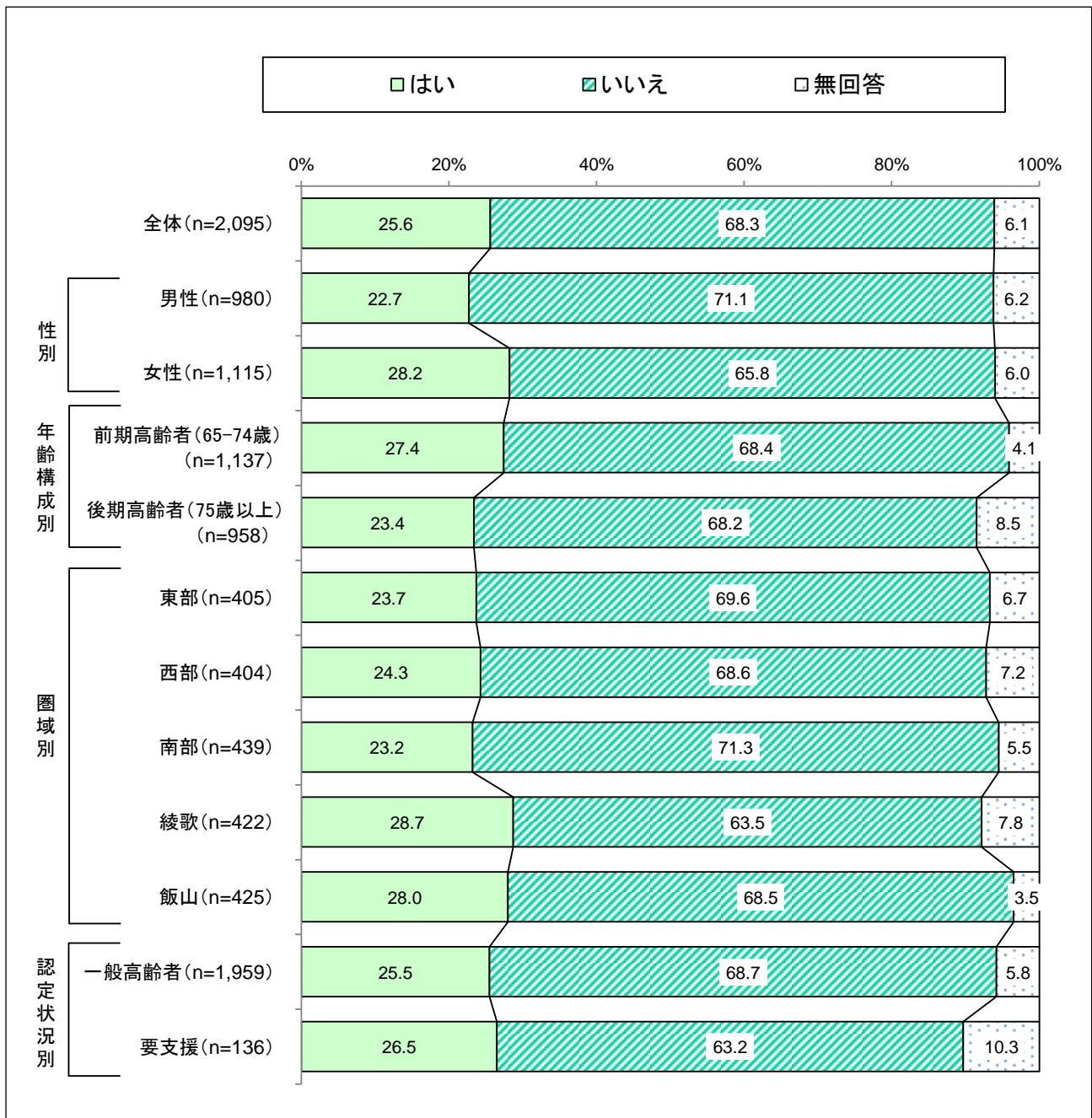
圏域別にみると、「はい」が最も高いのは、綾歌(28.7%)となっています。

認定状況別にみると、「はい」は要支援(26.5%)が一般高齢者(25.5%)を1.0ポイント上回っており、要支援の方が窓口の認知度は高くなっています。

図表 58 認知症に関する相談窓口の認知度(全体)



図表 59 認知症に関する相談窓口の認知度（全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別）



## 9 介護について

### (1) 介護が必要になった場合に希望する暮らし方について

問9 (1) 介護が必要になった場合に、どこでどのように暮らしたいですか

#### 【全体の傾向】

介護が必要になった場合に希望する場所や暮らし方についてみると、「家族に依存せずに生活ができるような介護サービスがあれば自宅で暮らしたい」が27.7%と最も高く、次いで、「自宅で家族の介護と介護保険等のサービスを受けながら暮らしたい」(22.9%)などとなっています。

前回調査と比較すると、自宅を希望する人が減少しており、「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて暮らしたい」と回答した方が増加しています。

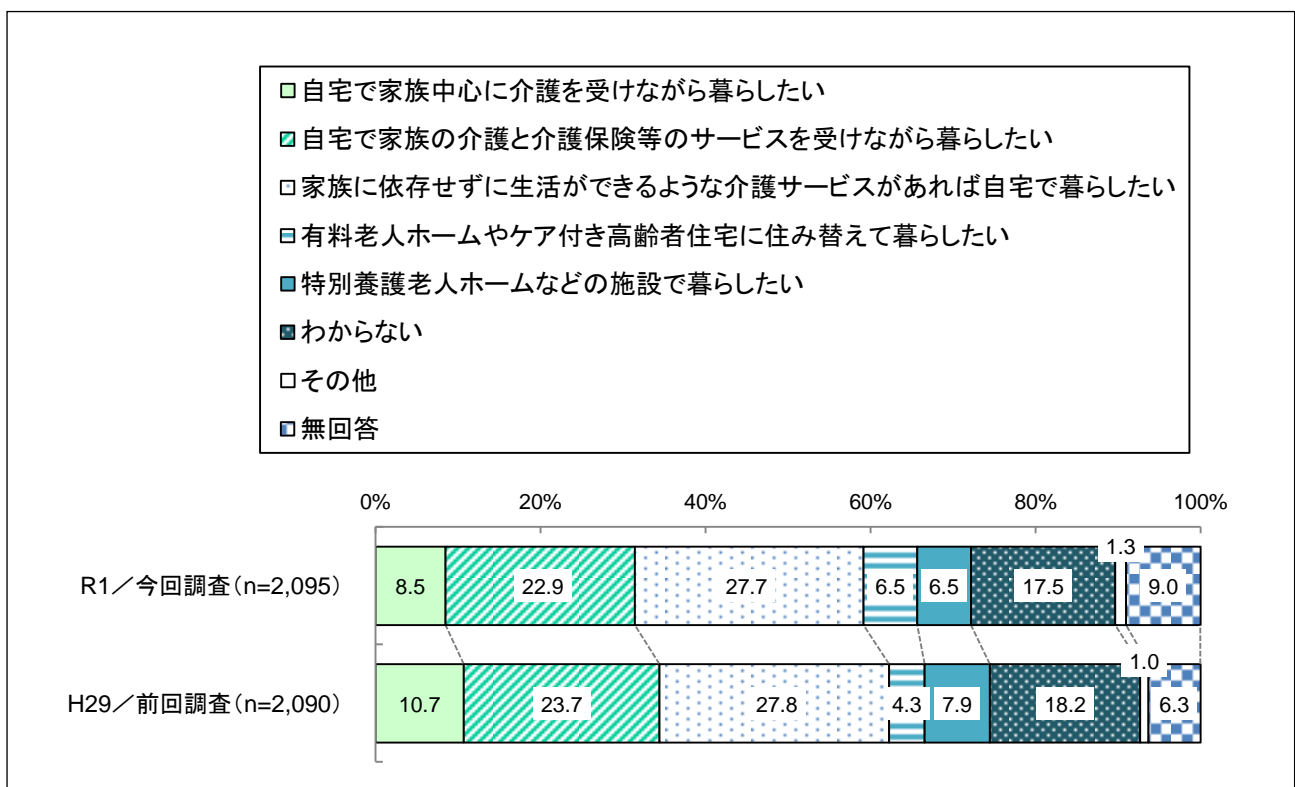
#### 【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに自宅を希望する人が半数以上を占めていますが、その中でも男性では「自宅で家族の介護と介護保険等のサービスを受けながら暮らしたい」(27.8%)が最も高く、女性では「家族に依存せずに生活ができるような介護サービスがあれば自宅で暮らしたい」(33.8%)が最も高くなっています。

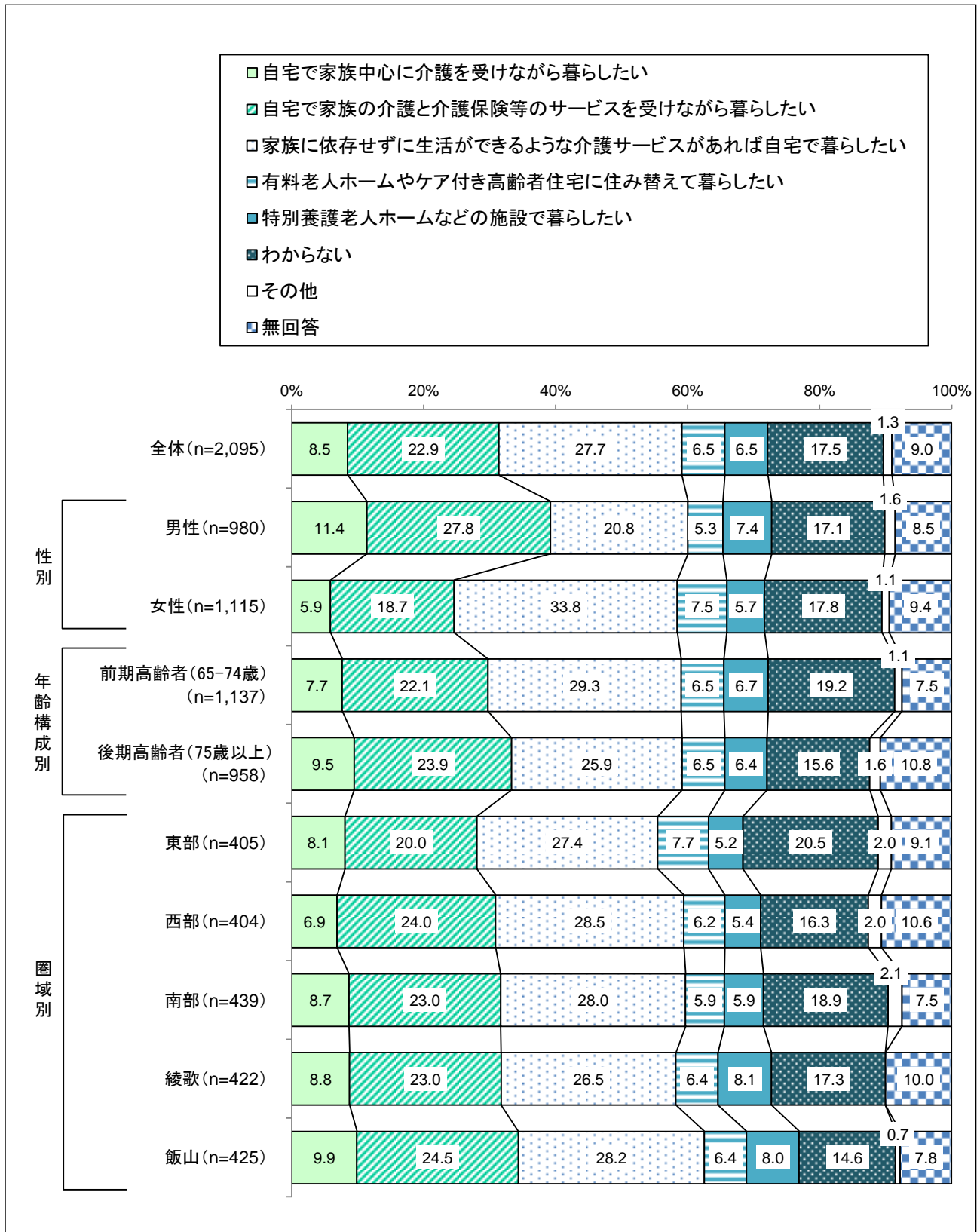
年齢構成別にみると、自宅を希望する人の割合に大差はみられませんが、家族に依存せず自宅での自立した生活を望む割合は、前期高齢者の方が高くなっています。

圏域別にみると、自宅での生活を望む割合は、飯山が最も高くなっています。

図表 60 介護が必要になった場合に希望する暮らし方について（全体、前回比較）



図表 61 要介護になった場合に希望する暮らし方について（全体、性別、年齢構成別、圏域別）



## (2) 最期を迎える場所の希望

問9 (2) 人生の最期をどこで迎えたいと希望しますか

### 【全体の傾向】

最期をどこで迎えたいかについてみると、「自宅」が46.4%と最も高く、その割合は突出しています。次いで「病院などの医療施設」(13.5%)、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」(4.3%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「自宅」が1.9ポイント減少しています。

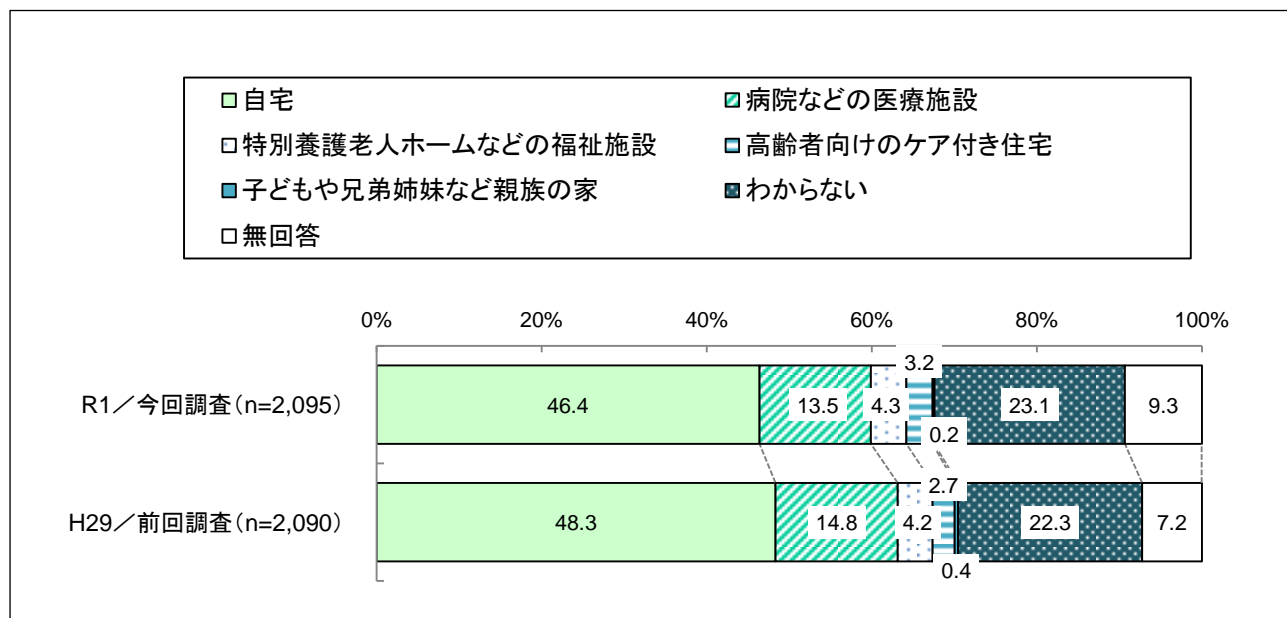
### 【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「自宅」が最も高くなっていますが、その割合をみると、男性53.3%、女性40.4%で男性の方がより自宅での最期を希望しています。

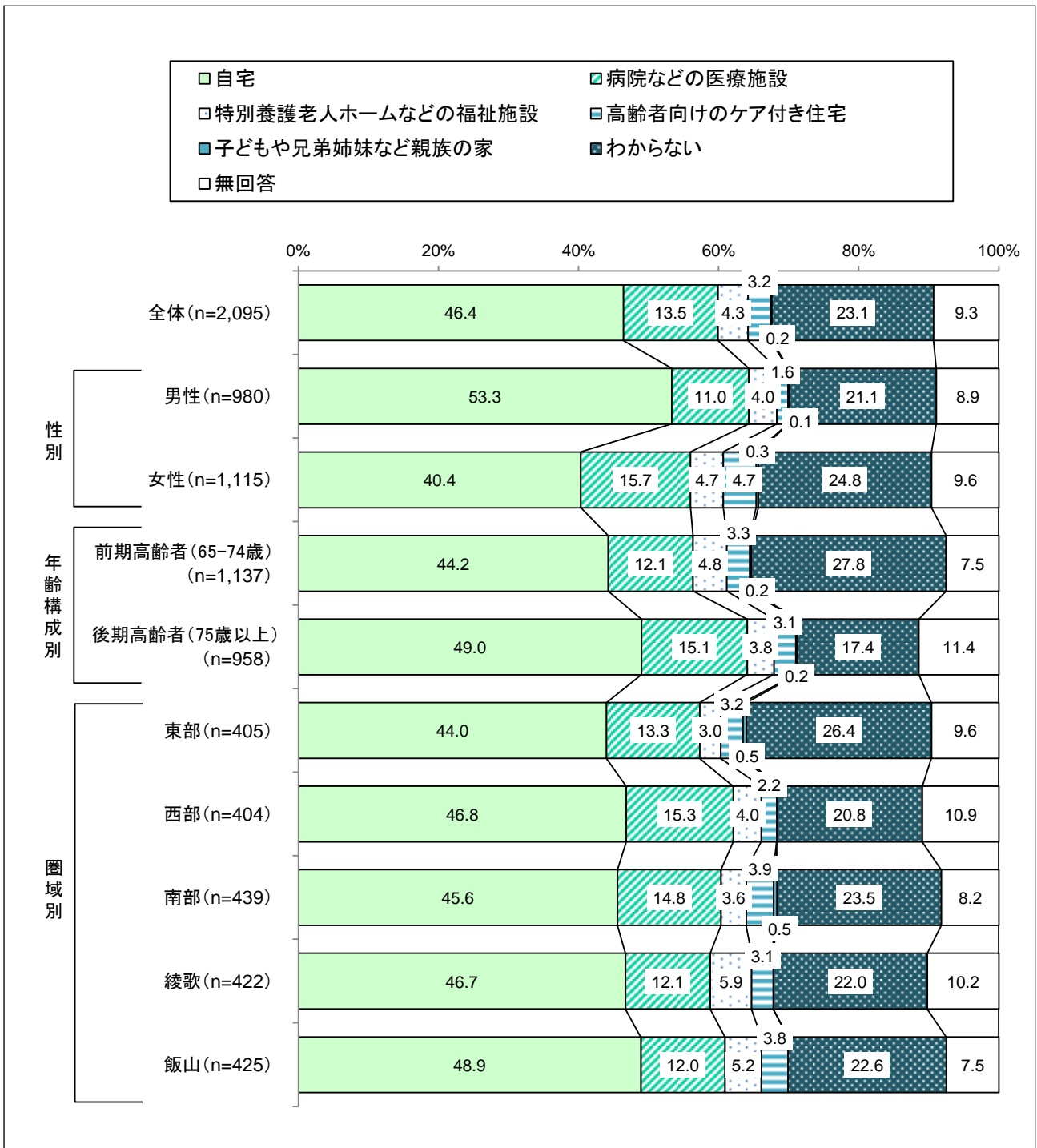
年齢構成別にみると、「自宅」を希望する割合が高いのは後期高齢者(49.0%)で、前期高齢者(44.2%)を4.8ポイント上回っています。

圏域別にみると、いずれの圏域も「自宅」が最も高くなっていますが、その中で最も高いのは、飯山(48.9%)となっています。

図表 62 最期を迎える場所の希望 (全体、前回比較)



図表 63 最期を迎える場所の希望（全体、性別、年齢構成別、圏域別）



【問9（2）で「自宅」と回答した方のみ】

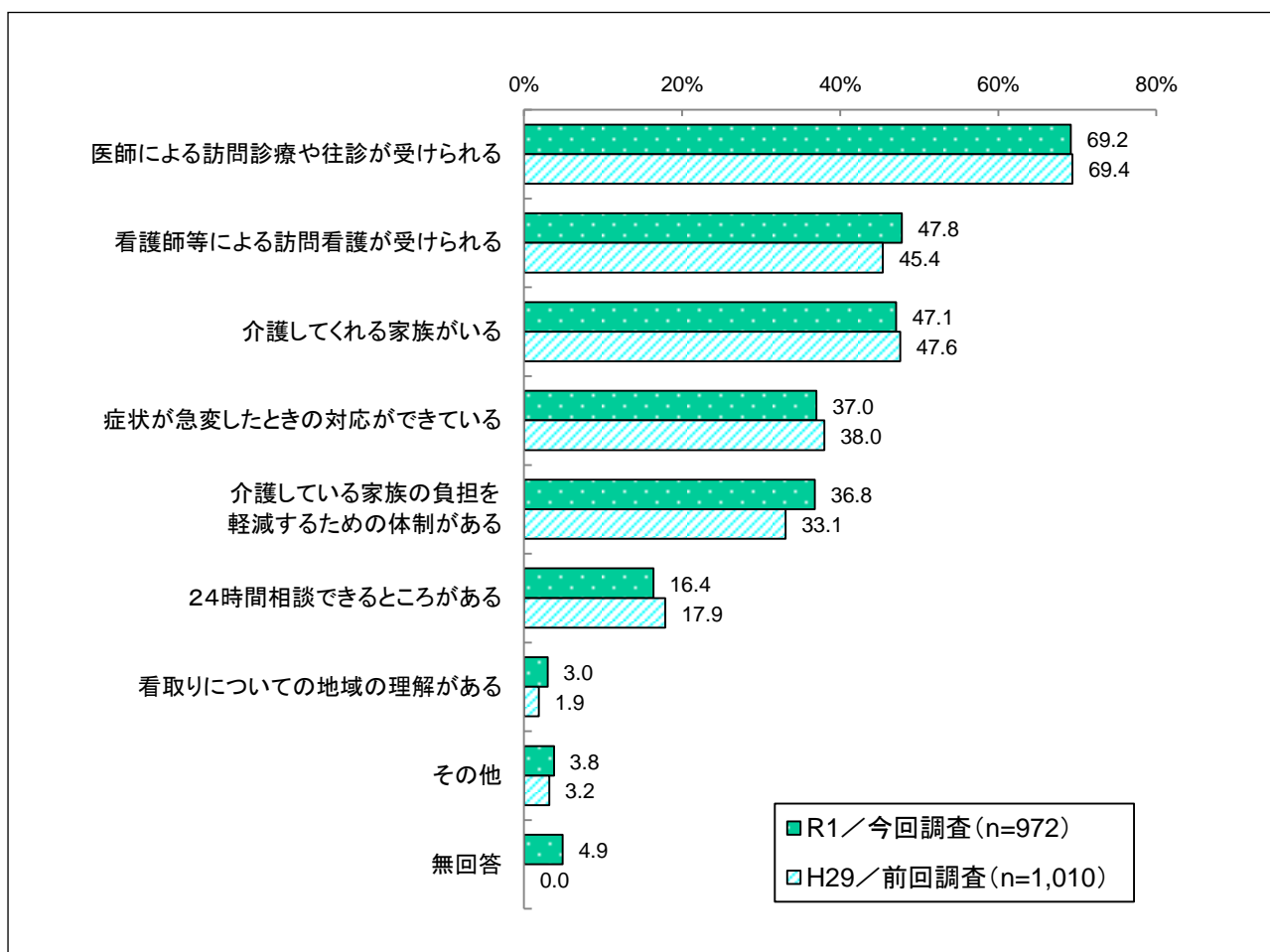
問9（2）①何があれば自宅で最期まで療養できると思いますか（4つまで）

【全体の傾向】

自宅での最期を希望する方に、自宅で最後まで療養できる条件についてたずねてみると、「医師による訪問診療や往診が受けられる」が69.2%で最も多く、次いで「看護師等による訪問看護が受けられる」(47.8%)、「介護してくれる家族がいる」(47.1%)、「症状が急変したときの対応ができている」(37.0%)、「介護している家族の負担を軽減するための体制がある」(36.8%) などとなっています。

前回調査と比較すると、「看護師等による訪問看護が受けられる」、「介護している家族の負担を軽減するための体制がある」、「看取りについての地域の理解がある」が増加しています。

図表 64 自宅で最期まで療養できる条件（全体／複数回答）





**【属性別の傾向】**

性別にみると、男性では「介護してくれる家族がいる」、女性では「介護している家族の負担を軽減するための体制がある」がそれぞれ上位に挙がっています。

認定状況別にみると、要支援では「症状が急変したときの対応ができています」ことも重要視されています。

家族構成別にみると、1人暮らしでは「症状が急変したときの対応ができています」が上位に挙がっています。また、夫婦2人暮らし（配偶者64歳位以下）と息子・娘との2世帯では「介護している家族の負担を軽減するための体制がある」ことも重要視されています。

**図表 65 自宅で最期まで療養できる条件（全体、性別、認定状況別、家族構成別）**

〈上位3位/単位%〉

		第1位	第2位	第3位
全体(n=972)		医師による訪問診療や往診が受けられる 69.2	看護師等による訪問看護が受けられる 47.8	介護してくれる家族がいる 47.1
性別	男性(n=522)	医師による訪問診療や往診が受けられる 66.7	介護してくれる家族がいる 54.8	看護師等による訪問看護が受けられる 45.2
	女性(n=450)	医師による訪問診療や往診が受けられる 72.2	看護師等による訪問看護が受けられる 50.9	介護している家族の負担を軽減するための体制がある 42.2
認定状況別	一般高齢者(n=912)	医師による訪問診療や往診が受けられる 69.4	介護してくれる家族がいる 48.1	看護師等による訪問看護が受けられる 47.7
	要支援(n=60)	医師による訪問診療や往診が受けられる 66.7	看護師等による訪問看護が受けられる 50.0	症状が急変したときの対応ができています／介護してくれる家族がいる 31.7
家族構成別	1人暮らし(n=102)	医師による訪問診療や往診が受けられる 64.7	看護師等による訪問看護が受けられる 58.8	症状が急変したときの対応ができています 38.2
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=441)	医師による訪問診療や往診が受けられる 71.7	看護師等による訪問看護が受けられる 51.0	介護してくれる家族がいる 47.8
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=61)	医師による訪問診療や往診が受けられる 60.7	介護してくれる家族がいる 52.5	介護している家族の負担を軽減するための体制がある 44.3
	息子・娘との2世帯(n=199)	医師による訪問診療や往診が受けられる 69.3	介護してくれる家族がいる 52.8	介護している家族の負担を軽減するための体制がある 46.2
	その他(n=126)	医師による訪問診療や往診が受けられる 69.0	介護してくれる家族がいる 53.2	看護師等による訪問看護が受けられる 45.2

## 10 評価項目別の判定結果

### ・判定方法

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
機能低下の 運動器	問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずにのぼっていますか	「3. できない」
	問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
	問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
	問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1度ある」
	問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」or 「2. やや不安である」
リスク 転倒	問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1度ある」
閉じこもり 傾向	問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」or 「2. 週1回」
機能低下の 認知	問4(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
うつ 傾向	問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
	問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

■判定方法……該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

- ①運動器の機能低下…該当:3点以上
- ②転倒リスク…リスクあり:該当選択肢を回答した場合
- ③閉じこもり傾向…リスクあり:該当選択肢を回答した場合
- ④認知機能の低下…該当:該当選択肢を回答した場合
- ⑤うつ傾向…リスクあり:1点以上

### <老研式活動能力指標>

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
I A D L	問4(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」 or 「2. できるけどしていない」 1点
	問4(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
	問4(4)	自分で食事の用意をしていますか	
	問4(5)	自分で請求書の支払いをしていますか	
	問4(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

■判定方法……該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点

- 5点: 高い
- 4点: やや低い
- 0~3点: 低い

## (1) 運動器の機能低下

### 【全体の傾向】

運動器機能低下のリスク該当者の割合は 18.0%となっています。

### 【属性別の傾向】

性別にみると、女性（24.0%）が、男性（11.2%）を 12.8 ポイント上回っています。

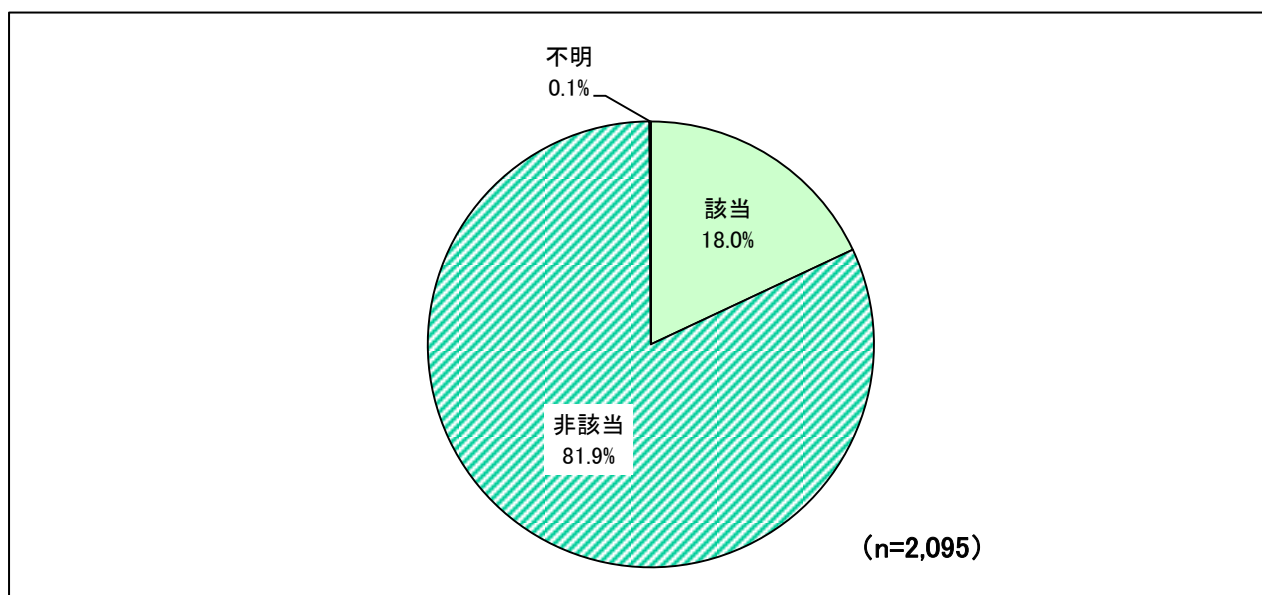
年齢構成別にみると、後期高齢者（27.6%）が、前期高齢者（10.0%）を 17.6 ポイント上回っています。

圏域別にみると、該当者の割合が最も高いのは、東部（20.2%）となっています。

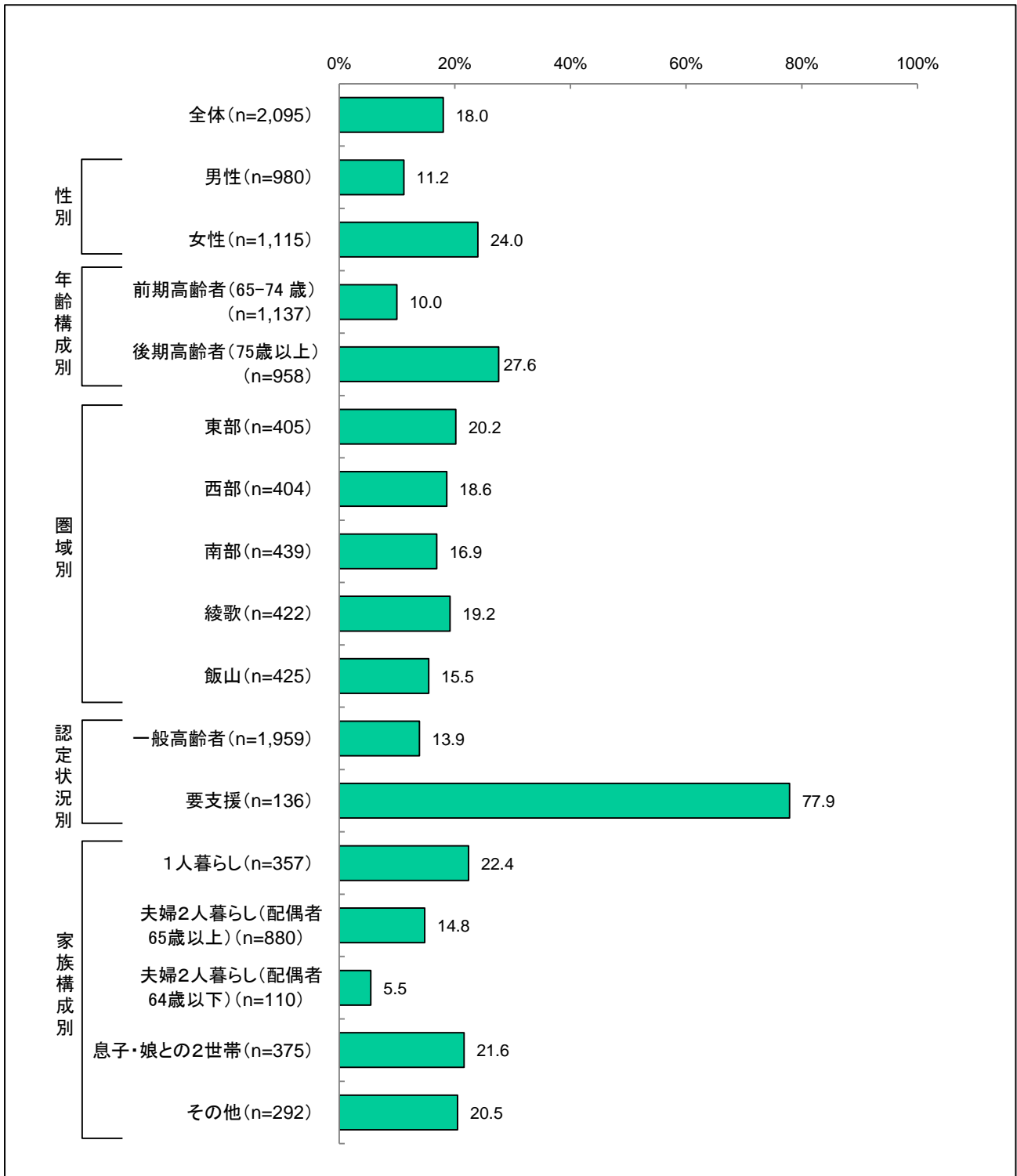
認定状況別にみると、要支援（77.9%）が、一般高齢者（13.9%）を 64.0 ポイントと大きく上回っています。

家族構成別にみると、該当者の割合が最も高いのは、1人暮らし（22.4%）となっています。

図表 66 運動器機能の低下の該当者の割合（全体）



図表 67 運動器機能の低下の該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別、家族構成別)



## (2) 転倒リスク

### 【全体の傾向】

転倒リスク該当者の割合は 36.8%となっています。

### 【属性別の傾向】

性別にみると、女性（39.0%）が、男性（34.3%）を 4.7 ポイント上回っています。

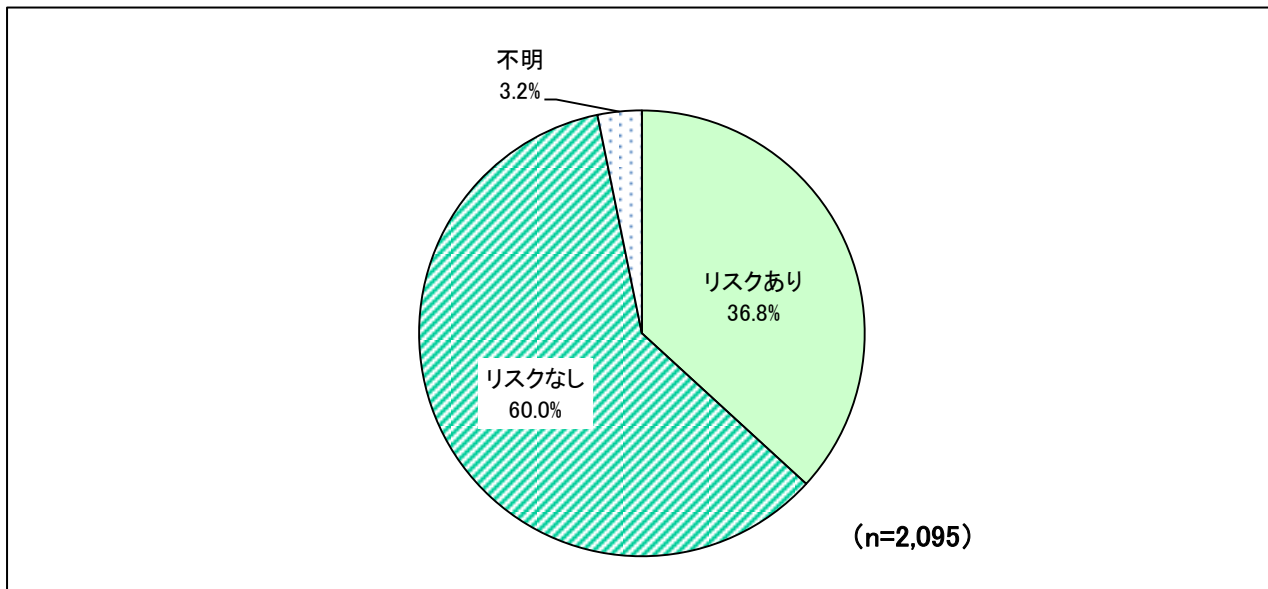
年齢構成別にみると、後期高齢者（42.1%）が、前期高齢者（32.4%）を 9.7 ポイント上回っています。

圏域別にみると、該当者の割合は、東部（38.5%）、綾歌（38.4%）などでやや高くなっています。

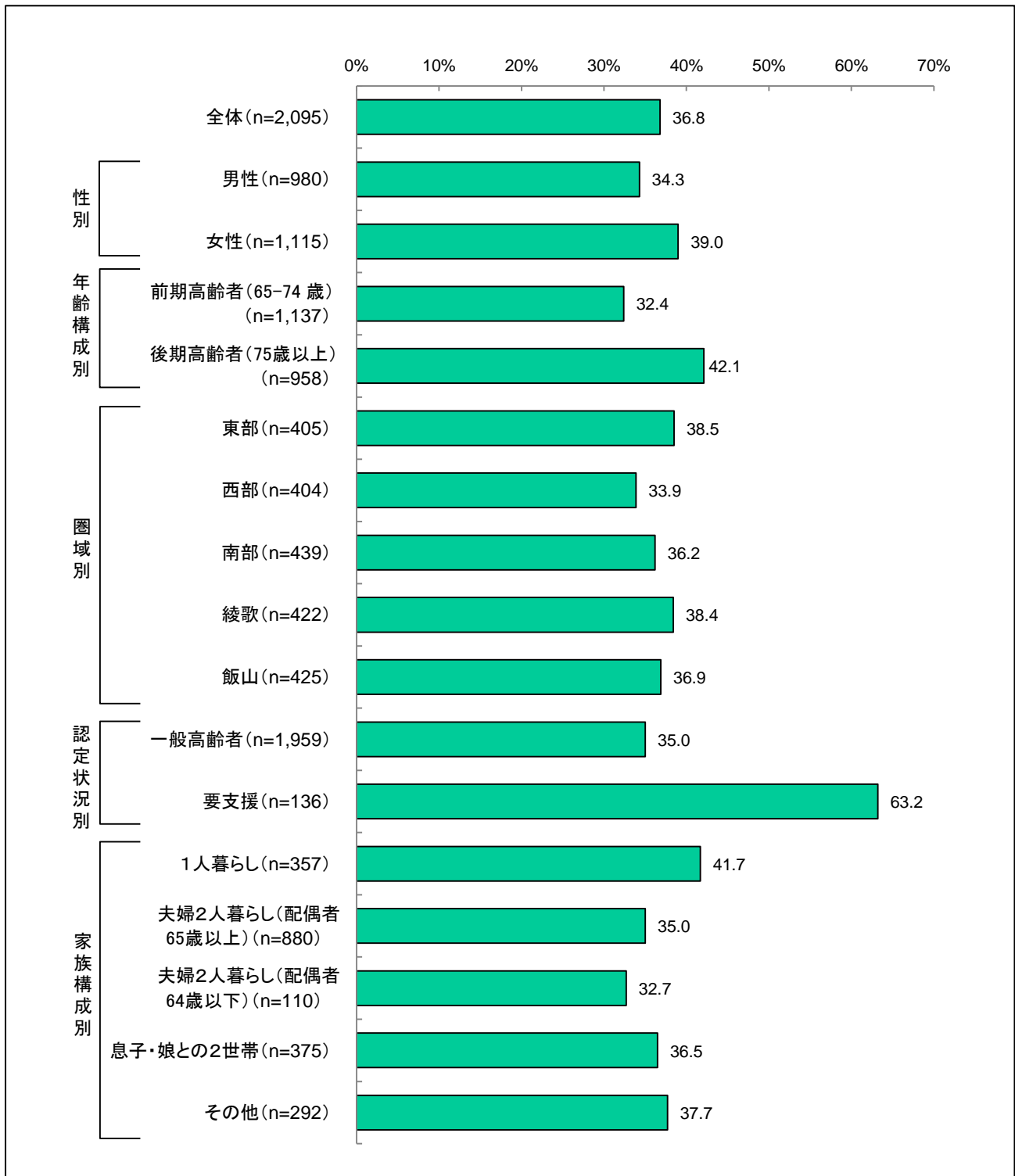
認定状況別にみると、要支援（63.2%）が、一般高齢者（35.0%）を 28.2 ポイント上回っています。

家族構成別にみると、該当者の割合が最も高いのは、1人暮らし（41.7%）となっています。

図表 68 転倒リスクの該当者の割合（全体）



図表 69 転倒リスクの該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別、家族構成別)



### (3) 閉じこもり傾向

#### 【全体の傾向】

閉じこもり傾向リスク該当者の割合は、16.2%となっています。

#### 【属性別の傾向】

性別にみると、女性（17.9%）が、男性（14.3%）を3.6ポイント上回っています。

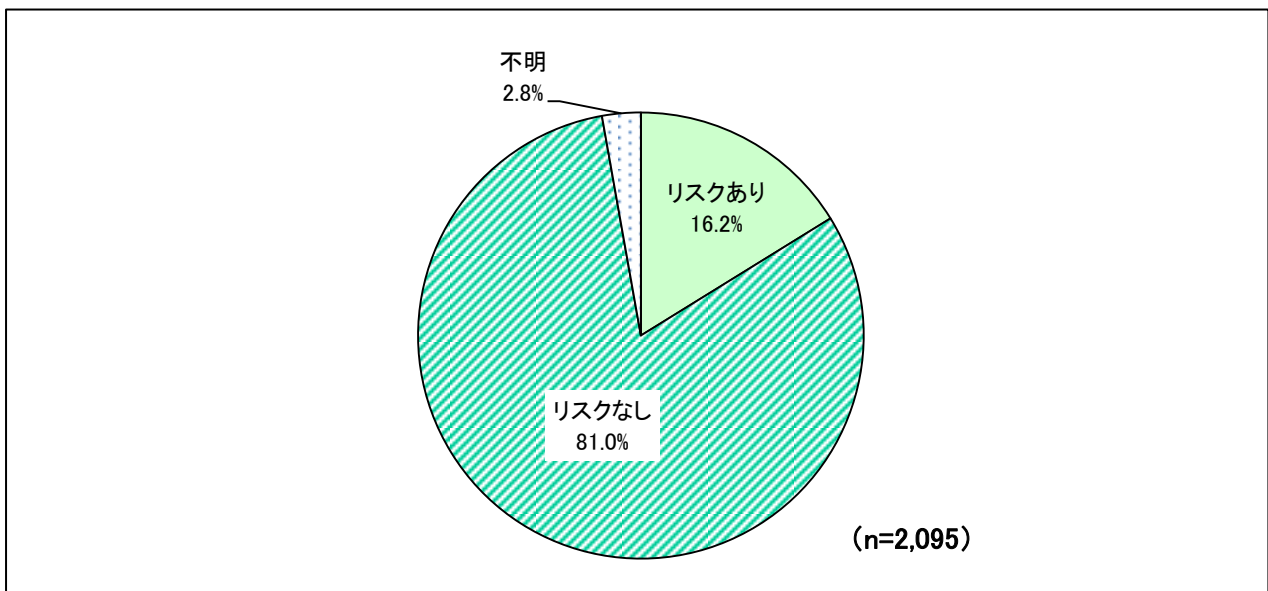
年齢構成別にみると、後期高齢者（24.3%）が、前期高齢者（9.4%）を14.9ポイント上回っています。

圏域別にみると、該当者の割合が最も高いのは、南部（17.8%）となっています。

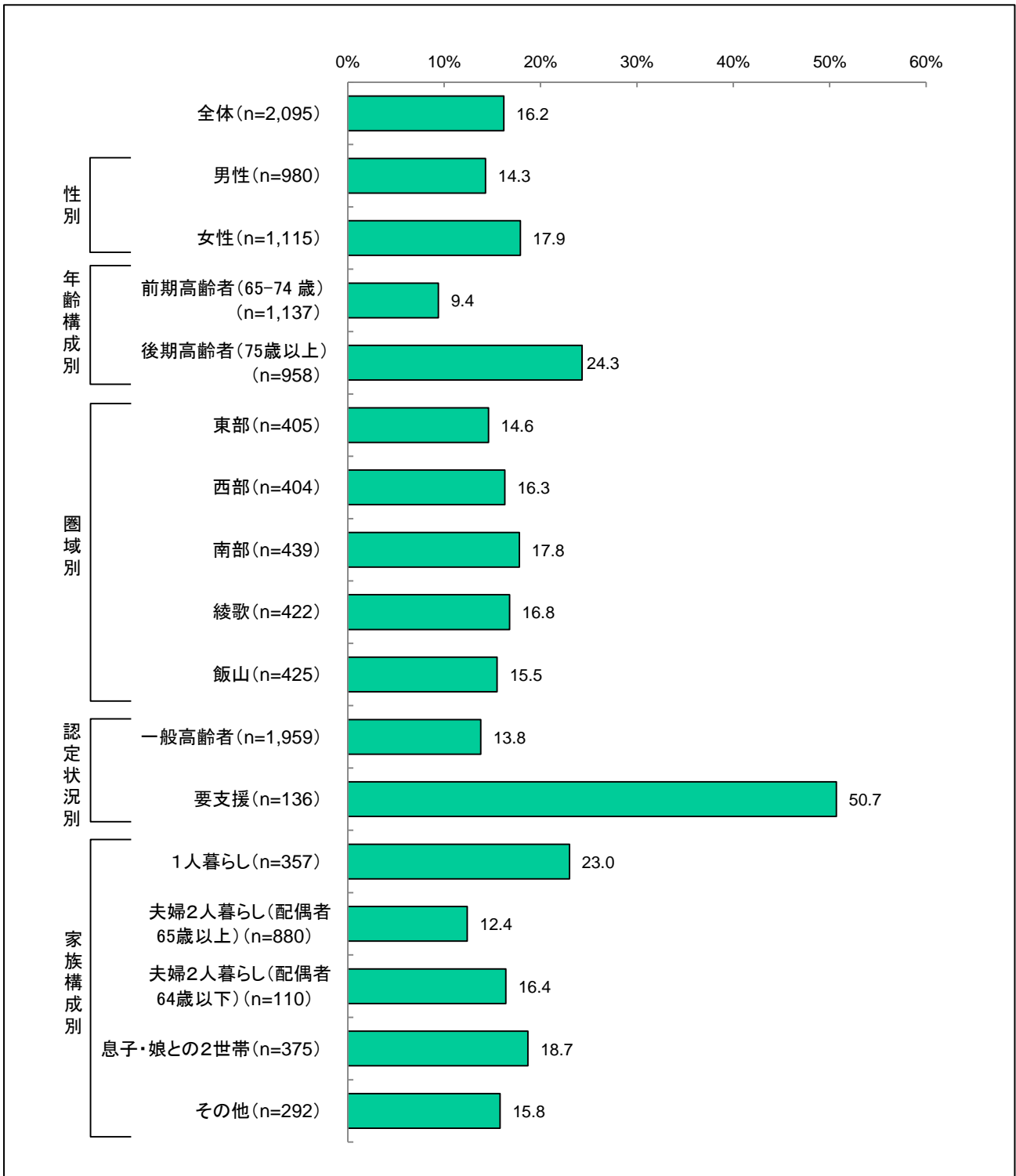
認定状況別にみると、要支援（50.7%）が、一般高齢者（13.8%）を36.9ポイント上回っています。

家族構成別にみると、該当者の割合が最も高いのは、1人暮らし（23.0%）となっています。

図表 70 閉じこもり傾向の該当者の割合（全体）



図表 71 閉じこもり傾向の該当者の割合  
 (全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別、家族構成別)





#### (4) 認知機能の低下

##### 【全体の傾向】

認知機能低下リスク該当者の割合は、45.8%となっています。

##### 【属性別の傾向】

性別にみると、女性（48.3%）が、男性（42.9%）を5.4ポイント上回っています。

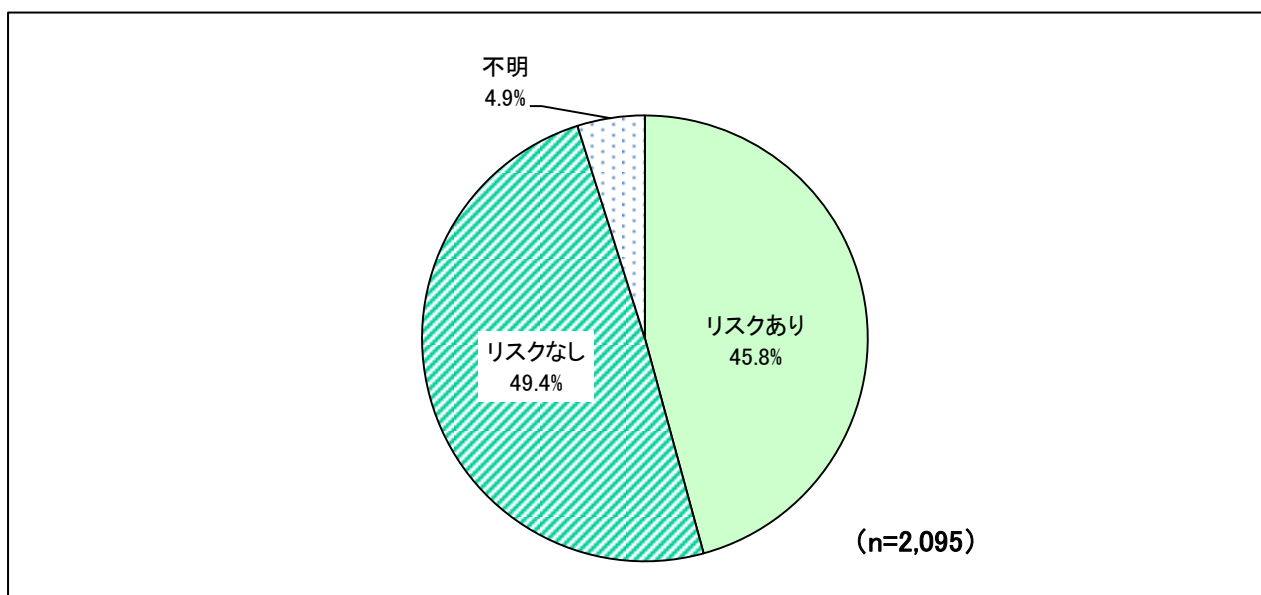
年齢構成別にみると、後期高齢者（50.1%）が、前期高齢者（42.1%）を8.0ポイント上回っています。

圏域別にみると、該当者の割合が最も高いのは、綾歌（52.4%）となっています。

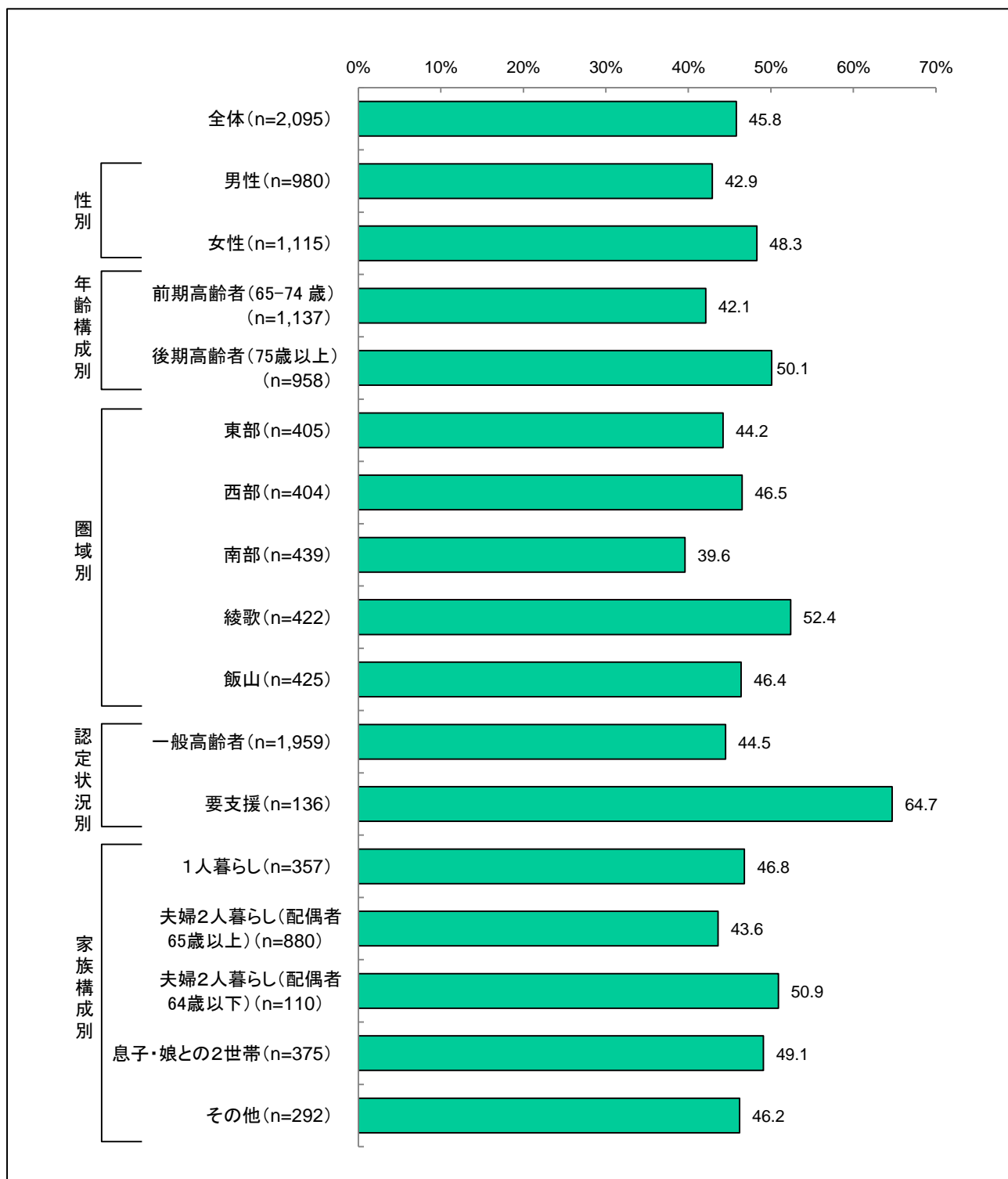
認定状況別にみると、要支援（64.7%）が、一般高齢者（44.5%）を20.2ポイント上回っています。

家族構成別にみると、該当者の割合が最も高いのは、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）（50.9%）となっています。

図表 72 認知機能の低下の該当者の割合（全体）



図表 73 認知機能の低下の該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別、家族構成別)



## (5) うつ傾向

### 【全体の傾向】

うつ傾向リスク該当者の割合は、36.8%となっています。

### 【属性別の傾向】

性別にみると、女性（39.2%）が、男性（34.1%）を5.1ポイント上回っています。

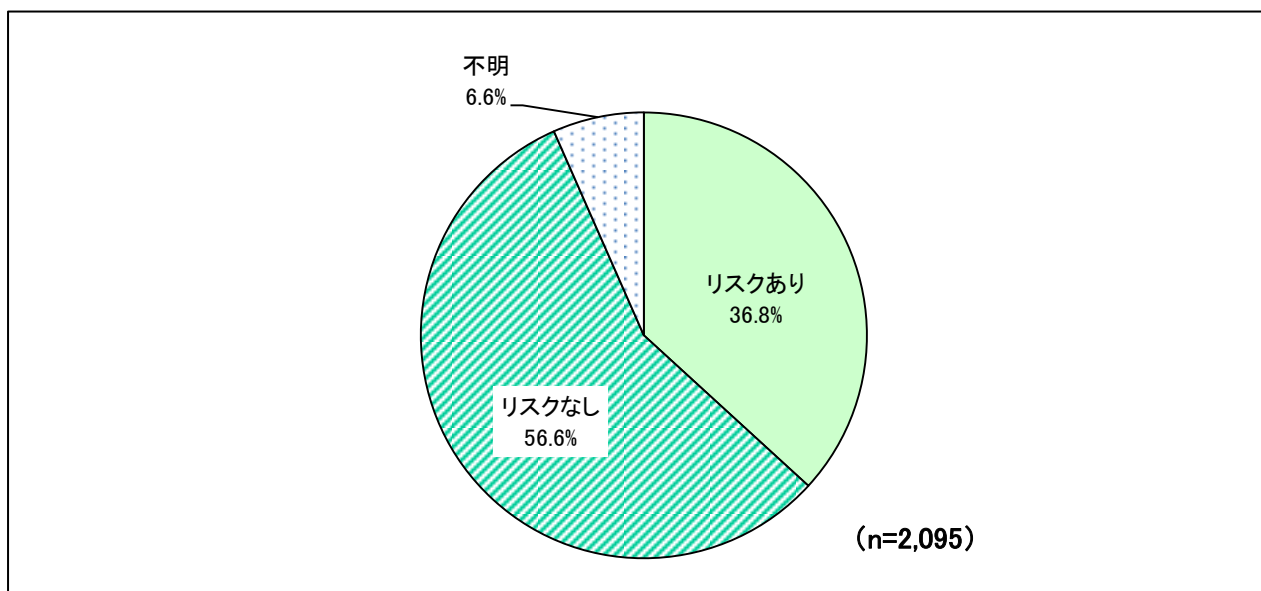
年齢構成別にみると、前期高齢者（37.3%）が、後期高齢者（36.2%）を1.1ポイント上回っています。

圏域別にみると、該当者の割合が最も高いのは、綾歌（39.8%）となっています。

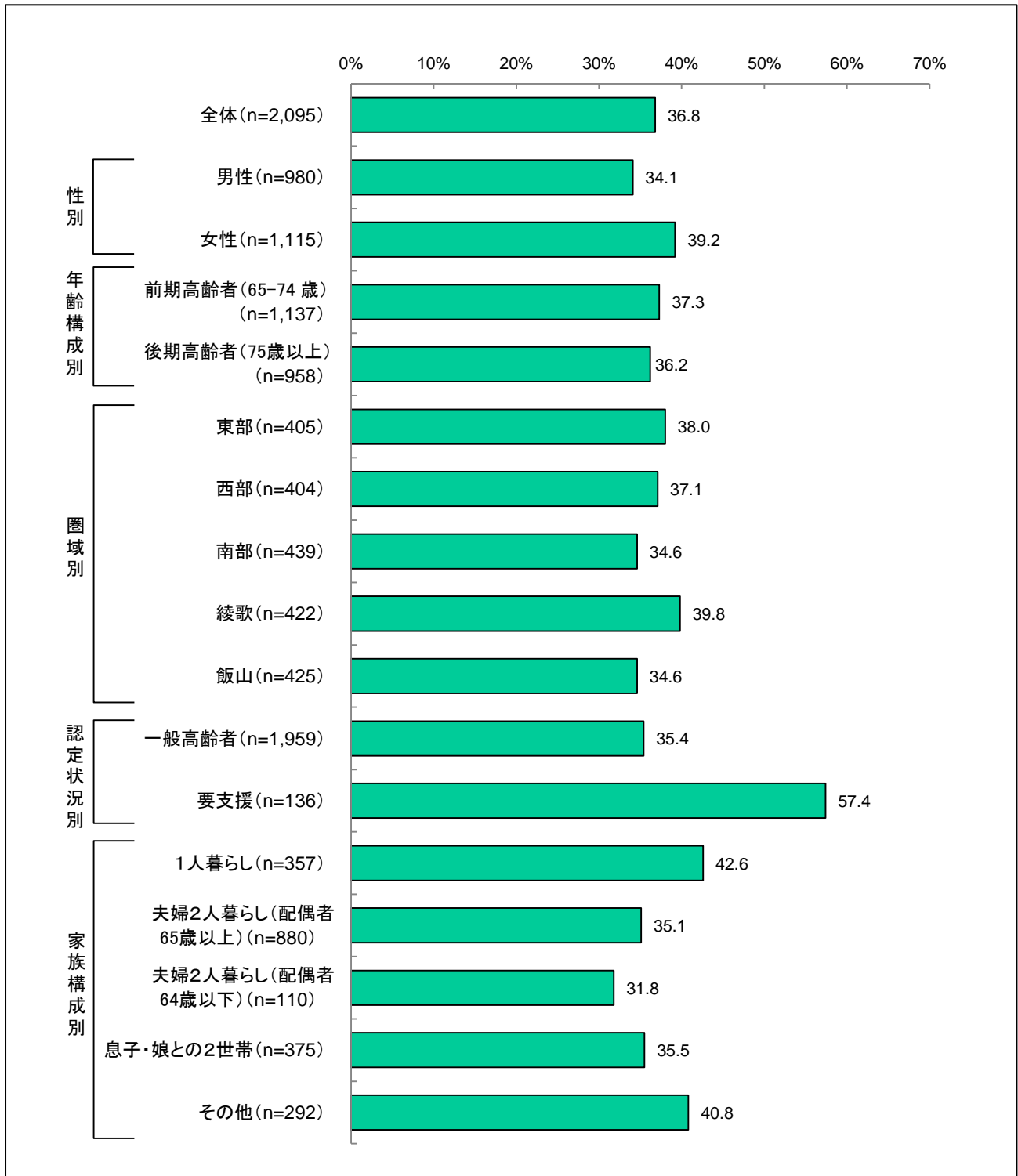
認定状況別にみると、要支援（57.4%）が、一般高齢者（35.4%）を22.0ポイント上回っています。

家族構成別にみると、該当者の割合が最も高いのは、1人暮らし（42.6%）となっています。

図表 74 うつ傾向の該当者の割合（全体）



図表 75 うつ傾向の該当者の割合  
 (全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別、家族構成別)



## (6) IADL－手段的日常動作

### 【全体の傾向】

IADLのスコアについては、「高い（5点）」が78.6%と約8割を占めています。

### 【属性別の傾向】

性別にみると、「高い（5点）」は女性が男性を上回っていますが、「低い（0～3点）」も女性が上回っており、「やや低い（4点）」は男性の方が高くなっています。

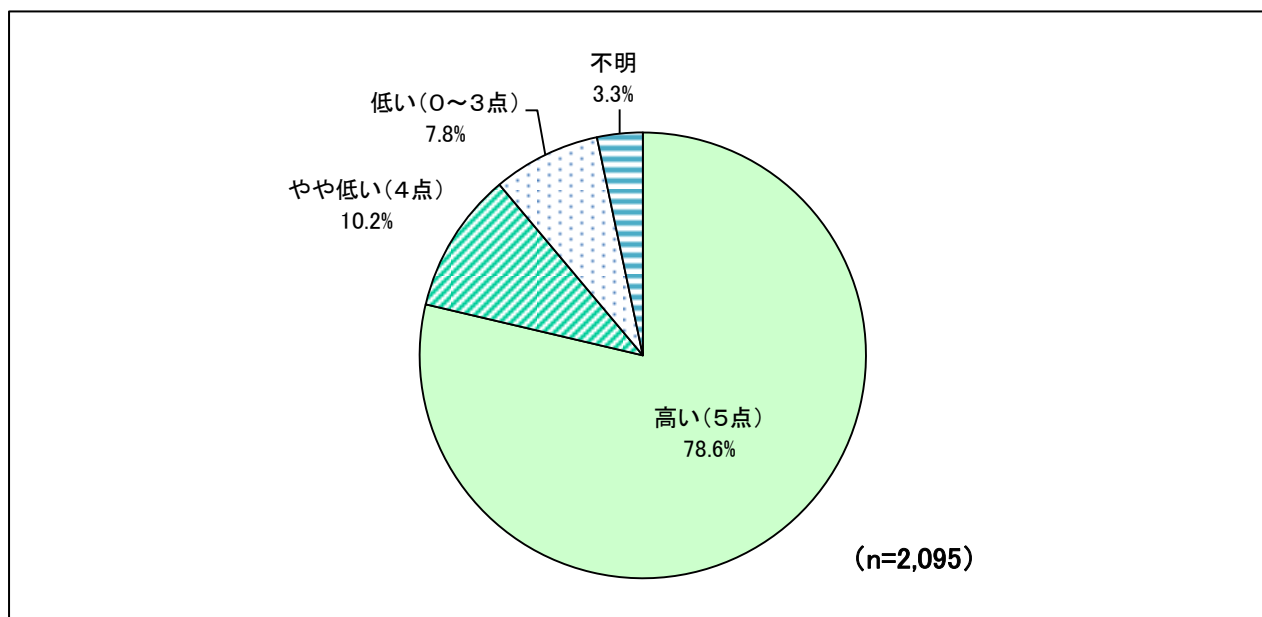
年齢構成別にみると、「高い（5点）」は前期高齢者が後期高齢者を上回っています。一方、「低い（0～3点）」は後期高齢者の方が高くなっており、その割合は前期高齢者の3倍以上となっています。

圏域別にみると、「高い（5点）」が最も高いのは、綾歌（80.8%）となっています。

認定状況別にみると、要支援の「低い（0～3点）」の割合は、一般高齢者の約8倍となっています。

家族構成別にみると、「高い（5点）」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が最も高くなっています。

図表 76 IADL－手段的日常動作（全体）



図表 77 IADL-手段の日常動作  
(全体、性別、年齢構成別、圏域別、認定状況別、家族構成別)

